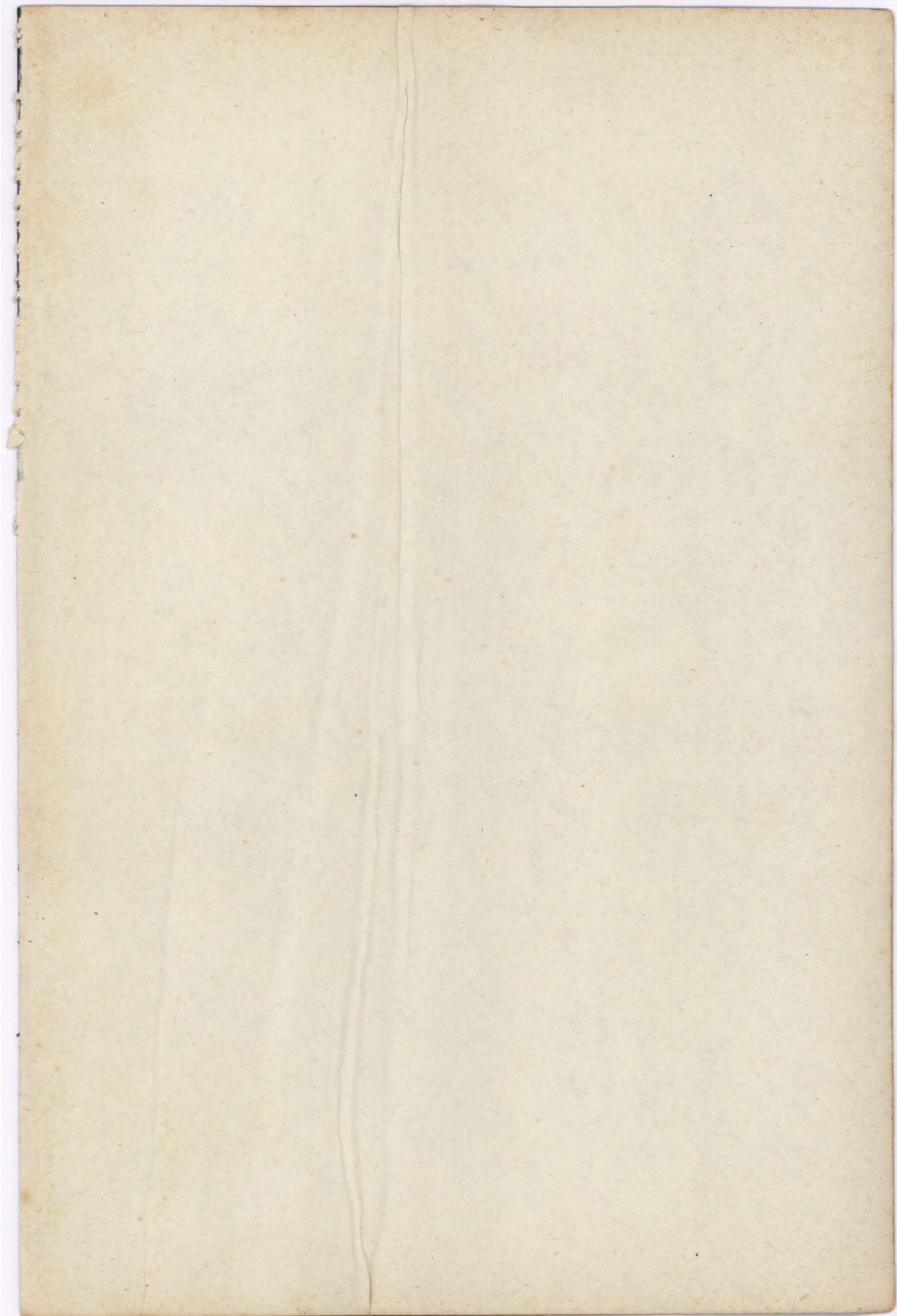
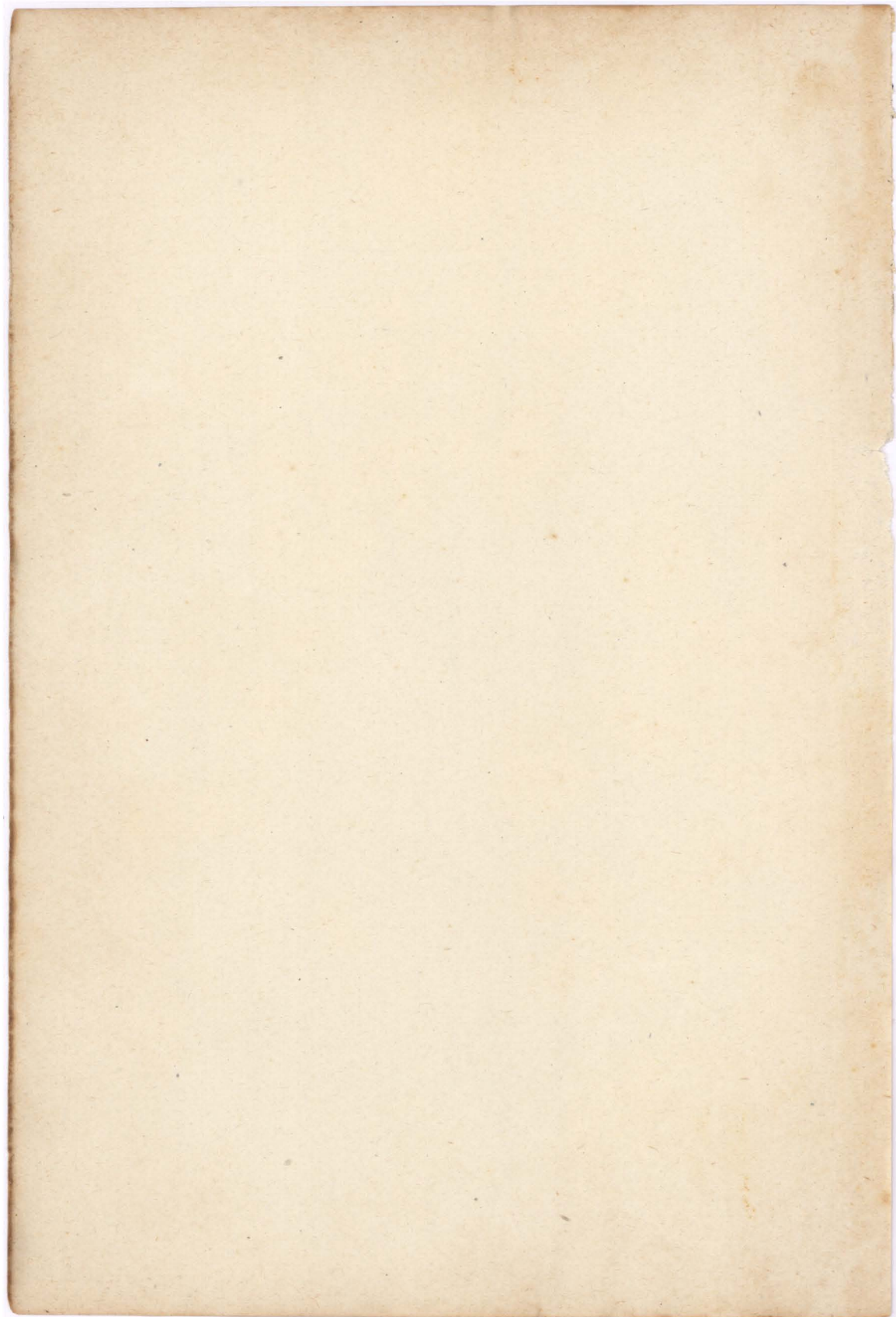


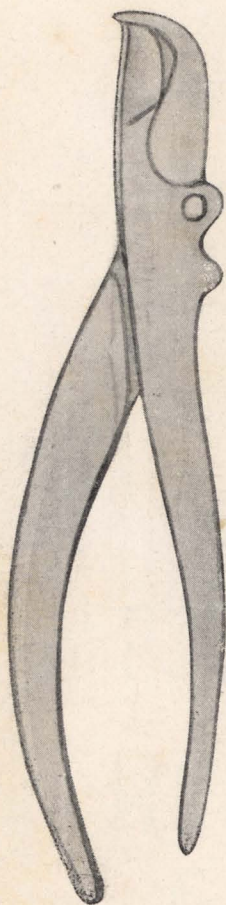
刀
林

九
號









九

九

九



1934.

刀林 第九号 目次

祝賀 (論文通過・昇格)

敬迎 (新入局・歸局)

送別 (入替・其他)

祝賀 (結婚・出産)

同窓會

診療餘談 評判の獸醫と灸師 大庭國紀 (一)

發展者の地方を聞く

小樽地方のスキ 太郎生 (四)

釧路より 小野田 (一)

石巻より 上石英造 (二)

房州から 渡邊治生 (二六)

鎌倉より 大庭國紀 (三一)

學
術

富士見便り……………中村武重 (四〇)

清水港より……………板橋剛 (四三)

伊勢だより……………富田勝郎 (四六)

風水禍……………中村次郎 (四九)

北九州から……………成松清敏 (五四)

鰹釣りのひととき……………寺田恭三 (五六)

ゴルフ漫言……………太郎生 (五九)

通信欄…………… (六四)

謝恩觀劇會…………… (八〇)

同窓會報告…………… (八一)

同窓會員寫アルBUM…………… (八三)

御禮…………… (八四)

外科學會…………… (八五)

整形外科學會……………(八六)

慶應醫學會總會……………(八七)

宿題報告擔當に際して……………野崎記(八七)

外科教室ヨリ発表セシ文献……………(八九)

整形外科教室ヨリ発表セシ文献……………(九一)

外科集談會・整形外科集談會……………(九五)

日本泌尿器學會集談……………(九七)

抄讀會……………(九七)

醫局

醫局近況概略……………(一〇三) 下谷病院雜感……………TK(一二八)

本年度病棟種拾ひ……………HSM T(一〇九) 福澤先生誕生百年祭……………高橋(一三三)

新入局員歓迎息怒川温泉行記……………(一一八) 食研動物座談會……………比古(一三八)

警友漫談……………土方生(一二一) 新入局員紹介……………菅(一四五)

阿里山見物の記

茂木藏之助 (一五五)

海で三ヶ月…………… 鍋島 記 (一六九)

生臭坊主…………… 鈎ピン生 (二二四)

スキーだより…………… 田無珍生 (一七五)

キンチマ先生歓迎會…………… H S M T (二二五)

参謀長命令…………… のらくら軍医 (一八四)

野球見物小景…………… H S M T (二二六)

色ざんげ…………… 草庵 翁 (一九一)

退屈當直問答…………… H S M T (二二七)

霧ヶ崎スキー行…………… 伊藤 記 (一九五)

廁 中 閑…………… 鈎ピン生 (二二八)

廁中校正…………… 小便小僧 (一九九)

或る土曜日の医局風景…………… H S M T (二二九)

忠子の話…………… み の ろ (二〇一)

血液型餘談…………… A・H 生 (二三七)

浅草の記…………… 姚 瑟 若 (二〇五)

秋季雜吟…………… 中村武重 (二四四)

御挨拶に代えて…………… 景 凌 瀟 (二〇七)

ヨ ッ ト…………… 治 生 (二四五)

幼き秋…………… H S M T (二〇九)

醫局の子守唄…………… H S M T (二四六)

四季四題…………… 丸橋嬌宛 (二一三)

雨…………… 治 生 (二四八)

たばごと…………… T S U N E (二二〇)

医局オハラ節…………… H S M T (二四九)

異物奇談…………… M M T N (二二三)

續医局オハラ節…………… T M R (二五〇)

スポーツと救護

鏡ヶ浦暮色……………治生 (二五二)
 踏歩……………S O S (二五三)
 紙折の鶴……………治生 (二五四)

獨り寝……………H S M T (二五五)
 寝言……………治生 (二五六)
 外科龍峽小唄……………H S M T (二五七)

対青山外科懇親競技會記事

野球……………小島記 (二五九)

昭和九年スキー便り……………田無珍生 (二八〇)
 關温泉スキー日記……………S O S (二八三)

水上競技……………渡記 (二六三)

赤城山スキー行……………修二 (二八六)

継走……………伊藤目記 (二六四)

医局の野球……………古山記 (二八九)

懇親競演録……………島田記 (二六六)

外科野球の延長……………H S M T (二九五)

蹴球……………長坂記 (二六九)

医局対枕A級リレー……………伊藤記 (二九八)

ヨット遊び……………比古 (二七二)

救護一求……………(三〇〇)

医局庭球リーグ奮戦劇……………秀坊生 (二七四)

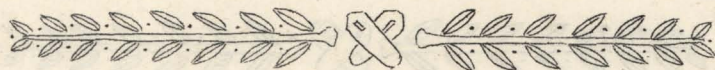
富士救護を語る……………山田庸 (三〇一)

医局だより……………(三〇九)

名簿……………(三二三)

編輯後記……………(三三三)

祝 賀



論文通過

大曾根幾次郎君 (昭和九年一月)

岩原寅猪君 (全)

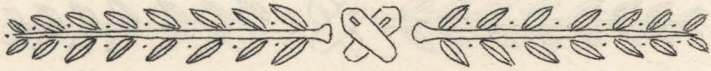
昇格

土方久顯君 講師 (昭和九年一月)

照井侃君 全 (全)

岩原寅猪君 助教授 (全 五月)

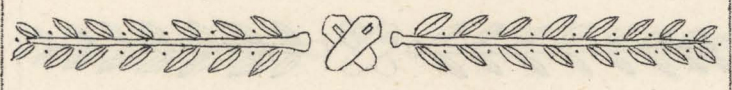
迎 歡



新入局

門橋	古山	梅村六郎君	久崎章君	小泉次郎君	竹内實君	菅千里君	渡津隼君	大内正夫君	今井秀雄君	山田迪君	佐藤憲一君
勇君	實君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
(福山聯隊ヨリ)	(近歩三聯隊ヨリ)	(梅村病院ヨリ)	(七回生)	(十一回生)	(全)	(全)	(全)	(全)	(九回生)	(九回生)	(十一回生)
			八月	九月	佐藤壽郎君	小島茂君	山田庸夫君	葛原信一君	鴉澤敏三君	全	三月
			(生理學教室ヨリ)	(濟生會外科ヨリ)	君	君	君	君	君	(辭訓學教室ヨリ)	(梅村病院ヨリ)

送 別



大岡 保司 君 八年十二月 (近歩四聯隊へ)

古川 明 君 九年一月 (生理学教室へ)

相見 三郎 君 全三三月 (録陽滿鉄医院へ)

板橋 剛 君 全五月 (清水市立病院へ)

木村 知孝 君 全 (金澤市金城病院へ)

中村 次郎 君 全六月 (大阪ニテ自宅開業)

小野田 章 君 全七月 (釧路博濟病院へ)

萩尾 又八 君 全十月 (青森増田分院へ)



木村先生畫
前田先生書



茂木先生書
木村先生畫



Text impression, possibly a title or date, located below the left stamp.

Text impression, possibly a title or date, located below the right stamp.

同窓會

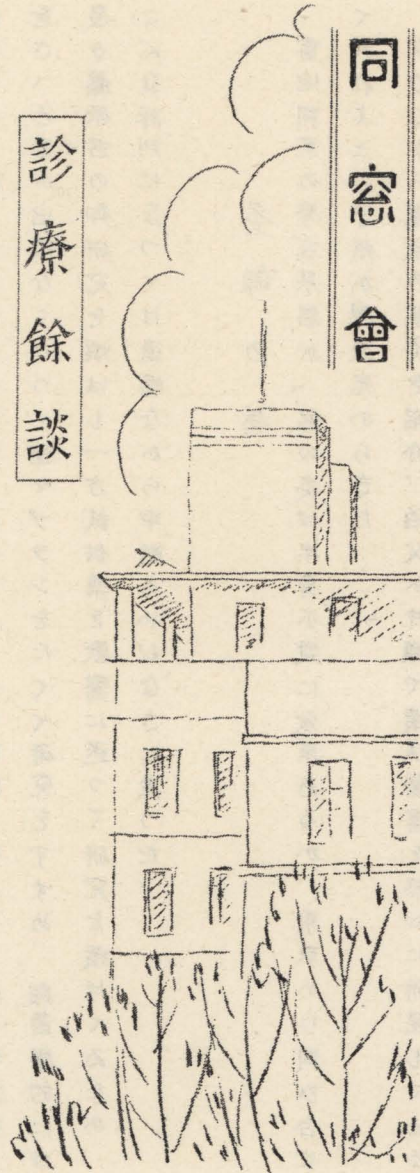
診療餘談

評判の獸醫と灸師

大庭國紀

獸醫の卷

「私は御存じの〇〇ですが、犬がチステンパーで△△家畜病院に入院して非常に重態ですから是非往診して戴きたい……」と深夜の電話、〇〇氏は禁山で開業してゐる醫家、種々後援をうけてゐる。で早速家庭の方なら見舞に行くべきではあるが、如何に懇意にしてゐる獸醫の病院と云へ、「往診」と云ふ言葉が



問題になる。死にきまつてゐる。行きたい、屍がほしい、と思つたが婉曲に断つた。如何して自分が獸醫に見えるかしら？

某地の警察署から「貴院ヂステンパーの注射液の用法及び價格御一報……」
どうも恐縮汗顔、早速私の意を披瀝して目下試験液だし御期待に添ふ事のむづかしい事を申し送つた。私の餘技とも申すべきか、あまりにもその他の方面でもひゞくし、更に外來に犬をつれてこられるし、遂に獸醫にでもなされるのではないかと感じた。この十年間に多い年は一年に四頭も死んだし例の智識慾をさへる事が出来なくなつて種々プランをたてて研究をすすめ、細菌學的には度々藤原君の御研究を煩はし一方試供薬を獸醫に送つて研究を續けてゐたが、こんな評判になつては遺憾ながら中断のやむなきに至つた。

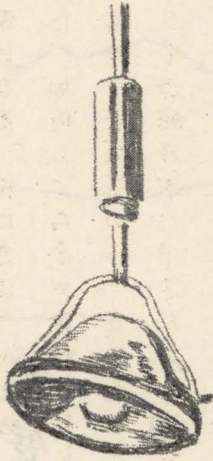
灸師の巻

當地開業の學友某君が「君の灸は半身不隨に效果あるか、東京から問ひ合せて呉れよとの手紙が親族先からきた……」
笑ひながら東京の某灸を紹介、伯父が片頼で漢法醫書を熱心に研究してゐる

ので、灸に對しては関心を持つてゐるので、患者に時々試みたのが、又ヂステンバーの時の様になりかけた。

最近では電話なり、使の者が来る。

益々灸の関心もあぶなくなつた。而して今度は人類だから犬の場合の様ではなく、よく殊に適應を考慮し、灸一天張りの危険を説いてゐる。私の変法とでも申すものを試しかけた昨今また一頓挫とは。



「ハ公、また

お灸かい」

「またとなんてい

今度の灸は

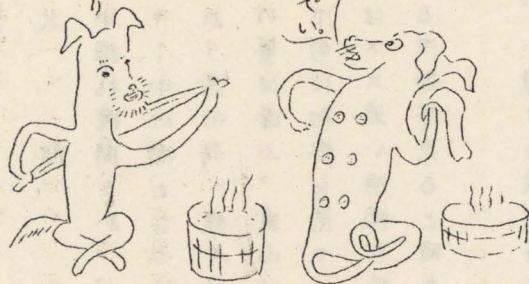
効いたぜ!!

だが先生が

まだあんまり

ひろめて

くれんなよとさ」



發展者の地方を聞く

小樽地方のスキー

太 郎 生

北海道は地勢上其の西北側即ち、小樽札幌間とか、ニセコアンの方に雪が深く、本道のスキー中心地となつて居る。實際ひどい時は「此の下に町あり高田哉」程ではないが、随分積る。年々によつて雪の量は違ふ。奥山は九月終りに降雪を見るが、里は十月下旬に初雪を見て、十一月には一面に白くなる。冬の間は下黒い陰惨な感じのするものだ。吹雪に難航してゐる汽船等見ると憐れに



思ふ。

雪に閉ぢ込められるとスキー屋がアチコチに店を出す。小樽は丘陵地帯だから全市到る處ゲレンデで、何處でも小供はスキー、橇、スケートで遊んで居る。

小學生や中學生はスキーが正科になつてゐる位だから實に上手なものだ。二枚の板片が彼等には足の延長としか思はれない。

いつそや天狗山へ登つた時であるが、奥の方からやつて來た中學生が普通余り下らない急峻な冬道を滑り出した。始めの中はボーゲンを描いて居たが、其の内、直滑降、斜滑降、ジヤンピングターンを織り混せて森やブツシユの中を脱兎の如く遙か麓の方へ豆粒となつて消えてしまつた。其の間五分とはかからないのだから。一度とて峻しい處で轉倒したので、流石の彼もやつたなと思つたが、一廻轉するやすぐさま起ち直つて滑り出した。それが瞬間的で一つのテクニツクと思はれた。其の鮮さは今も尚目に残る様である。

小樽を中心としてスキーツールに好適な山としては、小樽では天狗山、拾古發山、遠藤山、丸山、大毛無山、東南には毛無山に朝里山、余市岳に白井岳等があり、鏡函方面には手稻、興手稻、春香山等があり、定山溪方面には札幌岳空沼岳、無意根岳等がある。倶知安方面には善い山がある。蝦夷富士はスキーより、雪中登山でアイゼンの要る山である。ワイスホルン、ニセコアン、チセスプリの諸峯は北海道スキー地の王座である。十勝岳は有名であるが少し離れ

のある山である。麓迄三十分位で行ける。標高五百米そこ／＼の山で四十分位で頂上に登れる。頂上からは小樽市が足下に見え、石狩から増毛の連山、塩谷、蘭島、日本海の何分の一かを眺めると、すっかり俗塵を離れた氣がする。よく日曜には病院揃つて出掛けたものだ。

拾古發や遠藤山には白樺の樹林帯があつて全く北海道氣分がする。三時間位のコースだが丸山や朝里岳は一寸難物である。丸山は九時間位はかゝるし、朝里は麓のヒュツテに一泊して行かなくてはならぬ。朝里は山といふより、だだ／＼の広い高原で余市岳、白井岳が聳えてゐる。早春にも屢々熊の姿を見るさうだ。此の山は仲々難所で、吹雪かるとさつぱり見當がつかなくなつて、しつかりしたりーダーを連れて行かないと遭難ものである。

北海道では雪崩の被害はないが吹雪でやられる事がある。お山の天氣は猫の目の如く変り、雪足も早い、倶利伽羅部のガツチリした連中が吹雪かれてひどい目に遭つたのも此の山だ。迷ふと磁石さへ、あべこべに見えて、とんだ間違ひを來す。錯覺状態に陥ちるらしい。然しお天氣のよい時は此のただだつ廣い高原を縦横無盡にふつ飛ばして歸る愉快さは又格別である。

手稲、奥手稲、春香山等錢函附近の山々は札幌のスキーヤーによつて賑ふ。

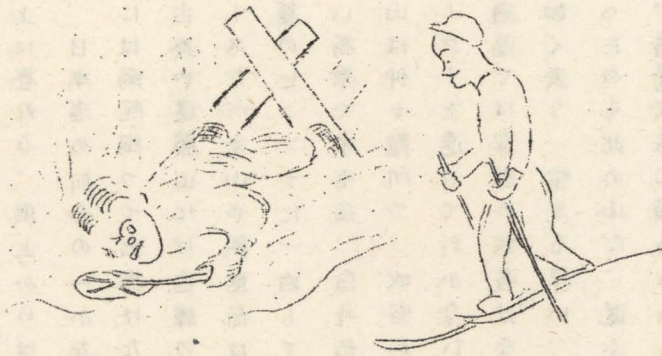
八

札幌の組には女流がよく混つて居る。雪焼けした健康さうな顔をして、雁皮の樹間を軟く滑つて居るのを見る。

家族連れのパartyではお父ちゃんより十位の小俣の方が遙に上手なのが多い。立派にクリスチヤニアをやるんだから、セオリスト顔負けだ。

手稲の辺の山は大体千米位はある。北海道の山はそんなに高くはない、二千米も越せば高い方だ。然し緯度の関係で高山的特長は何の山にもある。

頂上から見れば九十九谷の如く、細く起伏した尾根が無数に並んで居る。大きな蝦夷松を縫ひ時には小枝の下を潜つて、彼處此處から滑つ



て来るのを見ると、宛然ら映画の様だ。

奥手稻は錢函から登る。逆もや、こしいので推奨は出来ないが、ヒユツテの附近ユートピアは其の名の如く大変美しい處である。タンネの森だ。も少し奥にヘルベチアヒユツテが白樺の原始林に圍まれて在る。

定山溪方面の山へは早朝行くか、一泊しなくてはならぬ。札幌岳は定山溪の一寸手前の瀧の澤から登る。是非物凄い山で、殆ど垂直に近い山腹をキツクタイン一点張りで登る。余りにも峻しく、藤蔓や木の根にしつかり、しがみつき上の者のスキーは我が頭の上に、下の者は声はすれど姿は見えずで、此の間約六七百米全く冷汗をかいて登った。鞍部は剃刀の如く左へ落ちたら助かるまい。頂上は廣く、無樹帯で雪娘が方々に立つて居る。雪庇が方々に出来て居る。下りに雪庇に引掛つて美事なトンボ返りを打つたのには我乍ら苦笑せざるを得なかつた。下りのコースは澤つたひに定山溪に向ふが、上りに負けない相當ひどい澤だ。麓に行く緩いスロープで宛もレールの様な二本のスプールの間に乗れば、手ふらで煙草でも喫みながら汽車の様に滑らかに滑って定山溪に行ける。スプールのレールは仲々愉快なものだ。先刻の苦勞は何處へやら。同じく定山溪に

根椽を置く無意根岳は大きな山の一つだ。定山溪か、薄別に一泊しなくてはいかぬ。朝五時に起きて山頂には晝頃着く。此の頂上は無樹帯で、雪娘が方々に立って荒涼たるものである。頂上近くはずつと遅く迄雪が消えず、七月頃迄選手がヒユツテに合宿してジヤンプに精進して居る。北海道の選手が強いのも宜なる哉である。

俱知安方面の山々には早く雪が訪れる。ワイスホルンは天氣さへ良ければ実に愉快な山だ。馬蹄形をなして一方から上つて他方へ下る。直滑降三千米と称して幅も廣く一直線に何十人も一度に滑る事が出来る。殆ど木が無いから思ひ切り滑る事が出来る。ワイスの頂上から見た景色は実に素晴らしい。蝦夷富士の雄姿は巖然と東に聳え、ニセロ、イワオ、イワナイ岳等の諸連峰、白涯々、北極地方も斯くやと思はれる。是等の麓には温泉があり、東京から訪れる猛者には一週間も籠つたらすつかり堪能するだらうと思ふ。

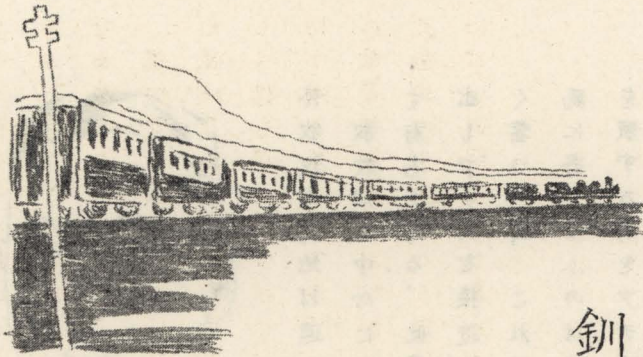
釧路だより

H · O · 生

(一) 釧路と題して

「大平洋上に突出せる小半島上に位し、北西南に海を控へ、東は春採湖に對する北海道六大都市の一つとして人口五萬參千を算し木材漁業の集散地なり」と云ふのは地理教科書の一節であるが、將にその通り、殊に春採を越えた東方の一面は湖沼荒蕪の地であつて如何にも水と因縁が深い。此の東方湖沼の間には豊富なる炭山を秘しそれは釧路市に迄及んで居るので一旦緩急の其節は當市も掘り返される運命にあると言へる。

夏期は七十度前後しか昇らないのであるが、冬季は零下二十度或はそれ以下となる。且つ寒流暖流の合流点に當る為、濃霧はひねもす天を蔽ひて風を伴へ

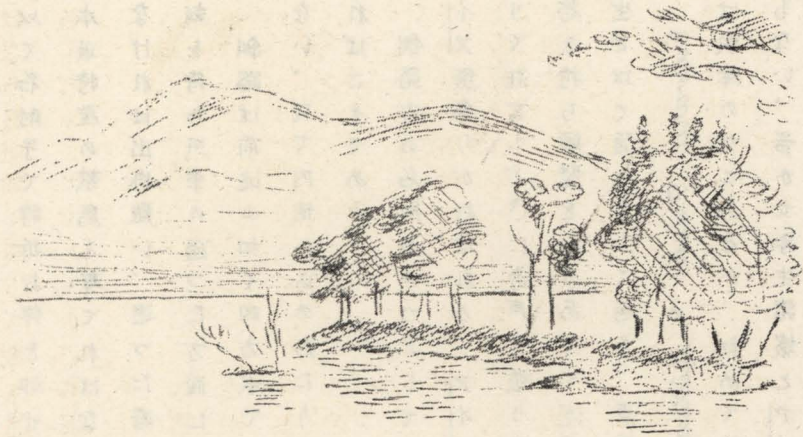


は忽ち暴風雨と変じて傘もさ、れない様な有様となる。北海道一の悪道路とは誰も言ふことであるが、其泥海も晴れれば黄塵万丈の巷と化してしまふ。火事



が多くて風の強い日は警察署總出員消防自動車を先頭に町内を練り歩く様は一寸異様である。ガスの為に樹木が育たない。移植しても直ぐに枯死して、野に樹木乏しく荒地を庭とし濃霧を柵枷とし、僅かに煖爐を抱いて以て自適しなればならないのが吾々釧路人である。連續的に鳴り響く霧笛と太平洋の怒號と出れば郊

外放牧の荒地は適あれど無きが如くゴム長靴の御厄介にならなければならぬ。放牧地の中心に大衆毛オウシミンケといふ處がある。馬市として賑を極め馬の交尾地として有名である。此處にアテ馬といふものがある。交尾後第三日目の牝馬を伴れ出しアテ馬を接近せしめる。牝馬怒つて目を睨らし歯をむき足蹴りしてつれなく當つた時、これは牝馬の身籠つたのを示し、目尻を垂れ鼻を鳴らし、アテ馬に寄り添ふのは牝馬の身籠らざることを示す。このツオンデツク反應の役割を演ずる馬をアテ馬と言ふ。アテ馬は体軀羸せ衰へて喰へども肥らずゴクヌケ



馬である。

この大泉毛迄は釧路市から三里。此處より阿寒川、釧路川を隔て、國有林、阿寒國立公園地帯に入る。晝尚ほ暗い鬱蒼たる密林で、山容美は湖沼の種々相と相俟つて、その離合するところ將に規模壯嚴偉大なるものであつて國立公園の風致として恥かしからざるものである。南画の山水には必ず瀧を見るが、こゝは瀧こそ無きも南画の山水といつてよい。醫局各位様には是非御來遊のほどを不肖簞食靈漿してお待ち申上げらる。

此の國立公園地帯より荒蕪湖沼地に亘つて無数の鳥獸が棲息して居る為獺には極めて好適地である。鉄砲肩に出來たらと残念で耐らない。幸ひ七回生樋口寅郎君が一所に居る。氏は仲々

以て名射手で時折お伴を仰せつかり鳥の名前も覺えた。氏は標本作製の意味で本道特産の禁鳥も撃てればなあと驕肉の嘆を洩らして居る。地勢に詳しい者でなければ出掛難い。迷った時目標とする處は汽車の線路であつて汽車の通る時刻を待ち汽車の通つた方面に向つて進路を捜すしかない。

釧路は前述の如く四方水である。されば魚貝に富むも反對に果實は全然産しない。凡て内地からのわたり物である。煙草の不美味いことも内地と距つて居ればこそである。

釧路市の名所の一つとしてアイヌ古戰場がある。古戰場に於て毎年八月にアイヌ熊祭りが行はれる。アイヌは熊をあしらひつゝ、何とも妙なる不可解の身振り狂言もどきに奇声を張り挙げて舞をまふ。熊は憤然と猛り狂ふ。アイヌは笏を持ち鬚をかきあげて泥酒を飲む。近くに女學校がある為か見物人は女學生を以て隨一として居る。東京の女の血生臭きを好むと好一對である。

Edward Fuchs's Sitten Geschichte 中に、毛深きはラテン女、毛無きは東洋の女とあるが、初めて眺めるアイヌ女の毛深さよ、毛唐女とて比すべくもない。吾が女學生諸嬢とアイヌ女とを好奇の瞳を以て振子運動的に見較べる

時にシヤモの女（アイヌ人は日本人をシヤモと言ふ）の肌のラヌゴーよ!! 春
まだき萌え出る若草の和かに靡き居る風情にも比する時、密黒直太長と磨ぎ澄
した長針が鬱蒼と吾が阿寒密林の如く生へたりとたとへられ、前胸へ西マンマ
の間へ両手足、下腹部、臍の上と密生して居る様は驚嘆の外はない。これが將
に女であつて男ではないのである。然しアイヌ女は極めて貞女にして操堅固な
りと聞く。尚ほ當地方の女學生とは眉目麗はしきお嬢さんに非ず漁夫の成熟嬢
と御了承相成り度し。

(二) 狐と蛔虫

本道には牧場多く、馬が澤山放牧されて居る為、馬の蛔虫卵も到る處に撒布
されてゐる。顕微鏡下に見ると、内地の人の蛔虫の如く橢圓形に非ずしてその
形正圓である。

此の馬蛔虫卵は人糞中より可なを多数に見出され蛔虫卵の正圓なのは北海道
に永く居住したことを意味する。この馬蛔虫卵が狐にも非常に多い。本道養狐
場にて最も苦心するのはこの正圓蛔虫卵である。生れたての仔狐がこの蛔虫の

為に多数に斃れる。狐の解剖によると此蛔虫は十二指腸から膽嚢、肝臓へかけて丁度肝ヂストマの棲息する場所に一致せる感がある。仔狐は生後大抵三週目位にこれにやられる。犬のヂステンパーよりも恐ろしいものと思はれる。犬もさうであるが、狐も良種のもの程これに斃れ易い。

大沼は本道第一の養狐地を有し眺望に秀れた處である。月光を反映する湖畔に近傍の林間に養狐されて居るのを見ると狐も景色を好むものではないかといふ氣がする。

狐の密猟には鉄砲は不向きである。鉄砲の為に皮を傷めては何の為にもならぬ。そこで密猟には硝酸ストリヒニンを用ひる。此れを油場なり圍子なりに含ませて置いとくのさうで、これを食べた狐は数尺或は数間と歩かない中に斃れてしまふ。實に手間の要らない方法ださうである。千島等の農林省の養狐場では、入り込んだ密猟者は發見され次第監視人に銃殺されるさうである。或る程考へると狐の皮も高いはげである。

(三) 熊による外傷往診

内地の熊は穴熊と言ふ。晝は穴の中に蟄居し、夜出でて彷徨する。兎角性温和、やさしい處があると言ふ。人間が嫌ひなのだらう。當地方の熊は罷所謂晝熊で穴熊の夜熊とは反對である。夜寝て晝歩く、時に晝夜の別なく歩く。性獍猛精悍を極め放牧馬の被害も可なり多い。馬を襲ふ時には先づ馬の前脚を一撃の下に打碎き瀕死の重症に陥らしめて後兩前脚を熊は己れの肩に擔き、熊の任居へと運ぶのである。

當地方に於ては熊を別名山のオヤヂと稱し寧ろこの方が通り名である。仲々に人間が好きの様である。

港別と言ふ處がある。本年度は山に餌が少いと見えて罷の村里に出没するのと甚しく、小學校児童が厄に遇ふ事頻りである。村人達額を集めて協議教団の本、熊狩終了迄は小學校の臨時休校止むを得ずといふ事になつて、早速之の由許可相成度と道廳に迄提出したと聞く。

本道の罷は内地の熊と異り月の輪無く、全身赫茶色の色彩を有し斑紋の絶無地の色並である。山のオヤヂと呼ばれる如く鉄無地の容姿も正しく端然と構へて居る。穴熊と同じく本道の熊も蟻が好物である。蟻の多い近くには必ず熊あ

りとは、熊狩りの人の常に念頭ある所なりと聞く。
熊は將に本道の名産であり、到る處に棲息するも、殊に當地方に多く、熊による被害も甚大である。二、三の例を挙げて見ると、



① シヤモの男或る國會議員、アイヌを引具し出獵。山林を彷徨中オヤヂを發見した。オヤヂは奇岩を背後に背水の陣を布く。一彈火蓋を切ると、颯とオヤヂは岩陰に倒れた。あはてものの議員は熊さんである。オヤヂ倒れたそれと前進した時、刷れたオヤヂ猛然と議員の背後を突く。この一撃の拳固は議員の右顔より頭蓋を透徹し去る。慌てふためいたアイヌが吾が病院に来て往診依頼である。行つてみると村民大擧して既に現地であり。熊は射止められて議員と共に並べてある。惨状見るに堪えず。右顔は掻き篋ら肋骨は碎け、

筋は離散し眼は飛び出て、如何ともなし難く、手足胸部凡ての長骨はへレ折られ動かすに章魚を動かすに似たり。

② 農夫夕闇せまり晚食を待ち兼ねて裏の畑の唐黍の茂りに入れは眞黒き偉丈夫あり。唐黍盗みと早合点し一喝前進する時、大口開き憤然と立上り攻撃に轉ぜし罷さん。手に双物とて無く、逃げる術もない。牧童として長じ馬の使役に馴れた男なれば「ウヌ」と突き出した右手の早業熊の口中深く入り込みし手に熊の舌を驚掴みと変し引き抜かんと跪く。お互に上へ下への格闘となる。夕食の膳に夫の名を呼びつゝ、裏畑に来て見れば己が夫のこの有様急いで家へとつて返し、小腸に夫の獵銃を抱へ二撃の後に斃せし妻女の奮闘。然る後本院へ伴ひ来る。顔面は挫滅し出血甚しく一晝夜の後に死。

③ 農夫、唐黍挽がんと吾が畝に入れば眞黒き影の月光に反映するを見る。熊なりと思へども既に遠い。逃げ隠れする程の距離でない。觀念の臍を定め唐黍の間に腹這に倒れて様子如何にと覗ふ。従容然としてのつそり覗ひ寄りし罷さん、眞黒き大脚擧げてのしかゝる。今にも微塵に粉碎するならんと思ひ疼痛全身に冷汗と共に走りて身動きならず。暫く熟考せる熊さん。やおら左下腿に前

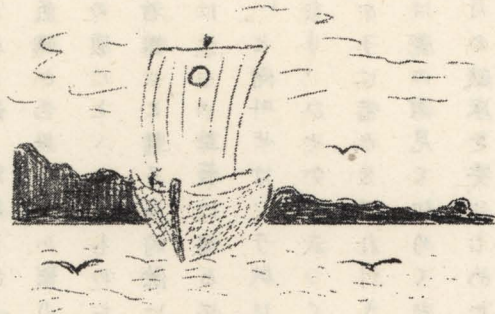
蹶をかけたらしい。猛然たる疼痛に氣も狂はんばかり、生死の間を彷徨しつゝ、ある農夫、動けば一撃の下に倒さるゝとは覺悟し居る身にしあれば、こゝ暫しの冀度胸一番出来る丈け不動の儘、静かに開けし細眼、羆は突然立上りしと共に身は宙に浮遊す。月光に透かして暫し眺め居る風情、月は無情と言ふ勿れ、農夫の其後の述懐、唐黍は見るも穢しく嘔吐を催し月は怨し、よいお月様ですね」等と言はるゝ時撲りつけるのを例とせしとかや。宙に浮きし身体は瞬間に唐黍^上高く拋物線を描き彼方に抛げられしと言ふも既にこの時は無意識中に入りて知らずと云ふ。意識は冷氣によつて吾に復せし時、羆の姿は見當らず、疼痛全身にあつて動き得ざるも恐怖はよく疼痛を鼓舞克己せしめて吾が家に帰る。到着と共に再び無意識渦中に入る。來院せるを診すれば全身諸處に打撲らしきものあるも左大腿内側の筋は迄られ、持筆すべきは強き羆の爪跡である。骨折は無く入院全治せり。

④ 十四才の兒童或日阿寒川川辺に親爺と共に釣糸を垂る。やまべを釣るのである。其日に限り非常に良くかゝる、夜通し釣るを常とするおやぢの事、子供に夜食を用意し持参する様命じて大公望をきめる。小供馳せ帰りし後、夜食と

共に鎌を持参し川辺さして急ぐ。鎌は草を刈りて川辺に憩ふ用意に携帯せるものなり。草藪をかき分けつゝ進みし小児蠶と出會す。小児と蠶、妙なる對稱である。蠶は頭より嘗めてかゝり、一嘗せんとの心意氣ならん。小児は鎌を振り上げ構へをとる。「いゝ」と叫びつゝ前進すれば、蠶も毛を逆立てて大口開けて一步後退す。斯くする事暫時、一度が鎌を頭上の構へより打ち降ろす時、隙を狙ひ居る蠶、怒氣を含み腹患の炎を燃やしつゝ、猛然と襲ひかゝる。子供は吐嗟の氣轉か否無意識か蠶の腹に抱きつく事扁蠶の如し。蠶の前蹴後蹴は決して自己の腹にとゞかぬものださうである。蹴を盛んに空に跳くも小児の体に觸れず、両者轉々と轉る事時餘に及びしと言ふ。親爺余りに子供を歸り邊しと家路づたいに來るや草藪に轉る怪物と吾が子。若しこの時現はれ出でし親爺「此處にあり」と絶叫せば、子供はたちどころに安心して手足を放す。放せば生命無きものなり。ひそかに去つて我が家に馳け込み銃取り來り引金を引かんとするも、我が子に當るを恐れ引き得ず。遂ひに心決し顔面めがけて一彈蠶を捕獲す。子供は親の顔見て初めて安神し氣絶に陥るも活を入れて意識を歸したりと言ふ。三月の就床を要せしめたり。

石巻より

上 石 英 造



三十五反の帆を巻き上げて行くよ仙台石巻!!

と、巷間唄はれつ、今日に到つた石巻港は、其昔、北朝時代の忠臣葛西公の居城で、北上沿岸の一大諸侯の陣地であつたそうです。當地の史蹟家の研究に依ると懼れ多くも大塔宮護良親王は、逆臣足利尊氏の命により逆賊洲辺伊賀守のために弑せられ給ふた事になつて居りますが、あれ程御偉い親王が洲辺が如き者に御首を落され給ふたと云ふ如き事はあり得ない。必ずや鎌倉を御遁れ給ふたに違ひない。即ち鎌倉に弑せられ給はずして、所謂逆賊洲辺が宮の身代りを他に立て自分は宮を護りつゝ、鎌倉より常陸の國に寄られ、常陸より海路遶に北上河口の一漁村、今の石巻港へと御着きとなり、此地に御身を忍ばせ給ひ、数年にして御かくれ遊ばされたと、其証據は数々あります。即ち當地漆町には一王子宮と

云ふ神宮があり、又多福院と云ふ寺には宮が御建設になられたと云ふ吉野先帝の菩提碑があります。其の近郊には御所の入りと云ふ地があり、一條・二條・三條と云ふ橋の名も未だ残つて居ります。又逆臣である洲辺が却つて忠臣にして、今も尚洲辺屋敷と云ふ処も残つて居りますし、當時の隨行者たる忠臣の日野大納言、日下大納言、平塚某と云ふものの末裔と見るべき姓が現今の石巻に非常に多いと云ふことを見ても立證されます。其他の寶物も数々あります。以上の様な古蹟のある所で、其後歳移り月変り時代は伊達正宗侯の時六十二万石の直轄地となり、仙台藩唯一の開港場で、且つ藩の御米倉及び鑄錢場へ現在の私の所は其跡です。として重要地であつて、非常に繁榮した港であつたやうです。其の當時の隆盛なる面影を偲ぶ一句が初頭に掲げた頃となつて現はれたものやうです。

現今の石巻市は人口三万三千、世界三大漁業の一區域たる金華山沖に臨んで大部分海産物及農作物の集散地となつてゐます。特に夏季には港一面輕船で埋められます。仙台より松島を通る電鉄で一時間半、東北本線小牛田駅から一時間、何れも終点になつてゐます。

風習は先づ都會風で地味な処が少なく、割に住み難い方で薬價、手術料等も貸したら最後仲々取れませぬ、田舎としては人情味の薄い方です、前述の葛西公の居城、今の日和山公園は海拔三百尺の高地で、大平洋をバックとして展開する雄大絶佳な展望は日本百景の一たるに恥ぢませぬ。

近海の金華山には参詣人が絶えず、三年間続けて参詣するときつと金持になるそうです。お金の欲しい方は是非お詣りして下さい、何時でも私の処でお宿を致します。

患者の方面を申しますと、外科では盲腸炎は随分あります。次いで筋炎、痔核、骨髓病、骨結核等が非常に多い所です。それに港町特有の梅毒と淋病。殊に夏季漁船入港と同時に入りこむ多数の船員専門の新地と云ふ料理屋の一劃があつて四十軒、酌婦百六十名、所謂紅燈の巷です。藝者は之れに押されて四十名、全然別の所に蟠居してゐます。

終りに恩師茂木先生始め、醫局諸先生の御健康を祝して、石巻音頭へ石巻踊り（）を唄ひつゝ筆を擱きます。

一、港踊りについ夜が明けた、

サツサキタサ、

今日も大漁の、

エーほんに繁昌の船の入り。

婿にとらうか、お嫁に行かうか、

港繁昌の石の巻。

二、わしの心は北上川よ、

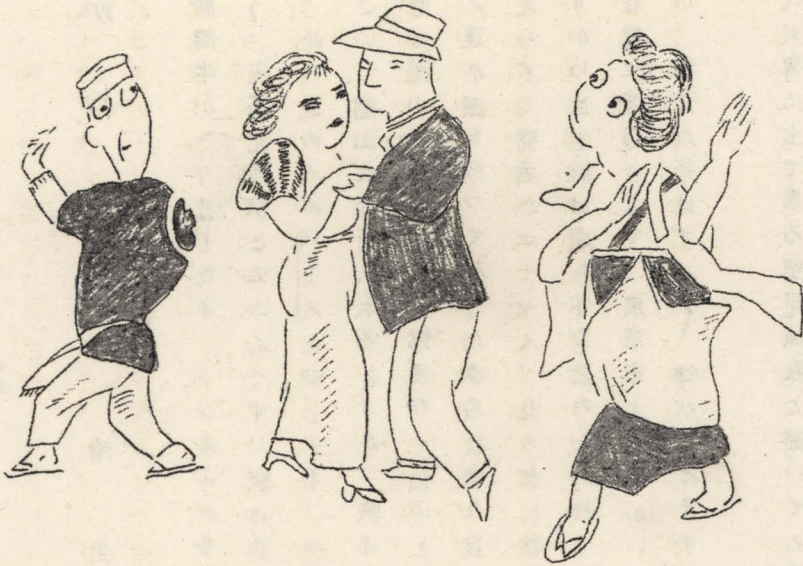
サツサキタサ、

海と逢ひます、

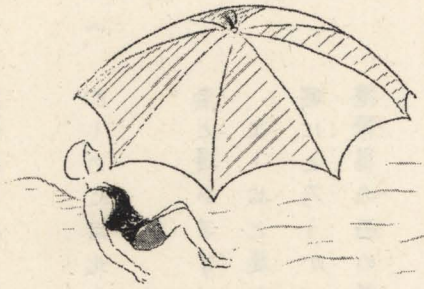
エーぬと逢ひ石の巻、

婿にとらうか、お嫁に行かうか、

港繁昌の石の巻。



房州から
渡辺治生



面國を出て三時間半かゝりましたネ、トンネルが多いのでお疲れでせう。安房北條駅と云ふんです。駅の前は省管バスです。此の辺の人はパスと申します。今日は町を御見物下さい。館山北條町が本名ですが、駅は安房北條駅、航空隊は館山航空隊、館山郵便局で館山と北條の町會議員さん達が頭を絞って付けた本名は余り良い名前ではなかつた様です、人口が二万足らずで醫者が二十七人。此の他に航空隊に軍醫がゐて家族診療迄やってみますから生活難は強ち不景氣のため許りでもありません。新規開業どころか現在既に多過ぎます。東京市より暖かいでせう。着物一枚は違ひます。御覽なさい、水仙の芽はズン／＼伸びてゐますし菜の花ももう年内には咲きますよ。

暖い間に城山に登りませう。此所は八犬傳に出て来る里見城趾と聞いてゐま

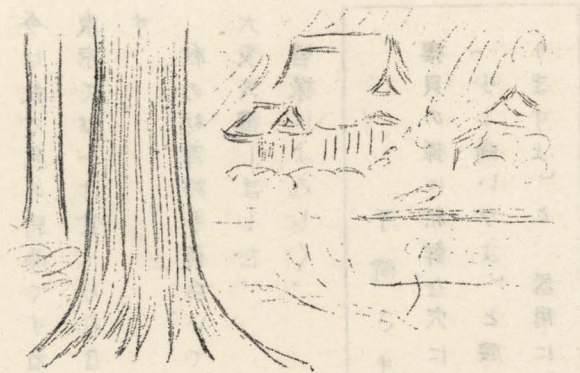
す。此所から見ると町は一目です、前の海は鏡が浦、左手は洲の崎で、沖の島が見えるでせう。唯一の近代建築は海軍航空隊で、飛行場、格納庫等が見えます。小さな軍艦は配属の「椿」です。右の方は太房崎です。此の辺は帝都防備の関門で、寫眞、スケツケ等は皆許可が無ければ出来ません。海の向ふは三浦半島、富士山はあれです。今度は足下を見ませう、残念乍らチツポケな町です。ね。こゝへ来ると何時も悲觀するのです。二階家なんて郵便局の他にはありません。地震以來バラツク流行です。僕の借りてゐる家は坪四十五円で建つたやうです。あれが館山病院です。日清戦争からの開業で、當時は交通も不便で郡下一帯の患者が集り盛んなものだったさうです。其の頃醫師會でもあれは宴會は数日に及び、二階ではお醫者さん達、階下では車屋さん達が徹宵してメートルを上げたものださうです。今はもうそんな勢の良いお醫者さんはこの辺には居りません。不景氣な話です。

日の暮れないうちに海岸を見ませう。波が無くて遠浅で、家族連れの避暑には良いです。夏は仲々賑かです。此頃では毎年聯合艦隊が入港します。ヨツトに衆つて軍艦の間を一巡りして来るのも愉快なものです。此の棧橋が夏には

東京湾汽船の発着所になります。出帆の時はテープを張つて気分を出します。暗くなりましたね、そろそろ帰りませう。道が舗装してあるし、一寸都會情緒がありませんか？。郡内で一番文化の進んだ町なのです。

今朝は飛行機の音で目が覚めたでせう。早くから飛びますからね、内房の鋸山、外房では清澄山等ありますが、今日は小港の鯛見物に往つて見ませう。午後一杯で行かれますから、日蓮上人の誕生の地で、誕生寺の前から船が出ます。舟中に鯛を添めた半纏の前ひで四丁櫓の和船です。三丁許り沖へ出て船頭が先づ舟底を叩きまると、其音で鯛が浮いて來ます。餌を投げてやると、目

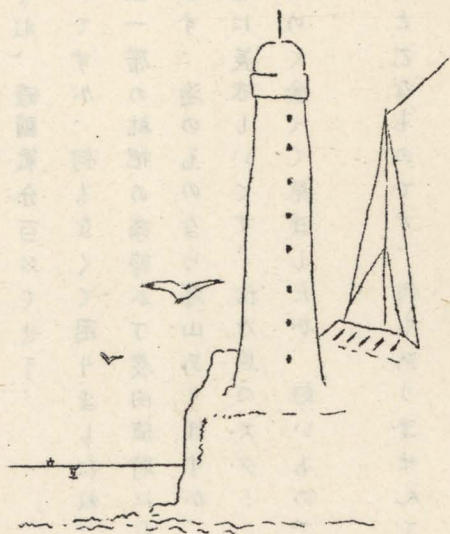




るでせう？ 花が咲くととても美事で
 すよ。野生の水仙は一寸珍らしいです
 ね。この辺のあまり知られない海に非

の下何尺と云ふ大鯛や、その子、其の孫と覺しき
 大小の鯛が、背鰭を表はして餌を争ひます。手を
 出せば掴める程です、か如何せん禁漁區で何とも
 する事が出来ません。実に壯觀です。

半島突端野島崎燈台の辺は特に暖いです。道端
 や山の根を御覽なさい。野生の水仙です。澤山あ



常に良い所があります。海岸に牛がゐますね。暖國氣分百分でせう。

御帰京のお土産に何かお持たせたいのですが、何もなくて困りましたね。富浦附近で汽車から見えたでせう。あの山一帯の枇杷の季節が丁度田植時になりますので、農家では文字通り目を廻します。海のものなら澤山ありますが、今は秋刀魚の時季ですね。新しいのは流石に美味しいです。秋刀魚の又夕！東京では一寸食べられないでせう。僕も始めて食べて見ましたが、好いものです。

秋の初茸狩も面白いです。焼いて食べると乙なものです。何もありませんで大変失禮しました。

皆様によろしく。

手術さまざま 其一

Y M C A

櫻貝の様に新鮮な穴に指を突込んで撫でまばすと、彼女息をはずませ乍ら「少し痛いワよ」と腰をモジ／＼し出せば「も少し／＼!!もうぢき良くなりますよ」と、器用に取り出すのは、木村先生のアツペの手術。

鎌倉より

大庭國紀



相南地方と申しますと、気温に恵まれ明るい豊かな平和の天地と直感いたしますが、この天地も時運と共に各方面に振展し、鎌倉時代の天下の鎌倉Ⅱ相南Ⅱは昭和御聖代では世界の相南ではないかと存じます。南端三崎 城ヶ島のロマンチックの詩も既に世相より遠ざかっていますが、運港大横須賀Ⅱ我々の脳裡は勿論世界の脳裡を、殊にワシントン會議を目前に極度に刺戟してゐるのであります。世界の衆目はこの湘南に注がれてゐるのであります。

鎌倉、逗子、葉山、片瀬、腰越、鵜沼は相南地方の保健地域の大部分を占めてゐます。殊に鎌倉は保健的六、観光的二、前者者に附随する職業二で、主と

して保健的家庭を目標に生活してゐると言つても良い位で、筆者も亦その一人でありませう。斯る土地は吾國でも餘り類あるものではないでせう。

人口は平常約二萬位、夏期は四一八萬位になるとの事でありませう。私の處でも外來は夏期は平常の二一三倍になりませう。

目立つて多いのは八百屋、水菓子屋、植木屋、疊屋、魚屋等で料理屋、カフェー等は甚だ粗末なもので花柳界は全くないと言つてもいい位の處で殊に、健脚家は藤澤、横須賀に出掛けます。一方東京からのアインパールは相當ある見込との事です。

當町有識者は「町」と云ふ名稱も不適當な位で、勿論市制などより別荘地、遊樂地としての内容の充實を計る事こそ、當鎌倉の使命だと言つてゐます。これも當地の他と異つた事かと思ひます。

恩賜救療券、濟生會診療券、醫師會診療券、健康保



險、簡易保險等は土地柄甚だ微々たるものですが、當地方では外科的疾患の入院は當院だけ指定を受けてゐる位であります。

診療地方範圍は一般當鎌倉だけで甚だ狭いものです。私の處も大体當町だけです。大船、芹瀬、腰越、逗子、葉山も可なりあります。醫局が出来ました時茂木先生が確か中村君に御命じになりました。東京地方の地圖に患者の來た町村に印をつけさせられてゐました。で、私も當地方のをつけてみました。が、東京、戸塚、藤澤、厚木、茅ヶ崎、横須賀、田浦、三崎の範圍になつてゐました。

鎌倉の醫師の数は約四十六名。その内開業してゐる者三十五名、残餘は病院勤務。外科は二人です。全く醫者の洪水です。この外東京からの交渉が可なり多い事であり、横須賀線は最高級と自慢してゐます。電車を有してゐますので東京から二三時間もかゝつて來てゐた昔とは全く副世の觀があります。恰も大東京の一部より更に至便の感があります。故に東京からもこの洪水の水量を増してゐる事は確實であります。併し、私共同業者中私と同様な、若しくは家族に保健増進を餘儀なくされて、當地に居を定めた者が四十五名の中に十二名餘

あります。即ち廿五%を占めてゐます。この%で當地の健康状態を考へますと先づ非健康者が二萬の人口中に五千人の割になります。すると醫師一名に百人強の患者になります。種々のものから見たものを総合しましても大体この位かと存じます。當地某内科醫なども五戸の患者を有してゐれば……と申してゐます。

患者は私の處は殆んど全く醫家からの紹介患者で、従つて各醫家の患家の社會的位置が可なりよく觀察出來ますと共に種々の階級の患家を有してゐます。一般に患者の醫療観は誤つてはゐない様です。殊に専門的に向ふ傾向と疾病に對する知識が相當あります。で、初診は家庭醫に願つて相談の上に専門醫を依頼する様です。知識階級に至つては更にその傾向が強いのであります。で、我々特種家殊に、メスを持つ者は比較的氣輕な氣がいたします。當地は、殊に私の處には殆んど轉醫し來り、また轉醫する者は甚だ少数です。場合によると、こちらで責任負けたす事があります。

鎌倉駅から江之島電車の發着所に御出になつた方は、何處の駅にも、附近にも病醫院の廣告が見られないので餘りにもものたらない感かいたしませう。こ

れは吾々の社會での一色彩を放ち、その原因はたゞ狭いとか田舎とか言ふ意味のものでなく、當町醫師の人格の暴露であると言つても差支へないと思ひます、と同時に鎌倉の民衆がまた我々に對して理解を有してゐるためと思ひます。

私共特種科を除きますと殆んど全く、外來患者と言ふものはないとの事で朝から往診してゐます。投薬も患者の希望で、處方箋を利用する事が多いとの事であります。この点も他町に餘り見られない事と思ひます。私が開業致しまして既に拾年。其の間に謂實費式、輕費式の診療所が三―四出來ましたが、失敗を繰り返へしてゐます。その原因は患者の醫療觀が他所と異なり、粗診粗療に對して一見解を有してゐる爲でせう。

診療申込。殊に電話でしたら、經過年齢等を聞く他に必ず前醫があつたか否か、殊にグレンツゲビートのもの時には、注意して前醫の有無、若しある時は必ず諒解を求め、同時に經過患者側に對する注意等の參考資料を願ひ、なるべくその後にも於ても相談をする事にしてゐます。かような事により患者に對しては、醫療の精神を理解させ、教育する便があり醫師相互の徳義でもあるし診療を圓滑にする上にも、甚だ利する處があります。

私の考では、小醫院の大病院と異つた特性は「家庭的」である事であり、
 院員は勿論家族もその積りで特に注意してゐます。

入院患者の食餌及び御茶へ午後三時頃、午後九時頃これには處方箋以上の
 頭腦を使ひ、家庭味を豊かに持たせてゐる積りであります。調理は主婦が致し
 ます。なるべく患者の意に適合し、且つ基本食箋にも適合するもの、調理に務
 めてゐます。



病室調度品及び照明等、退院後、入院前にはなるべく私が一應室を調べる事
 にしてゐます。照明等も手術後経過の如何でそ
 のワット数を加減致します。ついでに掃除は
 「上より下へ」の標語で厳しく致させてゐる苦
 です。又他室の妨害にならぬ様、レシーバーを
 枕元に置いて、ラヂオやレコードを使用する様
 に致させてゐます。この點は私の自作セットが
 特徴であります。

その他、當地方の醫家に對する奉仕の一端と

して検査物一般を行つてゐます。相當法定傳染病検査があります。輸血も、死体制菌注射も今迄は、殆んど一手に引き受けてゐました。給血者も相當準備してゐましたが、最近はその数も少なくなつた様です。

レントゲン深部療法。これも私の處の患者より、紹介の方が多いので一昨年購入致しました。然し治療機と寫真機と別個に設備する事は經濟が許しませんので、治療機を主として、寫真の方を副とする。甚だ蠢のいゝ機械を無理を強いて造らせました。

太陽燈は家庭にも相當持つ様になつて來ましたので、昨今はハノヴキヤのクロマイヤーを購入を餘儀なくされました。

「手術立會は醫家の外堅く御断り致します」と手術室のドアに明記されてゐます。若し用ひられない時は、甚だ遺憾ながら手術を断つてゐます（今迄二三回）。讀者諸氏は私が如何なる信念に依るか十二分に御賢察の事と信じます。申すまでもなく、立會人は有害無益であるのみならず一方神聖なる手術場をして、自己宣傳の場と化せしめ、更に時には無益にも前醫の名譽を毀する虞れがある事を思へば、吾々外科醫は常に考慮すべきではあるまいか。またかゝる立

會を申し出る患家には、術者を信頼しかねると言ふか如き傾向は甚だ僅少で、家庭愛、近親愛から湧出した、我國特有の美点であるから、其点は十分な同情を拂つて諄々と手術の精神を説く事は我々外科醫の使命の一つであるのではあるまいか。然し私は紹介醫の立會は積極的に願つてゐると共に相學び相究める事は極めて意義ある事で、患者の福音の一つである。若し立會が出来なかつた場合は手術前からの臨床的其他検査成績、手術所見、其後の経過を出来るだけ詳細に報告してゐます。

疾患の種類。外傷は交通事故を除きましては、醫學上全く興味のないものがあります。

療疽。相當あります。患者は主として女中程度のもので、その主人が私の患家になつてゐる結果であると思ひます。肛門の疾患は慢性のものが大部で、其他は格別の事はありません。

入院は主として、虫様突起炎で、其の他は結核性イレウス位の處です。

診察費は醫療問題の核心になつてゐるので、非常に難問題で、机上小學生式數學では解けるものではないのでありまして、官公立の病院で眞面目に研究す

べきものではないでせうか。私は醫術と醫術に使用する材料とを明らかにして
ゐます。薬品及材料等は仕入に一、二割の口銭をかけます。で、減額は薬品及
材料では出来ないので醫術（考審技術）の方でいたします。

醫療費の減免、濟生會等も年々増加致します。これは必ずしも社會の不死を
示すものでなく、私の當地に於ける社會状態の認識が増して來たのであると思
ひます。

擲筆するに當りまして、指名を受けました光榮を深謝致しますと共に會員諸
彦の健康を祈ります。

(二五九四・一一・一八)

手術さまざま 其二

Y M C A

大理石の様になめらかな肌、ふつくらした胸を惜しげもなくはたげ、
「妾あなたに總てをお委せ致しますワ」と目をつむれば、ヨシツと許り
に、やつては拭き拭いてはやり、綺麗に済ますのは、茂木先生の乳癌の
手術。



富士見便り

中 村 武 重

ハケ月岳の南方のスロープ本郷村、落合村、富士見村等を富士見高原と云つて居る。中央線富士見駅から、療養所のある所は大凡そ海拔一萬米位の高原地帯の落合村である。南方には鋸山、甲斐駒の峻峰が雨乞山を前衛として聳え、其の間を富士川の上流である釜無川が流れて居る。此の釜無川の流域に変化のある限り、甲州と信州との確執が繼續される。ハケ月岳南面の水を集めた辰場川之に架つてゐる鉄橋が日本一高い鉄橋で、その辰場川もつまりは釜無川となり富士川となるのである。戦國時代、織田氏の勢力範圍であつた此地方は明智のいたづらから武田の業成つて、信玄公の時代には此地方は殆んど信玄の物になつてしまつた。その當時から辰場川を以て國境として居たのである。信玄の娘を諏訪の殿に呉れた。其の時持参金として辰場川流域の乙事、瀬沢なんて云ふ村をつけてやつた。然し終には娘の督様の首を切る事になり、持参の土地も没

敗してしまつた。遙か東には富士の靈峰が特に高々と浮いてゐる。高さとか、良いとか、悪いとか、凡ての事から超越してゐる様に。或は登るべからざる山の様に。日本の富士山が見える。西の方は所謂諏訪盆地になる。私の住んでゐるのは富士見村である。富士見、落合の北の方ハケ岳の麓に本郷村がある。富士見高原といふ概念は此の三ヶ村から出たものである。人口は三ヶ村合して、一、二九二六で全くの寒村である。此の辺の交通は四通八達とは申されない。汽車は中央線一つ。諏訪の一番の所、上諏訪との間に茅野、青柳と二つの駅がある。其の線路に沿ふ國道は乗合自動車も通つてゐる。然し國道を一度横路へ入ると、十二月から五六月迄、馬でか、てくてなくては駄目である。少し東の小淵沢駅からハケ岳の裾を廻つて北信の小諸へ通ずる鉄道も出來たし、諏訪から和田嶺を越して上田へ通ふ省營バスも、もう「冬は御断り」なんて云はん様になつたから、スキー、スケートや、近頃はやるハイキングとかには、とても硬利になつたわけ。富士見高原地方の大体の氣象は、氣壓六七〇内外、氣温三〇を最高として極寒零下一〇位、濕度は大体五〇七〇位のところである。養蚕國である信州は絲價暴落と共に酷い痛手を負はされ、其の土土質が耕作に不適

な爲に近村の人々の辛苦は並大抵ではない。十一月にはもう雪が降る、そして六月でないとは充分耕しが出来ぬ。五六七八九の五ヶ月間が働く時であり、又行楽の時である。櫻桃季一時に閑くと共に野良仕事もせねばならぬ、秋の刈入れがすめばもう冬籠りだ。質朴以上に切りつめた生活をしてゐる。生活が食しい



従つて衛生思想も一般に低い様に思はれる。病氣になつてもよくでないと醫者にかゝらぬ。信州人は理屈屋である。自分だけで満足出来ずに、人の事に迄自分の療治を施したがる。さう云つた人の言が先づいろ／＼と試みられてから、最後に醫者のところに來るのだ。民衆が醫術に余り詳しい事は非常に困る事である。認識不足だから。然し又いつ迄もお水を有難い物に思ふ程衛生的に無理解であるのも困る。此の地方で特に目立つて多いと思はれる病氣は耳鼻科に属するものだがそれは風土との關係に依るものだらう。生活がしめつばい故にリヨウマチスも多い。普通の外傷以外刃物三昧による切つたばつたの多いのも初めの程は驚いたが、夫婦喧嘩、火つけ、夜這ひが今だにあるといふだけに、さう云ふ事になるのか。然し此処二三年來、世の不景氣風にも拘らず衛生思想も向上し、悪い

意味の外傷も少くなり、夫婦喧嘩も和解し、火事が眞に少くなった事等色々な意味で善導され、向上したものと思ふ。



清水港より

板橋

剛

當地に参りまして丁度六ヶ月です。お蔭で元氣です。まだ土地の不案内の處が澤山ありますので、余す所なく御報告出来ないのは残念です。

當清水市は市政施行十年余になります。人口は六万余。街の中には未だ茶畑菜畑などあり、此の中を比較的奇麗な大きい新しい道路が走つて居ります。

陸の関門に東海道江尻駅があります。この驛は貨物の集散が盛んで、十二月一日から丹那間通と同時に清水驛と改稱されます。海は美しい清水港。波止場は相當繁華で、時々赤い旗をマストの上に翻してソ國の貨物船が入港します。

清水港の北には江尻港があります。これらの對岸が三保の松原。函港からホ

ンポン蒸気が通つて居ります。三保には海水浴場が開かれ、江尻港の北岸の袖師海水浴場と共に静岡、清水の人々が集ひます。袖師の北が興津です。江尻は寧ろ漁港で、鯉船が夏の日盛りにパン／＼出たり入ったりして居ます。

清水の街を貫流する巴川では燈籠流し、煙花大會などがあり、花火は相當盛んで、町の祭禮には付きものです。こんな時には自轉車の相合傘ぢやない相合傘りが相當目に付きます。大抵の若い娘さんは自轉車に乗り、夏など茂葱の兵子に大きい袂を風に翩翩として走つて居ります。また瑞々しい丸髻の御婦人がエプロン姿でオートバイ操縦など、赴任當時は一寸刺戟されたです。第一珍しかつたのは茶畑で、奇麗に丸味をつけて苺込まれ、昔は手摘だつたさうですが現在では大きな鉄でチャキ／＼と苺取つてゐます。この鉄で太腿をすらりと切つて外來に來た娘さんがありました。

今は蜜柑の時節で、青葉の附いた蜜柑を食べるのが何より美味しいです。もう暫くすると病院の窓から見える山々の大半が黄色くなるさうです。病院は町はづれで、何時も富士が奇麗に見えます。朝日に照り出されて白雪が眩ゆく黄昏に映ゆるまで壯観の極です。

病院の側の川は大澤川。「ハゼ」鮒など釣れます。巴川では舟を浮べて沙魚を二三回釣りました。病院の愛嬌者の蟹公は大澤川から大舉進出して来るので、靴の中に入つて、あはや足をやられんとした事もありました。こんな事を書くと大分所はづれの様ですが、清水駅からは歩いて二十分、自動車な五分もかゝりません。静岡駅からは静岡國道を約三十分のドライブで参ります。どうぞ東海道御旅行の節はお寄り下さい。梅陵寺へ清水次郎長の墓があります。龍華寺、鉄舟寺、三保羽衣の松、日本平、久能山、清見寺など御案内致します。乍末筆 茂水先生初め諸先生の健康を祈ります。

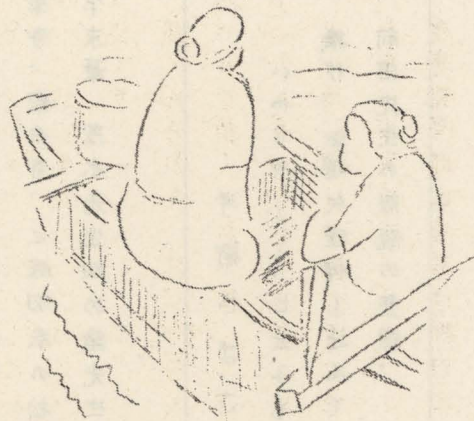
手術さまざま 其三

Y M C A

いやじや〜と云ふものを 一室に伴れ込んで押え付け、強引に股を横げ、無理矢理押し込んで、「これでやつと這入つた」と嬉しさうなのは
前田先生の股脱の整復。

伊勢だより

富田勝郎



懐しい醫局を去つて、早ニヶ年御無沙汰勝に過して居ります。當地は御承知の伊勢街道、大神の鎮座まします宇治山田へあと約七里、寂靜かな伊勢湾を前に一面に開けた沃野の中央、唄で知られた津の町から約二里の小村。

往年交通機關の無かつた時は宿場くは道中
 姿の善男善女、はては大たぶさの親分から、入
 墨姿の胡麻の蠅まで、仲々殷賑を極めたものだそうですが、今日此頃は、茶店
 一膳飯屋等が經營不振で、ぼつりくくと消え、古びた屋台骨、黒すんだ棟、柱
 に僅に當時の面影を止めて居ります。

現在の當地方は米作、沿岸の漁業、を主な生活の糧とし、噂に聞く東北地方
 の大饑饉に比ぶれば、氣候温暖等天賦の恵に沿して、まだく比較的裕福な生

活を送つてゐる様です。

人情風俗等としては特記する程の事も知りませんが、古來傳へ聞く「伊勢こじきとはどうじゃ」と問へば、土地子は「なにそりや、伊勢子正直の誤りや」と辯じます。言葉は関西特有の甘たるい調子に、當地特有の「な言葉」。あのなあ、そしてなあ、そうだなあ、いたあすなあ（痛い）と云つた調子。シェーネスメツチエン等でも之を連發するのを聞くと、大抵あやまり度くなりませう。併し、名古屋辺の「きやあい」「きやも」「なも」等に比べると、まだ少しはいゝ様です。

廣く知られた「津は伊勢でもつ」の唄は、一説には、之は名古屋築城の時の水やり音頭で、「石を積んで持つ、つんで持つ石を尾張名古屋の城へもつ」と云ふのだせうですが、大部之はこちつけの様に思はれます。

兎に角、津は伊勢の中心、藤堂家三十五万石の城下で、古來政治の中心であつた事は事実です。

慶應醫學部出身者は縣内に十人程、現在居ります。外科醫局出身としては僅に小生一人。古き東大、地の利を得た京大を主として、他は醫專出、檢定等が

八割を占めてゐます。

小院の現況を申しますと、院長と小生の二人で、産婦人科を除いた他の種類全部を診ますが、昨年度外來患者四五九七名、入院患者一〇五名、ベット十二ヶ、入院の少いのは田舎の習慣で、切開程度の患者は荷車に乗せて、一里以上の所を平氣で通院する様な事情にも依りますが、新設外科の悲哀で、急救手術でない者は遠く赤十字や公立病院へ逃れる者が相當にあるからと思はれます。

小生の經驗を記して見ますと、赴任後今日迄ニケ年間にラパとしては總計三十七名、内イレウス五名（全部全治）、瘻りは全部アツペ及びそれに依る腹膜炎（内死亡三名）でした。イレウスで面白い事は僅か五例中三名までが前に他醫に依つアツペの手術を行はれてゐた事で、何れも廻盲部の絞拘性イレウスでありました。思ふに、當地方の醫者は手術後長くゴムドレーンを局所に放置する由で、この刺激で纖維素性の紐様増殖を見るのではないかと存じます。次には箆箆ヘルニアの二例（共に男子鼠蹊部）位で其他は膿胸、筋炎、丹毒等が主なるものです。殊に丹毒は生活状態の關係か外來程度のもの多く、レントゲン治療が仲々効果ある様です。骨折患者は特に東京の名倉式に、古來名を得た醫院

があり、殆んど来ません、僅かに三四例にギプスをかけた程度です。
終りに臨み、醫局諸先生の御健康と刀林の發展を祈ります。



風水禍

中 村 次 郎

橋本君から今度の風水害に就て何か書けとの命令だ。
本場灘の酒の話でもと云ふならば拙い乍らも秃筆を振
ふ勇氣も出るが、上記題目では面白いことも書けないじやないか。熱い砂を振
むの味氣なさに墮るを如何にせん。仍て些か色を添へる意味に於て感想を附し
て其の責を逃れる事にする。

あの日九月廿一日は丁度前夜から東京の親類の人が泊つて居たので早起きし
てゐた。賑やかに一同食卓を圍んだ後、寛つくり茶の間で新聞を擡げてゐた。
昨夜からの大暴風雨はいよゝゝ猛り狂つて居る。初秋によく吹く暴風位に思つ
て氣にも止めなかつたが、戸や障子のガタン、ピシと軌る音は益々酷くなる。

屋根から数枚の瓦がガラ／＼と嫌に牙えた響きをして落ちて来る。何處かで硝子の破れる音が聞える。凄い、天地の總てが風の音と、破壊の音とになつたのである。皆の吐切れ勝となつた話聲も、陰惨な響きの起る毎にハタと止んで思はず顔を見合はせる。立上つて海岸の方面に見透しの効く南窓から外を覗いて見ると、海岸に沿つて散つしてゐる住宅の二階の瓦がケシ飛び、トタン屋根が角から北の方へ布切れの様に天馳けてゐる。雨は横殴りに地面を叩きつけて猛烈な勢で水煙を挙げてゐる。水煙の中を凝視めると水簾を逆に立てかけた様になつて水面が接してゐる。下は一面の水だ。濁流だ。我家から二丁先迄、畑と云ふ畑、田と云ふ田、道と云ふ道は、今は全く濁流に蔽はれてゐる。目を更に遠くに延ばすと、水は海水に續いて仕舞つてゐる様だ。

ア、大変!! 海岸の方から幼い子供を負ふた人が澤山、膝、腰の辺まで浸り乍ら懸命にこちらに逃げて来る。之れは豪いぞと云ふ感に打たれたが、海岸から六丁程もあるから我家は大丈夫だ。ナアニおはてる事はあるまいと高を括つてゐた。然るに豫想を裏切つて水はドシ／＼押寄せて来る。庭先まで来たなと思つてゐる間に、直ぐと玄関の硝子戸の隙間から濁水が流れ込んでゐる。玄関の

三和土に置いてある下駄がポツカリ浮ぶ。「津浪だつせ！逃げなばれや」
近所の人は全部逃げはつたぜ!!」と蒼白になつた青年團員が声を洒らして報ら
せて呉れた。一瞬何とも云へぬ一種名状し難い不安な氣持に襲はれる。数人の
青年團に此の辺は何うかと質問すると、答はまち／＼だが、直ぐに一問以上の
水は来るだらうと云ふ。緊張する。近所に住む母が氣遣はれ、見舞に行つて避
難させる。すぐ引返して一通りの仕度をして家族一同と膝辺まである濁水を蹴
つて高台地に避難した。途中屋根瓦、ブリキ板、堀板等の乱舞の中を一步／＼
緊かりと大地に足をふみしめ乍ら進む。六〇米の烈風には、ともすると身体が
吹き飛ばされる。後で聞いたのだが、頼田では列車さへ素飛ばされたのである
から、此の言葉は大袈裟ではない。着のみ着のまゝで飛び出した事故、子供達
は避難所で寒さにガタ／＼顫えてゐる。堪えかねて再び家に戻り着物を持ち出
して来る。

實際此の時は生命を守る本能で、大きな何者かの黒い魔手と戦ひ續けたと云
ふ感で一杯で、興奮の極であつた。

それから一時間も経つたであらうか、「水が引き始めたぞ！」との歡喜の聲が

ドツと起きた。直ぐ家に歸つて見る。附近にはまだ潮が残つてゐる。家の道路に面した堀は跡形もなくもぎ取られ、庭の樹木は無惨にも薙倒されてゐる。たが家屋は幸に侵水床下五六寸程度で、心配した程の被害もない、と見る間に潮はすっかり退いてしまつた。引潮が残して行つた庭の水溜りの中に、沙魚が一匹健全に泳いでゐるのを見出す。遠い海からよくも此処まで遠征して來たものだ。人の心も知らずに登ました風情の可笑いこと……。一同取巻いてドツト笑ふ。ア、そうだった。我々は今迄笑ひをすっかり忘れてゐたのだつた。之れを境に張詰めた心がサラリと溶ける。周章狼敗の数々を擧げて互ひを笑ひ合ふ。無性に笑へて仕方がない。知らない人連迄が私達に笑つて挨拶をして行く。あの人達も危険を逃れ得た安堵の心で快活になつてゐるのだと思はれる。安心の氣持で我家の前の原を見ると、無数の箱類や、大きな布團、更にオルガン一台までが何処からか流れ着いて泥まみれになつてゐるのに今更驚く。

夕方蠟燭の灯で晚飯を食べた。号外で初めて近畿地方の建物の崩壊、高潮の惨害、學童の惨死等を知つた。而も其夜は嵐の跡の静けさの例に洩れず、満月に近い秋の月が無風暗黒の郊外を照らしてゐた。其の月は何と云つても不氣味

な、心憎いまで冷いものに見えて、到底ちつとしては見つめてゐられない程の物凄ささえ有つてゐる様に思へた。月に向つて其の夜は詩趣どころか、只恐レかつた嵐、高潮の事、更に又それ等の為に様々の大きな犠牲を受けた人々の事のみ思つて心から同情した。数日後の新聞に其の道の権威者は筆を揃へて「あの場合怪我や溺死の率が多いから家から外に逃げ出してはならぬ」と訓へて呉れた。そうかなアと感心する。青年團員の津浪來の言葉に従つて逃げたのは輕率だつたのだな。東京大震災の時も暴動の声に動かされた人々がそうであつたのだが、無智程恐ろしいものはない。當時を廻想して、よくも家族の誰れ一人にも怪我がなかつたものだとは有難く思つてゐる。

今度の風水害に対して親しい仲の人は云ふに及ばず、平常餘り音信もしない問柄の人々からも、思ひがけず見舞を買つた。此の人が？と思ふ様な人が親切な事を云つたりして呉れた。思はず眼頭が熱くなる。只感謝好感に胸は沸つたのである。音信が如何に心を慰め温めて呉れたことか!! と同時に己を省みる時、今迄何と多くの人々に禮を欠いで來た事であらう!!。数へ切れぬ程の覺えがあるだけに一入自責の念に堪えぬものがある。

北九州から

成松清敏



私の只今勤勞致して居る處も、矢張り前任地同様、安川氏所有の北九州築豊炭田の一炭坑でございます。相當量の石炭を埋藏してゐます。相當量の石炭を埋藏してゐるらしいが、未だ買收して三年余りにしかなりませんので、坑所全体が頗る不整頓で、勿論診療も旧所有者時代の極く手狹な建物でやつてゐた始末です。そんな都合で、私は一つには新病院設立の使命を以て昨年四月轉任した次第です。此新病院も種々の事情で漸く本年十月に第一期工事が落成した様な譯で、只今醫員五名で基礎固めをやつてゐます。

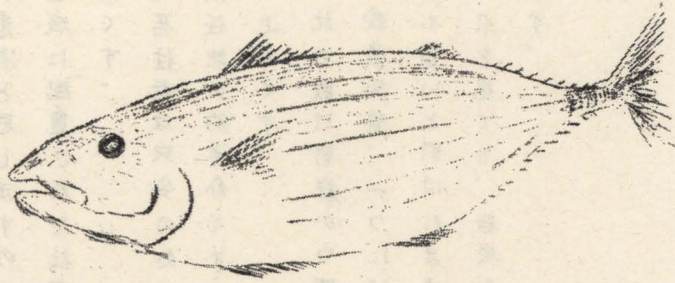
坪数は四百坪位ですが、之れでも筑豊の炭坑病院としては大きい方です。大体外科と内科に大別しますが、大部分は外科で占めてゐます。ベツトは只今ニ

十程で、主として外傷性患者の收容に充てゝゐます。

患者と思しめますのは當坑従業員並に其家族に限られてゐます。それ等は一定区域に配置された社宅に居住して居りますので、内科的方面は入院させずに往診です。

居住者は只今の処、出炭も少ないので、家族を合せて約三千四百五人でせう。前任地の約半分です。患者数は率に於ては遙かに多い様です。即毎日來院三百人近くです。

此の数は皆様から視られると、開いた口が塞がらないでせう。之れは一つには輕費診療、一つには新山（新山）へ新らしく開いた炭山の意と云ふ処に基因することが多いと思はれます。患者の約三分二は外科、その又三分二が外傷ですからこれを見ても、採炭作業の如何に危険であるか、略々御想像出来ること、存じます。



Katsūwonūs vagans (Lesson)

鯧釣りのひと、き、

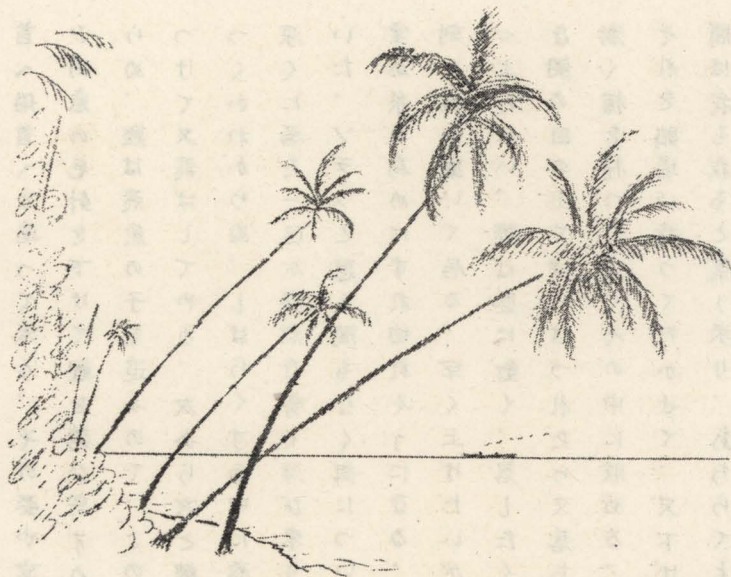
寺 田 泰 三

五六

船は満帆に風を孕んで悠々と大平洋上を這つてゐる。時速は四節位である。最早黒潮も過ぎ氣候は丁度蓮華の花咲く四五月頃の陽氣である。動揺も少なく好い氣持ちになつてソファーの上に寝轉んで雑誌などをあさり讀み、うつら／＼として居ると、突然生徒がドアをノックする。小さな声で「ドクタァー、鯧が附いて居ます、生徒がそつと知らしに來て呉れたのである。」ソラ鯧!!

早速起き上り身仕度もそ／＼に道具を取り出し、韋駄天走りに船に突き出した網の上に走つて行く。成る程附いて居る、右に三匹左に二匹、時には五六匹、波の下を落つては本船と競争するもの、如く船

首へ船首へと追つて来る。その姿や実に見まじき限りである。早速こゝそと思ひ用意の毛針を下げて鯉を誘ひ寄する。針は決して長い間水の中に沈めてはならぬ。鯉は飛魚の子を追ふので、この針を海面上すれ／＼に飛ばせて一寸水につけて又飛ばしてやる。次から次と鯉は元氣よく盛に追つて来る。何時かぶりつくかわからぬ。しばらくする中に表面の五、六匹が追つて来ると思ふ間もなく深くに居た一匹が猛烈な勢で浮び来り、俄然目にも止らぬ早業で餌にかぶりついた。ソラツと思ふ間もなく餌についた鯉を引き上げる。重い、糸をたぐる中掌が糸の爲めにすれ切れそうになる。鯉は錫色に光った腹を見せバタ／＼と小刻に盛に動いて居る。早く上げたいが、重いのと掌がすれ切れそうなので、中々上らない。鯉は盛に動く。落したくはない。やつと上げきつてもこの大きさな網の目の上では、はづれたら又落ちる。早く甲板まで歩いて行かねばならぬ。漸く桶を持つて来てその中に収める。鯉は未だ元氣よく尚も動き續ける。早速それを賄場に持つて行かせて、又下げる。矢張頻りに附いて来る。最早釣り仲間も我も我もと集り来り、あちらでも上げこちらでもあげ船首の網の上は鯉釣りで一杯になつて居る。最初の中はよく釣れるが次第々々に釣れなくなる。追



つては表るが仲々思ふ様には喰はなくなる。今度はこちらで反對に鯉に奔弄される様な形になる。かうなると仲々釣れぬ。余程幸運でないとい釣れぬ。矢張最初の中が一番好い様に思ふ。もう好い加減の所で釣を止めて帰る。

先きに釣られた鯉は料理場で俎の上に青い水々しい体を横たへて居る。大きは二尺五寸位二貫目位はあらうと思はれる。そろ／＼船内の食料品に新鮮な物を缺いて来る頃の鯉のさしみの味は何とも云へない位美味である。

帆船航海中最も興味ある鯉釣りを一寸御紹介致しこれで筆を擱く事に致します。

昭和八・十一・二十六

—南洋リサイ島にて—



ゴルフ漫言

太 郎 生

ゴルフをやり始めてから四年になる。マーほんの田舎
ゴルフアーの一人。唯感じた事どもをお話しませう。
小樽と言ふ處は御承知の通り半年雪で、雪のある間は
スキーで面白いが、雪のない後の半年はゴルフがあるので退屈しない。病院で
は青水君が大先輩で今から四年程前に青水君の紹介で、次第に皆んな入會した。
つまらない自慢ではあるが、全國有数のもんではなからうかと思ふ。小樽病院
ゴルフ倶楽部を設立し、院内でネットを打ったり、月例トーナメントを催して
カッパの争奪戦をやつたりする。此の外三田會、マンスリー、市長、新聞社等
のトーナメントがあり、病院の諸先生方一般に成績よく、良く大小のカッパを
獲得して來られる。三田會の連中には仲々強いのがゐて錢函で抑へて居るから
愉快だ。

ゴルフなんかやつて居ると如何にもブルジョアらしく思はれるが、私等のゴ

ルフは會費も到つて安く、経費も掛らず至つて安直で従つて猫も杓子もやつてる次第である。内地ではこんな安い會費ではできまいと思つてゐる。

ゴルフのクラブは多種多様で少くとも六本は要る。多いのは二十本近く持つてゐる。此の様に種類のあるのは打つ距離や球の場所の具合、障害等の關係に依る。遠くへ飛ばすには木のクラブを仗ふ。二百ヤード前後飛ばせば大概用を足りる。日本人はどうも良いクラブを持ちたがるが、キヤデーが竹の棒に木片をつけた手製のクラブで四十台で樂に廻つてゐるのを見ると余りぜい澤は言へんと思ふ。

ゲームはテイーから打つてホールへ入れる丈の簡単なものであるが、その間に色々な規則があつて、仲々一辺には覚えられない。又球は仲々思ふ様には動い呉れるものではない。ゴルフのフォームには大体一定の型があるけれども、個性は致し方のないもので、裁り遠くの方に居つてもスウイングすりや、あ、彼氏あそこでやつて居るなと分つてしまふ。仲々珍フォームもあつて、がに股で何かしやくつてゐる様な恰好や、又しやがんでゐるのではないかと思はれる人や、さうかと思ふと直立不動で針金でも呑んでゐる様な恰好や、獨樂の様に



ぐる／＼廻る人、きつと球をにらんで拜み
 打ちにする人、悠々と歩く人、一打ち毎に
 白髭を撫す人等、無くて七癖、リンクスの
 癖も亦千差万別である。その癖お互にフオ
 ームの研究はなか／＼盛んで、皆一通りの
 理屈を持つて居る。お互のフオームの研究
 から、他人のフオームのあら探し、素晴ら
 しいシヨツトの自慢話、失敗談に花を咲か
 せる。何辺聞いても面白い。従つて一つの
 社交襪閑である。

場所は小樽、札幌の中間、石狩湾に望む瀨茄子咲く砂丘
 で、天然の芝の丘陵を小川が縫つてゐる。牧牛が点々と
 して草を喰つてゐる。前は海、後は直ぐ天狗岳、春香山、
 手稲山等スキーに名高い連峰が聳えて居る。春は是等の
 連峰に雪を頂き、緑したゝる芝草の上に、青空高くピー

チク轉る雲雀の音を聞き乍ら、海風そゞろに渡るあたり、突に楽しいものである。クシヤ／＼した気分もゴルフに行けばフツ飛んで終う。

近來日本のゴルフも段々民衆的になつて來た。方々にパブリックコースが拓かれて來る。まだ／＼東京方面では相當高いものにつくらしいが、もつと／＼安直に誰もがプレー出来る様にならなければ噓だと思ふ。日本人は何しろ器用な人種だから歴史は浅いが、世界選手権を取るのも近い事だらうと言はれて居る。外の競技と違つて、年寄も小供も、上手も下手も一緒にやれる所に善い所が有ると思ふ。

ゴルフに行くとなると、前の日から張り切つて居る。晝食に皆寄ると明日の話だ。お天氣であればと願ふ。

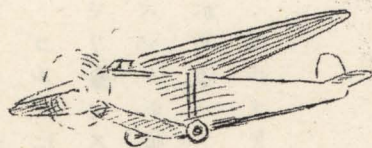
錢函々々と呼ぶ駄夫の声と共に降りて約十分程海辺を歩く。青い芝生が見え俱樂部にはZ.C.Cの旗がへんぼんと飄つて居る。上着を着換へ身拵へをしてから抽籤でパートナーを決定して一番から順次に打つて行く。夕暮の錢函の景色は美しい。張雄神威岬に夕日の入る頃の景色は一幅の油繪である。

ゴルフウイドウなる言葉がある。即ちゴルフアーの妻君はやもめた相な。な
んとなれば、折角楽しみにして坊やに迄、次の日曜は何處々々と當にしてゐる
のに、日曜と言へば朝早くから起きて、そそくさと飯を食つて出掛けて、日の
暮れる迄帰つて来ない。漸く帰つてくれば疲れたで、夕飯が終れば早速
寝て終ふからだやうな。

で中には奥さん仲々強硬で、天氣のよい日は家庭奉仕で、當人ヂレ乍ら郊外
散歩か何んかにお供して、天氣の悪い日許りゴルフに出かけてトウトウ風邪を
引いて、肺炎になつたなんて人がある相な。

ゴルフに熱中して来ると、ゴルフマニエの症状を呈して来る。人通りでコウ
モリ傘でスウィングして往來の人に怪しまれたり。家の中に毛布なんか敷いて
パットの稽古をしたり、プラットフォームでスウィングしたり、仲々色んなの
がある。

ゴルフを始めて身体の調子が極めて宜しい。



通信欄

○ ○ ○

關 市 衛

六四

開業醫生活滿三ヶ年余を經過し、今更の如く個人開業の面倒なる
事を體驗致し候、併し開業以來患者も相當にありポツ／＼借金も返
しドウヤラ遣つて行けそいな目鼻がつきかけて参り候、是れ偏に茂水先生の御
蔭に依る事と感謝致し居り候

家族六人皆健康に働き居る事は何よりの幸福と存じ候。
家族は主人関市衛（五十三才）妻とみ（四十六才）長男芳郎（二十二才）
學習院高等科、長女桃子（十七才）—山脇女學校、次男英郎（十四才）—第四
中學、三男和郎（十才）—學習院初等科。

○ ○ ○

濱 名 元 中

拜啓「石林」の御發刊を御祝ひ申上候。赴任第二年御蔭様にて元氣よく勤務致し居候。當地には外傷性表皮囊腫が相當多く見受られ候。時々醫局が癒しく御座候。末だ子ヨంగాーに御座候。

○ ○ ○

大 槻 正 路

前略 小生昨年十月來當所にて専心診療に従事仕り居候。家族拙者夫婦二人娘三人息一人医局助手一人女医二人看護婦一人看護婦見習四人女中一人下男一人計十六名、他ニ「カナリヤ」ニ羽、右返答候也 以上

○ ○ ○

高 巢 三 四 一

御無音にのみ打過ぎ汗顔の至りです。医局皆々様も益々御隆昌打揃ひ御奮闘の事御同慶に堪えませんが、當地は御承知の通り昨年の大震害に引續き今年は又未曾有の大冷害殊に寒氣に向つて農山漁村の慘状は目も當てられず従つて吾々

醫家にとつても非常時多難の秋で御座います。併し幸に至極健康で非常時岩手縣氏の一員として奮闘してゐますから御安心下さい。御蔭様で家族も元氣です。茂水教授始め諸先生の御健康を祈り上げます。

○ ○ ○

今 井 金 治

拜啓 晩秋の候となりました。先生を初め皆様には益々御清栄の御事と拜察致します。お蔭で私も無事で働いて居ります。當地方は非常に不況ですが、今は大演習氣分で市中は仲々賑つて居ります。刀林の御發展を祈つて筆を擱きます。頓首

○ ○ ○

松 井 八 郎

相交りずの勤勞振り、毎日々々退院患者ばかり探して居ます。今年は割合に少い様です。それでも最も暇で二十名はあります。家族は子供二名皆達者です。朝鮮も既に三度目の冬を迎へるわけです。

〇 〇 〇

牛久昇治

「刀林」が年々著しくその内容外観共に発展し行くことは、慶應外科の學界に於ける目覚しき進歩と共に地方にある同窓生の唯一の誇りに御座候、茂水先生始め同窓各位の上に愈々神の祝福豊かならんことを祈り上げ候

へ牛久先生には院長に昇格せられました、謹んで御慶び申上げます

〇 〇 〇

篠原静夫

何時も乍ら御無沙汰致して申譯ありません、茂水先生始め医局諸先生益々御元氣にて何よりと存じます。私は本年一月開業以來昨今多少は落着きましたか、未だ創業の困難を脱しません、家族は夫婦に子供二人、全部に廿五六人と成り此の人数丈でも大変です。医局の隆盛、刀林の発展を祈上げます。

〇 〇 〇

寺田泰三

拜啓 時下秋冷の候皆々様益々御清健の段奉賀候、先般は態々刀林原稿募集

被下候へしも生憎と題材に乏しく誠に御無禮致し申候へしが、此の度十一月二日幸にも第二世を儲くるを得候へば御通知申上候。目下の所上を下への騒ぎに御座候、産後も母子共に健全にして大いに活氣づき居り候、今後話題に上る事共有之候はば遠慮無く御報らせ致す考に御座候。先づは簡單乍ら御通知申上候

○ ○ ○

小 澤 武 雄

春の學會以來御無沙汰致し居り申候、折ふしお訪ね下さる古い仲間には僅かに都の様子しのんで暮し居候。丹那トンネル開通どなたも御存じなれども熱海、伊東間鉄道工事も漸次はかどり近く熱海から網代へ伊東と熱海の中間へ迄完成の筈にて伊東町の先の川奈ゴルフ場は愈々東洋一の観光地帯となる可く都人の御到來を待ち居り候。寧日なき医者商賣は投稿も意の如くならず略筆。諸兄御健在を祈上候

○ ○ ○

中 村 武 重

「刀林」の御隆盛誠に喜ばしき事に存じます。信州の山中に移住して早九年、

御はつかしい程時世おくれになったと思ひます。毎日結核菌を呼吸して居ても頑健であります。本を讀む暇も書く暇もない位多忙です。家族は子供三人と私共二人です。來年から一番大きいのが學校ですが、この學校へ行きながらなくて困つたものです。家を建て、呉れ、自動車の大きいのが欲しいには苦笑せざるを得ません。医局諸先生の御健在をお祈り致します。

〇 〇 〇

大曾 根 幾 次 郎

永い間の俸給生活を清算して、水戸を離れて東へ三里、人口一万四千のいとも些かな當地に開業したのは今年の三月でした。町医としては云はゞほんの初學者、障子の棧に摺つてヨチ／＼と歩き始めたばかりです。かかる總てが失敗と珍談の連鎖に過ぎません。家族三四人しかない安悦な過去の生活から今は丸で鼠算式に十一人に増加しました。此の上同じ屋根の下に入院患者がいつも五六人は居りますから、その附添やら、なにやらを合せると二十人位の人が朝から晩までゴタ／＼して居ります。開業医の樂でない事は始めから覺悟はして居りましたか、院長から當直し兼局長、婦長、賄長、會計係までを獨りでやらね

はならぬ苦心は思ひ半ばに過るものがあります。いつになつたら花が咲きますか。

○ ○ ○

濱野 碩太郎

紅葉の候茂木先生を始め医局の皆様御社健の御事と拝察いたします。本年夏は神山敏雄兄と一夕歓談の機を得て、皆々様の御様子を懐しく拜聴しました。八月の昔も昨日の如くです。刀林同人諸兄の御活躍に較べて田舎に配所の月を眺めるの途ですが、昨々月頃より、アツマー例、乳癌一例、卵巣囊腫一例、疝、疝ヘルニア一例等あり、なれたものですが一人でプレ相手にやり出して居ます。カルブンケル等「エピパンナトリウム」を用ひてやつて見てみますが、御経験深き皆様の御教示を待つておます。家族の方は七才女兒、三才男児の二人及天婦で健在です。最近男切除を強ひられましたか、一人ではと考へ京都へ紹介しました。気分は医局にありし時と少しも変わりません。もう一度勉強したい念のみにかられておます。終りに皆々様に宜敷。

〇 〇 〇

辻 岡

元

去る五月慶應病院内科入院の節は種々御配慮に預り厚く御禮申上候、御蔭を以て目下殆ど健康状態も旧に復し診療に従事致し居り候、御承知の如く毎日不規則な無感想な事のみ追はれて其れに病後の事とて疲勞を早く覺え唯安眠を以て目下唯一の慰安とするの情けない状態に居り候、家族の方も以前と少しも変りなく健康状態を續け居り候。小生病後約一ヶ月程伊豆伊東に湯治に居り候節学友小沢君に非常なる御厄介に相成り深く感謝致し居り候。評判もよく熱心に診療に従事致し居られる事とて滞在間も濶歩するの余裕を與へられ候、地方へ御就職の先輩學友さこそと推察せられ慶應外科の爲大いに祝福する次第に御座候。末筆ながら茂木先生の御健康を御祈り申上候。

〇 〇 〇

竹 下 貫 一

恩師の膝下を離れ一年半を過し申し候、田舎開業医の無聊な日々の連續を経験してゐるのみにて愉快のことも面白い事も無之、無刺戟の雰圍氣の中に只老

人じみたことのみ考へ居り候。教室の諸氏益々御発展の御様子を遙かに祝福いたし候。御研究の御發表も紙上にて毎日懐しく拜見いたし敬意を表し居り候。田舎に居る者の母校を知る唯一の樂しみにて母校の業績のみに全福の信頼を置くものにて、母校を離れし者の唯一の糧であり、力強いエネルギーとなるものです。臨床方面の新しい御意見もどしどし御發表を相待居り候。ルンパールに於ける又ヌメルカインの既にトロパコカインに代り居ることは田舎に於ても古きことにてエヴィパンナトリウム等の御發表も心から相待ち居り候。田舎に歸り小生始め家族の者皆健康にて大いに恵まれ益々肥り居り候。子供は長男七才次男四才、目下ハルプが一入有之候、儲け得る自信のあるものは子供のみにて御座候。

〇 〇 〇

渡 邊

敬

拜啓 寒冷^烈しき折柄医局諸先生方愈々御清栄の段御喜び申上げます。偕て外科同窓會誌刀林癸刊の事に關して御通知下され誠に有難く御礼申上げます。然し今日始めて御通知を拜見致しました次第にて締切期間の十一月十五日を経

過してゐますを以て如何とも為し難く誠に恐縮致して居ります。御葉書が奉天を經由して来た為め今日落掌致しました様な次第です故、不悪御諒承下さる様御願ひ致します。約二週間も待たず医局諸先生方に再會するを得るを喜んでゐます。

○ ○ ○

原

廣

治

茂木先生はじめ皆様の御健康と醫局の御繁昌を祈ります。刀林執筆の御命令がありました。只今濟生會未曾有の難局に直面しての事務多端で落ち付いてペンを執れません。次回には何か目先の変わったものでも書いて見度いと存じてゐますから、今回は何卒御容赦願ひます。

○ ○ ○

菽

尾

又

ハ

當地は東京で想像したほど寒くないので、まあ一安心の態です。大病院と異つて暖房装置は不完全ですが、木炭をカン／＼燃やして居りますから少しも寒い感じはしません。當地に参つて一番困るのは患者の應待です。何しろまるで

外國にでも来て居る様で、お互に言葉が通じないので。ムンテラする際に、こちらは熱心にしゃべるし、患者も熱心(?)に謹聴(?)して居る。さて最後になつて解りましたかと云ふと「ネシイ」と来る。解らないと云ふ事です。仕様がなないから看護婦を通譯にして居ます。それに田舎の事で時間の觀念があまりなくて、患者は割に少いのですが暇がありません。外來が毎日十二三人位入院二名です。當地到着の折は早速五所河原三田會で、小方先生送別會小生の歓迎會をやつて頂きました。こんな北の方でも三田出の方が相當居るし、皆様親切にして下さるので非常に有難いし、心強く感じて居ます。

最後に茂木先生始め医局の諸先生の御健康を祝すと共に今日まで育て頂いた絶大な御恩とを深く感謝致します。

○ ○ ○

吉野史朗

拜復秋冷の候医局諸先生様益々御精勵の由慶賀至極に御座候小生も御蔭様を以て元氣旺盛に消光致し居候間御安心下され度候

例年の如く刀林發行の御通知に接し又當地方の報告申上ぐべき御命に接し申

し候へども元來文才もなく至極平凡な生活を致し居る次第に御座候間御註文に御答へ致し得ざるは誠に漸愧の至に御座候。クランケはアツペ及フラクツール最も多く御座候。當地方のクランケは割合にオペラチヨンを嫌忌せざる風習有之其点は愉快に御座候。成功談失敗談としては格別御報告申上ぐべき事無之候。開業以來ニ星齋只管過失なからんこと念じ精進致し居る次第に御座候。近郊清遊の場所としては長門峡青澁島秋芳洞等有之候。昨年と変りたることは妻帯致したる一事に御座候。茂木先生初め医局諸先生の御健康を祈申候。

枯枝に百舌鳥啼いて日は暮れにけり

草居

○ ○ ○

渡邊治生

久し振りに上京しました時皆様に肥つたと言つて頂きましたが、確かに体重を増しました。喜んで居ます。

最近同番地内で轉居しました。

育て、居た犬は犬殺しにやられました。

長唄を止めました。

過去一年の变化右の通りであります。

七六

○ ○ ○

相 見 三 郎

秋も深くなりました。其後醫局の皆様には御健勝の御事と存じます。小生日々元氣になつて参ります故、他事乍ら御安心下さい。丁度季節もよろしく愉快に遊んでゐますし、呑氣に暮してゐます。來年の初めには東京に歸れる事と存じます。醫局訪問を今から楽しみにしてゐます。

○ ○ ○

上 石 英 造

拜復 時下晩秋の候、貴局各位には益々御健勝にて御研鑽の由乍蔭奉慶賀候
緒て今回刀林發行につき御繁忙中態々御通知被下厚く御禮申上候。御趣旨に従
ひ概略ながら近況を御報告申上候

小生は第二回の卒業にして當年三十八歳の働き盛り。連れば其の名静子當年
二十九歳の圓熟期、結婚後己に十年精々に務むれども子實は皆無、然し両性と
も無病息災頗る健康にして、寧ろ子無きを怪しむのみ。されば家庭の無聊寂漠

此上なし。従つて云々!! 舌頗る家庭円満につき御安心を乞ふ。されど子無きため養嗣子を迎ふ。名は貞夫、実兄の次男坊、當年十八才身体頗る頑強、石巻中學五年生、求春卒業早々親爺の母校慶應医科を目指して目下勉強準備中のもの、親心として何とかして入學させたいものです。性は頗る真面目、成績も相當英語教學がよいので來春の事が幾分頼られます。其他に養孺として愛猫一匹、名は玉子、二毛牝、當年六才、アメリカ猫と日本猫との混血児にして血統正しきものなれと啼き聲には変り無し。

○ ○ ○

成 松 清 敏

今秋少しく餘暇を得ましたので、久方振りに會長始め在局皆様の温顔に接し度く、且つは十余年の推移による教室の変わり様も拜見致し度いと思つて十月二十六日出発しましたが、途中大阪で齒の治療に意外の時間を取られました為、遂に上京を断念した様な次第で、今更乍ら残念です。

私はこちらに轉住してから急に視力に異常を來したやうに思ひます。縫合などの折にそれがよくわかります。つまり老視になりつゝあることを痛感致し

す。口鬚にも白いものが長えて来ました。齒も最近可成弱つて来た様で、とうとう前記の始末です。兎に角初老期に這入つた事は確かです。その筈です。四十二年も將に暮れつゝありますもの。先日上阪の節、慶大助手時代に一緒にあはれ廻つてゐた鷺見君に逢ひましたが、共に期せずして慶大時代の若かりし且つは樂しかりし日を追憶し、同氏も「あの時代が一番愉快だったナー、もうあんな時代は絶対に訪れないだらう」と涙ぐんでゐました。

妻も近年俄かにお婆さん振りを發揮して参りました。總ての方面に……。家族は又殖えました。以前お便りした時は確か子供が五人だつたと思ひます。その後福岡在任中又男児が一人生れましたので、都合六人です。何分十二才を頭ですから皆で躰ぎ出したら蜂の巢でも突いた様で、いやはや大変なものです。摺筆にあたり、會長はじめ會員諸兄の御健康を祝福し、向後の御自愛を祈つて息まない次第です。

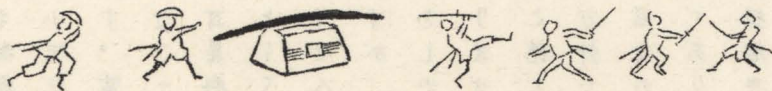
○ ○ ○

成 内 穎 三 郎

前畧 其後全く御無沙汰致しました。御変りなく御活動の事と存じます。小

生も御蔭様にて変りなく毎日を通して居りますので御安心下さい。

小生此度相見君の後任として遼陽に轉任になりましたので此の段御通知致します。當地は昔と変り全く寂れ現在は日本人は四千人位に過ぎず全く發展の見込なき土地なので病院も内科小児科婦人科眼科外科齒科とありまして、皮膚科と耳鼻科が皆外科に廻つて來るのでいやになつてしまひます。皮膚科は先づよいとして耳鼻科の患者が來て顕帶鏡をかける時の氣持のいやな事と云つたらありません。外科だけの事ならば滿鉄病院の大抵の医者には負けない氣持はありますが、商賣違ひのものをやりされるには情なくなります。又此の爲めに失敗をしやすいかと思ひますので、着任すると直ぐ院長に耳鼻科の經驗は全くありませんから出来る丈手を附けないで奉天なり鞍山なりに送る様にしますからと話したんですが院長は不足の様な事を云つて居ましたけれど私としては此の方針で押し通す心算で居ります。滿鉄からの内地留學は十年位たゞなければ駄目なのでそれ迄待つては居られませんか後一二年で歸る考で家の方にも話してありますから二三年で仕事の確實に出来る教室がありましたら御世話下さる様勝手乍ら御願ひ致します。



謝恩觀劇會

恒例同窓會主催、茂木先生謝恩觀劇會は昭和八年十二月十八日新橋演舞場に於て催されました。

茂木先生御夫妻の御出席のもとに、木村先生、前田先生御夫妻を始め、同窓會員七十余名揃つて楽しく新國劇を観賞しました。

途中休憩時間を利用して地下室食堂に會して夕食を摂り、僅かな時間でしたが色んな話もはづみました。

「井伊大老の死」「三面記事」「新藏兄弟」等の芝居も終り午後十時、踊栄える茂木先生御夫妻の御健康と我が同窓會の發展を祈り乍ら解散しました。



同窓會報告

○昭和十年度同窓會役員

會長 茂木藏之助先生

評議員 犬養六郎君

大庭國紀君

大曾根幾次郎君

上石英造君

竹下貫一君

梅村六郎君

柳壯一君

山本順君

前田利三郎君

木村博君

幹事 町田謙二君

橋本文吾君

井手行乎君

島田信勝君

高橋眞雄君

山口恒造君

鷺澤敏三君

小泉次郎君

（繪計）

○昭和九年度會計報告

(昭和八年十一月—九年十一月現在)

収入の部

昭和八年度繰入金

二、六二七・七七

支出の部

昭和八年度刀林發行代

二五七・二六

昭和八年度同窓會補助

五〇・二二

其他

八五・一五

支出合計

三九二・六三

差引残高

二、二三五・一四

同窓會會計 井 手 行 乎 (印)

尚昨年より振替口座東京二九二七五番に加入して居ますから御利用
下さい。

同窓會員寫眞アルバム

「去る者は日々に疎し」と云ふ言葉は私達外

科同窓會では當てはまらぬ言葉で、「去る者は

日々に懐かし」で茂木先生としては眞にさも

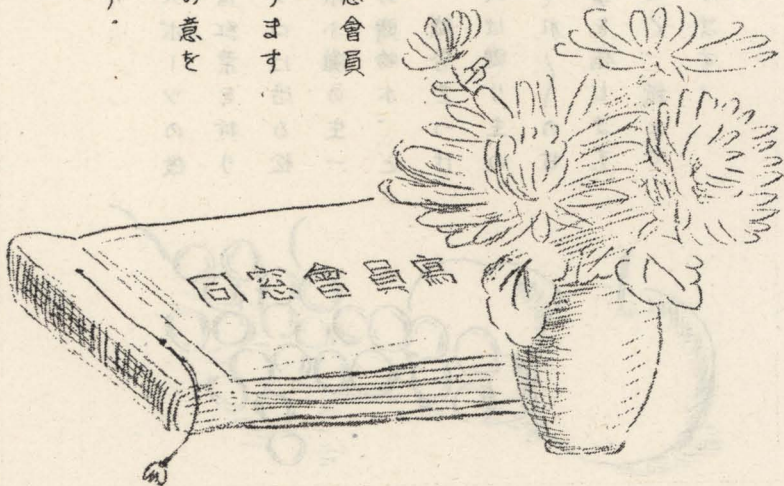
あらんと思はれます、今度先生の御發案で同窓會員

寫眞アルバムも、いよ／＼整理作成に取り掛ります

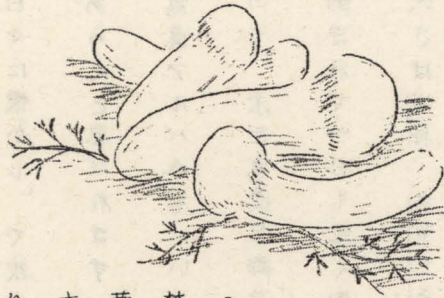
ので、未だ寫眞を御送附下さらない方は先生の意を

酌まれて一日も早く御願ひ致し度いと存じます。

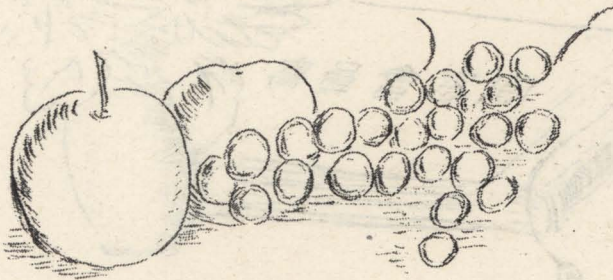
大きさは半身、キヤビネ型です。



御禮



春は花見の酒肴、夏はスポーツの後
の冷たいビールの味、秋は紅葉を折り
焚く風流を真似てガスコンロに焙る松
茸の香り、冬はあつりに集ふ灘の生一
本、四季折々の先輩よりの贈物が、ど
れ丈私達の醫局を賑はせ、威勢をつけ
ることでせう。新しく入局した人達の中には或は贈り主の
お顔を知らない人もあるかも知りませんが、それ／＼の甘
味は充分に先輩後輩の心の繋りとなつてゐる事を信じます。
吾が茂木外科の同窓なればこそその感に堪えません。紙上で
而も略儀で甚だ失礼ですが、厚く御禮を申し上げます。



學 術 欄

外 科 學 會

昭和九年四月二、三、四日東京帝國大學工學部新講堂ニ於テ催サル。當外科教室ヨリノ演題左ノ如シ。

第一日

一、縫合用絹絲ノ實驗的研究

小野田 君

第二日

一、限局性背髓膜炎ノ臨床知見補遺

岩 原 君

第三日

一、妊娠ト虫様突起炎ニ就テ

若 林 君

整形外科學會

昭和九年四月二、三日東京帝國大學法文經一號館ニ於テ催サル。當整形外科教室ヨリノ演題左ノ如シ

第一日

一、各種結核菌製劑注射前後ニ於ケル白血球數ノ動搖……………野崎君

第二日

一、背椎及脊髓膜疾患ニ於ケル腦背髓液所見ニ就テ……………龍野君

一、種々ナル膝關節炎ノ膝關節腔内壓及ソノ「プロイモア

ルトログラム」ニ就テ……………島田君

一、淋毒性關節炎ニ對スル關節内盈氣療法……………島田君

一、背椎カリエスを於ル「ミエログラフイー」所見ト手術所見……………岩原君

一、後頭下穿刺ノ治療的應用……………岩原君

一、新鮮ナル小児上膊髁上骨折ノ垂直牽引療法ノ成績ニ就テ……………前田教授

慶應醫學會總會（十一月八日）

「ミエログラフイー」ニ於ケル沃度油ノ影響ニ就テ……………大内君

宿題報告擔當に際して

野崎 記

今回第三十五回日本外科学會並に日本整形外科学會共同宿題報告「背髓外科」を我前田教授、岩原助教授の共同擔當せられたる事は蓋し大學「クリニツク」として我々の名譽否慶應醫學の名譽之に過ぎた者はない。想へば整形外科学會の宿題（背椎「カリエス」の診断）を京都で報告され學會のため萬丈の氣焔をはかれたのは遂昨年四月の事であつた。而も今年度日本整形外科学會長に推選せられた前田教授の御緊張もさる事ながら御喜びもさやかしと推察する。

學會報告其者の機構も近來益々複雑になつて、報告演説に加ふるに多くの圖表、幻燈、「エピソードヤスコープ」、板は十六耗活動寫真等々仲々大変である。種々苦心の結果、美事なフィルム、スケツ子等續々と出來てゐる。

が何がさて置いても材量の多い事は一大要件であつて患者を集めるのに相當

苦心をしてゐる。さればこそ都下は申すに及ばず、横濱の各大病院にお願して當方に廻して頂いた患者も相當にある。又態々フライの患者を寝台自動車で横濱に迎へに行つた事も数回あつた位、かくして病例も相當数に集りつゝある。「今は教室の非常時であるから」とは前田教授のよく云はるゝ、教励のお言葉である。正に其通りで我々は兩學會の期待に反かない様一生懸命にやつて有終の美をあげたい。

尚左の如く任命せられました。

一、今年度 日本外科学會 宿題報告「背髓外科」
日本整形外科学會

擔當者

前田教授
岩原助教

一、前田教授 今年度日本整形外科学會會長に就任せらる。

島中卓助

野崎寛三

日本整形外科学會評議員となる。

外科教室ヨリ發表セシ文献

一、小兒外科ニ就テ。

(治療及處方、第十五卷第四、五号、昭九、五及六月)

(診断ト治療、第二十一卷第一号、昭九、一)

茂水教授

一、火傷ノ「タンニン」酸療法。

(醫學輯覽增刊号、昭八、十二)

町田君

一、骨折ノ非觀血的療法。

(醫學輯覽第一〇三号)

同

一、腦下垂体腫瘍。

(醫學輯覽第一〇九号)

同

一、結核性腹膜炎ト其ノ外科的療法。

(診断ト治療第二十一卷第四号、昭九、四)

同

一、肺炎双球菌ニヨル比較的稀有ナル二三ノ外科的疾患ニ就テ。百溪君

(治療及處方第十五卷第四号、昭九、五)

一、急性蟲様突起炎早期病變像ニ関スル知見補遺。……………土方君

(日本外科学會雜誌第三十五回、第七号昭九、十)

一、囊腫狀淋巴腺結核ニ就テ。……………同

(グレンツゲビート第八年第十号昭九、十)

一、胸腺ノ外科。……………照井君

(醫學輯覽第一一二号)

一、副甲狀腺腫ニ就テ。……………君塚君

(正中頸囊腫ト誤ラレタル前副甲狀腺腫ノ一例)

(グレンツゲビート第八年第二号昭和九、二)

一、外科領域ニ於ケル硫酸銅應用ニ関スル知見補遺。……………小野由君

(日本外科学會雜誌第三十五回第七号昭九、十)

一、縫合用絹絲ノ消毒並ニ刺貫部化膿防止ニ関スル研究。……………同

(同誌第三十五回第八号昭九、十一)

一、馬鼻疽及其ノ一例。……………同

(グレンツゲビート第八年第四号昭九、四)

一、腎臓ニ原發セル腺癌並ニ該腫瘍壓迫ニヨル腸閉塞症。……………同

(同誌第七年第十二号昭八、十二)

一、異物性慢性炎衝性腹壁腫瘍ニ就テ。……………武藤君

(同誌第八年第五号昭九、五)

一、妊娠時蝨様突起炎ニ就テ。……………若林君

(同誌第八年第八号昭九、八)

一、大腸内異物ニヨル穿孔性腹膜炎ノ臨床例。……………笹島君

(同誌第八年第九号昭九、九)

一、男子會陰部ニ於ケル淋菌性瘻孔ノ一例。……………島田君

(同誌第八年第十号昭九、十)

整形外科教室ヨリ發表セシ文献

一、背椎「カリエス」ノ診断ト治療(三一—二)……………前田教授

(診断ト治療 第二〇卷第一二号昭九、一二)
第二一卷第三一一一—一三号昭九、三一—一)

一、慶大整形外科教室ニ於ケル手術室ノ採光ト特殊器械ニ就テ。

常用藥劑ノ二三ニ就テ。

前田教授

(治療及處方第一五卷第一号昭九、二特輯)

一、背髓前側索切断術

同

(実験医報第二一号第二三一号昭九、一)

一、膝関節脈瘤摘出前後ニ於ケル「アルテリオグラム」ニ就テ。同

(同誌第二一年第二三二号昭九、二)

一、背椎「カリエス」ト肺結核

同

(診断ト治療臨時増刊「結核殊ニ肺結核」昭八、十一)

一、背髓「カリエス」ノ診断。

同

(診療大観 昭九、四)

一、日本人生体ニ於ケル大槽ノ深程ニ関スル經驗

前田教授
岩原君

(東京医事新誌第二八六〇号昭九、一)

一、兜脣及口蓋破裂。(医学輯覽第一〇四号)

前田教授

一、寒性膿瘍。(同誌第一〇六号)

同

一、背椎棘状突起「カリエス」……………同

（実地医家ト臨床第一卷第五号）

一、先天性股関節脱臼後療法ニ用フル腰掛（前田荒木式）……………

（医科器械學雜誌第一卷第八号）

一、背椎「カリエス」ニ於ケル「ミエログラフィ」所見ト手術所見、

（日本整形外科学會雜誌第九卷第二号） 岩原君

一、「ミエログラフィ」ト背椎及背髓外科知見補遺、背髓眞珠腫。

（同誌第八卷第四号） 同

一、「ミエログラフィ」ト背椎及背髓外科知見補遺、背髓血管腫竝ニ類症。

（同誌第八卷第四号） 同

一、「ミエログラフィ」ト背椎及背髓外科知見補遺、限局性背髓膜炎。

（同誌第八卷第五号） 同

一、「ミエログラフィ」ト背椎及背髓外科知見補遺、背椎腫瘍ニ就テ。

（同誌第八卷第五号） 同

一、限局性背髓膜炎ノ臨床知見補遺。（関西医事第一九五号） 同

一、背髓前側索切断術「ヒヨルトトミー」ニ就テ。……………岩原君

(診断卜治療)

一、頑固ナル疼痛ノ外科的療法。(名古屋医事新誌)……………同

一、止血。(大日本齒科醫學會誌第七一卷)……………同

一、背髓腫瘍。(醫學輯覽第一〇七号)……………同

一、限局性背髓膜炎。(同誌第一一〇号)……………同

一、赤血球沈降速度測定ノ實際上ノ意義……………同

(臨床醫學第二二年第五号昭九五)

一、關節腔内盈氣法ノ诊断及治療の價値。……………島田君

(日本整形外科學會雜誌第九卷第二号)

一、關節腔内盈氣法ノ诊断及治療の價値。(同誌第九卷第三号)……………同

一、膝關節軟部撮影法ノ吟味。(同誌第九卷第三号)……………同

一、骨關節結核患者ニ就テ調査セル結核菌製劑注射前後ニ於ケル白血球數ノ

動搖ニ就テ……………野崎君

(同誌第九卷第一号)

外科集談會

第三二五回 昭和八年十二月十四日

一、囊蟲腫ノ二例。

井手君

一、[「]メツケル[」]氏憩室ニ存スル迷芽性脾臟組織ノ一例。

酒井君

一、[「]ブラウン[」]氏腫瘍ノ一例。

武藤君

一、肺炎双球菌ニ因ル節炎及睾丸炎ノ各一例。

百溪君

第三二六回 昭和九年一月二十五日。

一、腸間膜囊腫ノ一例。

板橋君

一、[「]ヒヨルドトミ[」]ノ經驗。

岩原君

第三二七回 第三二八回 ナシ。

第三二九回 昭和九年五月二十五日

一、囊腫狀淋巴腺結核ノ二例。

土方君

第三三〇回、第三三一回 ナシ。

第三三二回 昭和九年九月二十八日

一、主トシテ背椎後部ニ轉移セルヘパトームノ一例ニ就テ……………伊藤原君

一、左側虫様突起炎（内臓轉移症）ノ一例……………土方君

第三三三回 昭和九年十月二十六日

一、背柱側彎症ノ「ミエログラム」……………岩原君

（「ミエログラム」解釈上ノ一注意）

第三三四回 昭和九年十一月二十二日

一、胸椎「カリエス」ニ因ル麻痺ニ對シテ胸椎横突起切除術（一一例）ノ

經驗（映畫示説）……………前田教授

整形外科集談會

第七三回 昭和八年十二月十一日

一、膝窩窩動脈瘤摘出前後ニ於ケル「アルテリオグラム」ニ就テ……………

畠中君

第七四、第七六回 ナシ。

第七五回 昭和九年九月二十日

一、背椎カリエスニ於ケル背髓麻痺症狀ノ一原因（硬膜外結核腫）

岩原君

第七七回 昭和九年十一月十五日

一、背髓腫瘍（頸椎部「エクヒヨンドロセ」ノ症例追加）

野崎君

日本泌尿器學會集談會

昭和八年十二月七日

一、囊腫腎ノ一治驗例

藤原君

一、淋毒性關節炎ニ對スル關節内盈氣療法

島田君

抄讀會

（昭和八年）

第九十回 十二月十九日（火）

一、腸線ニ関スル一知見

木村知君

一、外傷性浮腫ノ治療法。

山口君

一、血管腫ノ制出血の手術療法ニ関スル一提案。

重盛君

一、下唇ノ造唇術。

橋本君

(昭和九年)

第九十一回 一月三十日(火)

一、炭酸瓦斯ノ麻醉中並ニ後ノ應用ニ就テ。

重盛君

一、炭酸瓦斯ノ血液凝固ニ對スル作用。

萩尾君

一、電氣メス使用ニ依ル乳癌手術後皮膚再發豫防。

伊藤君

一、膽石(蛋白石)ニ就テ。

森山君

第九十二回 二月二十日(火)

一、頭蓋損傷ニ於ケル補助診断法トシテノ腦血管ノ「アルテリオグラフィ」。

長坂君

一、龜背發生前脊椎カリエス早期診断ニ就テ。

伊藤原君

一、組織缺損ヲ有スル手足ニ於ケル新舊創ノ肝油キブス繃帶。

井手君

一、外科的診断トシテノ「ラパロスコーピ」。

田村君

一、点滴持續靜注ニ就テ。……………小野田君

第九十三回 三月十三日(火)

一、手術後ノ吃逆ノ療法。……………鍋島君

一、外傷外科ニ於ケル「エヒパン」麻醉。……………野崎君

一、「プリ、アントグリユン」ニヨル火傷ノ療法。……………高橋君

第九十四回 四月二十四日(火)

一、甲狀腺腫並ニ「バセドー」氏病ノ臨床的實驗的研究。……………中野君

一、「ラミネクトミー」及副背椎側手術ニ於ケル危險ニ就テ。……………龍野君

一、a. イレウス時ニ於ケル胃及小腸上部内容ノ持續排泄……………

一、穿孔性胃潰瘍ノ手術十八例。……………島田君

一、亜硫酸ニヨル創傷療法。……………君塚君

第九十五回 五月十一日(火) (以下平面講堂使用)

一、虫様突起瘻造設並ニ汎発性腹膜炎。……………佐藤惠君

一、a. 虫様突起炎ニヨル死。……………

一、b. 廣範圍ニ亘ル第一、第二、及第三度火傷ノ肝油療法。……………山田迪君

一、血液凝固促進劑トシテノ枸橼酸曹達ニ就テ。……………齋藤君
一、 整復セラレザル背椎脱臼ノ治愈ニ就テ。……………島中君

(完全脱臼完全脱臼骨折)

一、虫様突起炎発作再発ノ病因ニ就テ。……………武藤君

第九十六回 六月八日(火)

一、推間板石灰化ノ問題ニ就テ。……………大内君

一、ツエルレル氏アセチレン盈氣ニヨル化膿性腦膜炎ノ療法。……………今井君

一、化膿性腹膜炎ノ療法。……………太塚君

一、外科領域ニ於ケル糖尿病。……………伊藤國君

一、縫合絹絲ノ消毒ニ就テ。……………笹島君

一、外傷性背髓蜘蛛膜下出血ノ穿刺。……………酒井君

第九十七回 六月二十八日(火)

一、外科的急性腹部疾患ノ補助診断法。……………菅君

一、骨性及関節性瘰癧ノ療法。……………淺君

一、骨折治愈機轉ノ時間的經過。……………釜江君

第九十八回 十月二日(火)

一、慢性レントゲン傷害及レントゲン癌治療ノ一法。……………小平君
一、化膿性有臭性肺及肋膜炎患ノ「アルコール」注射療法。……………瀬尾君

一、外科ニ於ケル血清ノ使用ニツイテ。……………橋本君

一、神経營養支配ト癌ノ發育ニ就テ。……………若林君

一、a. 外傷関節ノ「ノボカイン」療法。……………山口君
b. 四肢切断端疼痛ニ對スル「ノボカイン」療法。……………

一、無菌的開腹手術ニ於ケル腹腔内食塩注入ニ就テ。……………竹内君

一、腹腔炎症ニ際シテノ腎臟障害ニ就テ。……………鶴澤君

第九十九回 十月二十三日(火)

一、電波ニヨル異物ノ確証ト探索。……………山田庸君

一、胃切除後ニ於ケル消化管ノ病態生理。……………葛原君

一、薦痛ノ臨床上ノ意義。……………長坂君

一、坐骨神経痛ニ於ケル前薦骨注射。……………宮尾君

一、炎症性直腸肺窄ニツイテ。……………井手君

一、「ペプシン」ニ依ル腹腔内癒着豫防。……………田村君

第一〇〇回 十一月十三日(火)

一、骨髓炎ノ一新療法。……………佐藤君

一、上口唇鼻ノ瘻ノ時ノ内背静脈結紮。……………小島君

一、潜函病ノ股関節障害。……………高橋君

一、「フィラトール」氏法ニヨル管状莖皮膚瓣移植ノ際ニ於ケル

不成功ト危険。……………伊藤原君

一、「アルテリオグラフィ」法ニ於テ脳内血管注入状態ニ對ス

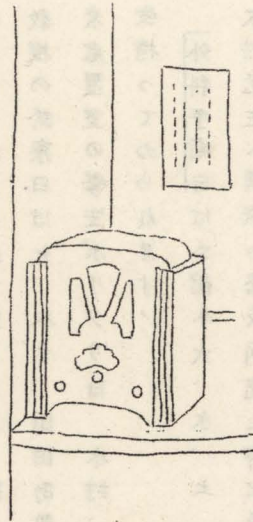
ル脳壓ノ意義ニ就テ。……………野崎君

往年ノバスケット選手
 SAN 氏酩酊シ、深夜某駅
 ノ時計ニ盛ニ誘惑ヲ感ジ、
 跳躍ヲ試ミルノ因



醫局

醫局近況概略



醫局員は外科整形合して五十名内外。上は大醫師藏之助御大將を初め、下は十二回生の寺坂吉右工門に至るまで、わだかまりの無い朗らかな家族生活で、毎日手術、スポーツ、さては學業方面に段々生氣を加へて來た觀があります。

茂木先生には本年二月頃と、この夏に、一寸御不快がありました。只今ではすっかり元通りの元氣を恢復され、例の如く時々野球見物や漁に出かけられます。一方近頃は著述の方で殊に御多忙の裏に、ヤレ手術、ヤレ講義、原稿校正、サテハ外來患者診察と、実に目の廻る様な御活動、誠に敬服の至りで、吾々醫局員も、先生の御努力を見ては冷汗三斗の思ひに堪えないものがあります。醫局の名符を見渡しても、徒らに 堀部安兵衛、赤垣源藏の類許り多くて大醫

師御大の第三世になれそうなのが見當らぬのは残念ですが、一日も早くお嬢様方の御婿様を御定めになつて専ら御体大切の程を祈つて止まない次第であります。

〔醫局〕では例の通り先輩諸方面から戴く、委節々々の色々の贈物で、ビール、酒等いつも賑やかな氣焔を挙げてゐますが、昔の様な勇ましい人々も段々少なくなつて傾向です。此れも御時勢と云ふものでせう。反対に、ヘボ将棋、ザル碁などは少し盛んで、見物がたり兼ねて手を出して指図をすると云ふ始末。之れも非常時に相應しい？ 戦術のたしなみとでも申しますか……。

〔外科外來〕は例年と別に変つた事もありませんが、茂木教授の診察日は、月、水、金で特に毎週火曜日には、第二診療室で再來患者を御覧になります。木村教授の診察日は火、木で、町田助教授は土曜日の診察です。第三診療室即ち外來處置室の學生ポリクリは、木村、町田、神山、百溪、土方、梅村の各先生が受持つてゐられます。

〔外科手術〕日は本館が火、水、土、別館が月、水、金と大体なつてゐましたが、木村先生が横浜の警友病院に御出張になる關係で、近頃は別館の患者も本館手

術場に運んで本館と一所に火、水、土にやつてゐます。最近六百錢十円を出して最新式の電氣メスを買ひました。

〔外科總廻診〕は毎週月曜と金曜日の朝で、金曜日には別館迄で全部部長先生が廻診致します。木村先生は月曜日本館が濟んだ後別館の總廻診を致します。

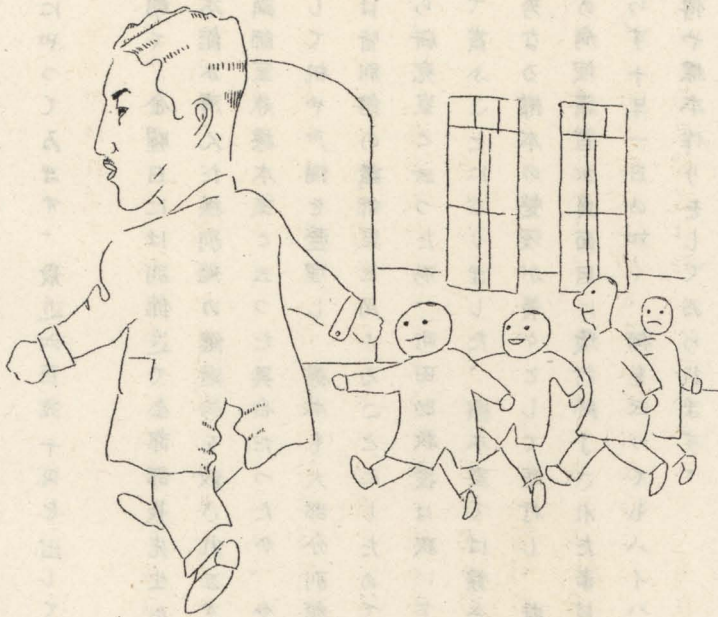
〔外科標本室〕は今迄で、助教教室、講師室兼標本室と云つた具合だったが、今度の福澤先生百年祭の催しを契期として机や戸棚を整理し、標本も大部分別館の標本室に置き代え、更に講師諸君は皆別館の講師室を用ふることにしたので部屋は見違える様に廣々となり、専ら研究室と云つた形、町田助教は狭い乍らも簡単な境を作つて、その奥に居て貰ふことになりました。標本室では標本係其の他の熱心なる努力に依つて優秀なる標本の整理が着々として進行し、特に本年夏は照井君を講師として有志の病理講習が眞面目に續行終了された事は近年の異彩である。小野さんは相変わらず十年一日の如く、何を云つてもハイハイとニコ／＼しながら動物實習の手傳や標本作りをしてゐられます。

更に本年四月以來茂木先生の盛名を慕つて遠く中華民国より二人の留學見學生あることは、時節柄注目に價する。

整形外科 では前田先生の熱心な御奮闘の結果、外来患者も次第に増加し、

九名、着々として見るべきもの多々あり、就中本年は外科学會の宿題報告の爲め大童の有様です。茂木先生の宿題報告以來、吾が教室としては実に久し振りの活躍で、括目期待する事大なる者あるを疑ひません。同窓會員並に醫局員一同の誇りとする處であると同時に、互に後援相努むる處あらん事を希望して止まない次第であります。

〔診察日〕は前田教授の月、水、金
岩原助教授が火、木、土で、學生の
ポリクリは第一診察室を用ひてゐら



れます。

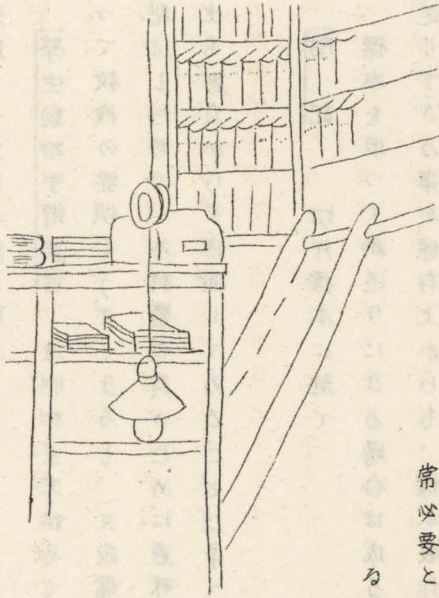
〔總廻診〕 は火、水、土の朝部長之れを全部行はれます。

〔整形標本室〕 は以前は血液及尿大便の検査位出来る様になつてゐたが、最近では整形の溜り場、専ら研究本部と云つた形で、整形の助手諸君一同此処で勉強大いに努めてゐられる。

〔醫局圖書室〕

も此の二三年の間に大いに面目を一新して吾々外科醫の日常必要とする新刊圖書及雜誌は殆んど揃つてゐ

るし、整理も行屈いてゐるから、先づ不便を感じたことはない。百溪君の努力を多とすると共に、貪しい醫局の會計をやりくりして共に苦心した會計係諸氏の勞を忘れてはならない。紛失圖書は殆んど無いと云つても良い位だが、その中でも殆んど全部が外來者貸出に依ると云ふことは各自



注意すべきことだと思ふ。

學生動物手術実習 は昭和五年始めて実施されたのであるが、年を経るに従つて教授の要領もうまくなるし、又設備も整ひ、今日では他大學に一步頭角を現はした形で、外科醫局員のために意味深いことは申すに及ばず、毎年の卒業生も少なからず感謝してゐることは争へない事實である。

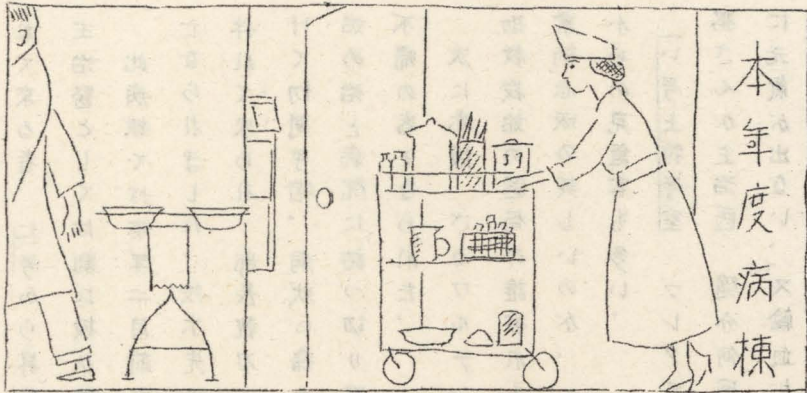
附記

切片標本に就て

標本を取つて御送りになる場合は成るべく一〇%のフオルマリンに浸して御送り下さる事が保存上からも、標本製作上からも一番便利です。標本は脂肪や或は既にネクローゼに陥つてゐる所では分りませんから、健康部と疾患部との境の辺をお取り下さることが大切です。更に臨床所見の詳細なること及場所を明記して下さることに依つて始めて診断がつくと云ふことを記憶して置いて戴き度い。

本年度病棟種拾U。

H S M T



ソレ入院、シレ手術、ヤレ輸血と病院内でも一番活氣を呈するのは、何といつても外科の病棟です。ベットは外科百十六、整形四十九、合計百六十五と云ふ處です。数多く入院する患者の中でも一箇年の間には色々と毛色の変つたものが相當澤山ある譯で、数年後になつて再び刀林を引張り出して見る時、多少の思ひ出の種ともなればと思つて、此の一年間の特種を拾ひ揚げて見ることにしました。

い号下 南に樹が繁つてゐて、風通しもよく、割に綺麗ですが、只省線電車に近いのが王にキツ、病室の大半は外科で占め、患者はろ号満員の時流

れて来る者、に号から昇格して来る者、要するにに号ろ号の中間と云ふ処で、主治醫としては割に扱ひ難い所、主任は七回生の富田ともえさん。

此病棟では本年二月前塾長鎌田榮吉先生が急性耳下腺炎で

亡なられました。茂木先生往診、南胃腸病院から伴れて来られ、部長執刀、水村、瀬尾先生之を助けて切開手術。病状心痛すべき容態で、部長先生始め殆ど病院に詰つ切り百方手を盡したが、遂に不帰の客となられた。

次に赤坂 さるワルテンの女将林くめさん M
助教始め医局の誰彼れも心安い間柄、其の上職業柄赤坂の美しいのが、二人三人と来るので医局からの見舞客も多い。

一い号上特等室 フレグモーネの鹿島イトさん、格さんが主治医、随分何回も輸血をやつたが一向に元氣が出ない、「又輸血だい」と格さん、すると



暮をやつてゐる一人が「誰だい」「い号の上さ」「あ、そうか、未だやつてるのかい」「ハッ、、、、」と格さん氣のない笑ひ。トウ／＼前後二十一回の輸血。外科創つて以來輸血回数ノトップ。

〔ろ号下〕 余り多くもない病室を婦人科と仲よく分けて使つてゐる。色んな意味での社會的名士が多い反面所謂殿様病棟で、患者さんもとことなくゆつたりしてゐるし、看護婦も小春日和に、曰なたばつこをしてゐる様な悠長さである。主任は八回生の兼重いよさん、通常おはあちやんで通つてゐる。患者さんの中で頭角を現はしてゐるのは何と云つても上原御太郎氏で、昭和六年六月より本年五月退院まで、まる三年、病院を吾が家の如く、病院中誰知らぬ者もない位病氣は背椎肉腫、経過順調、退院の際は前田先生主催で茶菓の送別會をされた程です。

次に黒水親慶氏、腹膜炎。少壯時代には滿蒙で活躍されたとかで、見舞客も荒木大將始め知名の士が多い。横山君受持で大分手古摺つてゐられたが、主治医の知らぬ間に指壓療法とか鍼などをやつたらしく、思ひかけぬ腹腔内出血を起して亡くなられた。此事以來病院外よりの治療は一切嚴禁することになりま

した。

一一二

〔に号下〕ほんとに吾等が病棟と云ふ感じのするのは此処と、ほ号下ですが、とりわけに号は醫局員とか他科の人達がよく入院するので、其の親しみは特に深い。一寸用を頼むのも、胃散や注射薬を都合して貰ふのも大抵此処である。又看護婦も自ら外科を以て任じてゐる所為か、いやな顔もしない。主任は九回生の日川けさよさん。

患者の中でカルブンケルの厚母キヨさんは市内のさる出酒張り屋の迷醫に、「奇麗的にも助からない」と見放されたが、鍋島君の努力で、多少意地もあつたが、宛に角厚紙をはぐ様に良くなり、一命を拾ひました。

次に茂木先生の興様とお嬢様が感冒で二月御入院、尋いで先生も二三日感冒で御入院、何れも経過短かく御退院。

清水川元吉氏は御承知の相撲界の大関、九月山陰地方の巡業中右の股関節を脱臼し、直ちに帰京。茂木、前田、岩原の諸先生始め當直員其の他總掛りで整復、後で夜中に茂木先生の御馳走のビール澤山。経過は順調、整復大掛りのレコード。

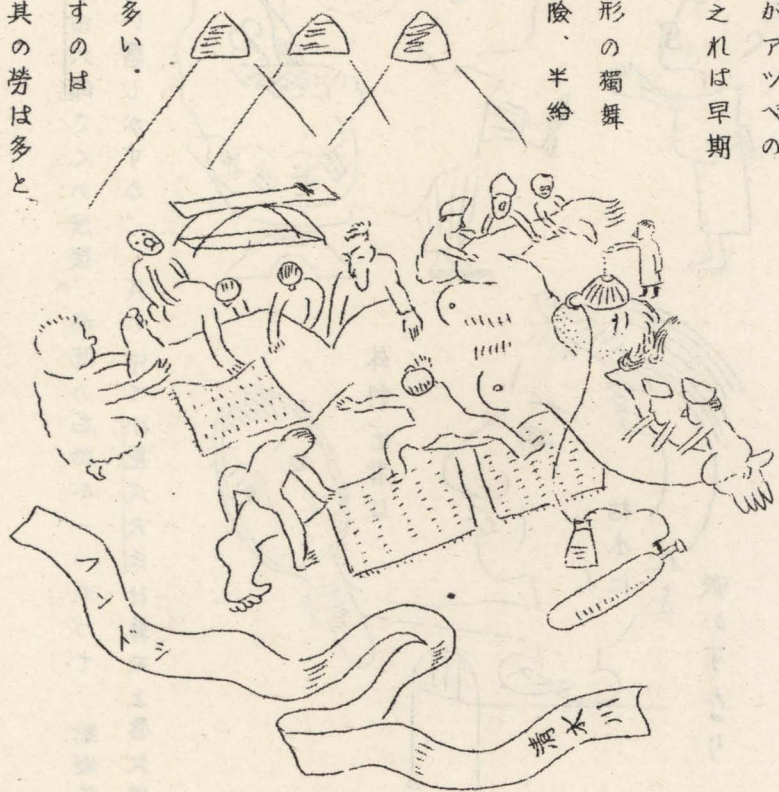
更に水村先生の息さんがアツペの術后三日で歩いて退院、之れば早期退院のトツプ。

〔ほ号下〕 此処も外科整形の獨舞台、色々な學用患者、保険、半給フライの患者が大部分。

従つて珍奇な疾患や外傷性の重篤の者の多い事は他病棟の比ではない。

患者も多いが忙しい事も第一、病棟として活氣がある反面、

病床には涙をやる者が多い。此の雑沓を鮮かに切り廻すのは十一回生の窪田榮さん。其の勞は多と



するに足る。

患者は皆操御承知の戸田六郎さんの没後、病院の名物が一つ減って、總廻診の時も何となく物足らない感じがする。其の中で小見久夫氏は鼻及上唇欠損で三月以來、水村先生の

の「イタリー」氏法

の変法に依る

整形手術で、最

近漸く立派な

鼻が出来、以

前と見違へる

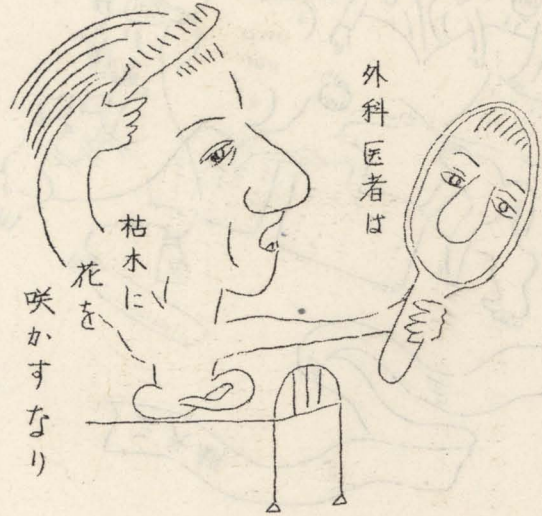
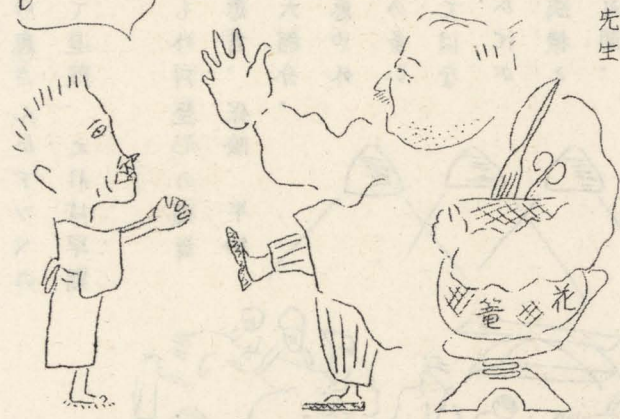
様な色男にな

つて、周囲の

花は散り

唇破れ

はは寒し



患者達を感心させてゐます。

中山トシさんは山で栗拾ひしてゐる処を兎と間違へ

られて、散弾を浴せられ、頭部丈けでも

二十五、其他全身五十四の散弾が留

つてゐる。幸に命に別條なし。

西脇某女、自動車外傷、汚い手拭

を頭にかぶり、着物はボロ／＼而も

虱や蚤がウヨ／＼、皮膚も汚れる丈け汚れて何年風

呂に入らないだらうと思はれる程で差當り見るべきブルスも一寸觸れて見る氣

がしない。遠くから首を延ばして顔色を覗く。お正月で貰ひ溜めた餅や米の袋

を懐中してゐるらしいが、取られるとでも思ふのか、着物も腕がない。三度々

々の食事も着では氣分が出ないらしく皆手づかみである。流石に看護婦も主治

醫も之れには參つた。汚いことの随一。

は号上、一番興の五人部屋一室を整形で使つてゐる。主任は十回生の三澤と

くさん。一廻所丈け離れた処に在るので、當直の先生大抵廻診を忘れる。夜十



時頃になると、「こちらはほ号の上ですが、廻診はして下さらないんですか」と電話でスネる。「あ、失敬々々、忘れてたよ、今すぐ行くからネ」と恐縮すると、「もう結構です、患者さんが皆お寝みになりましたから」。ナードだ。そんなら初めから電話をかけなければ良いのに。存在を無視されてゐる様な気がするんでしよう。

別館南三階 新館の所謂モダン病棟、風通しもよく、外苑に面してゐるので見晴しの良いのが特長、秋から冬にかけて富士山が森の蔭から顔を出して来る。患者は本年初め頃満員になりかけたが、普通半分位の入院、本館から一寸離れてみるので患者の家旅が多少不便に感じる為かも知れない。主任は五回生の志田さくさん。

患者は小児科の鑿目先生が水虫退治に使った×線が禍して潰瘍を作り御入院植皮等で随分永くかかつて全快。其の他特記すべきものもなかつた。

別館東三階 此処は大部屋の個々のベットを獨立式に距て、ゐるのが特長。三等に入院するなら此の方が住み易いかも知れぬ。運動場に面した看護婦詰所から野球を見るのに都合が良い。此処も患者が平凡で取り立て、云ふ程のもの

も無かつた。主任は十回生の結城とまささん。
 尚入院患者附添看護婦は今迄で大抵和服でしたが、本年十一月一日から皆白
 い看護婦服を着る様になりました。

去年十二月から本年十一月迄で

外來新患總數 六七三五名

外科 四四九九名

整形 二二三六名

外科 一六〇七名

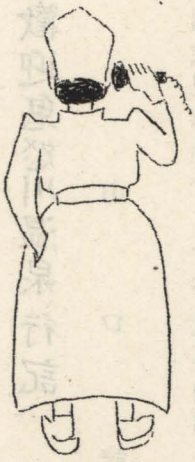
整形 四三三名

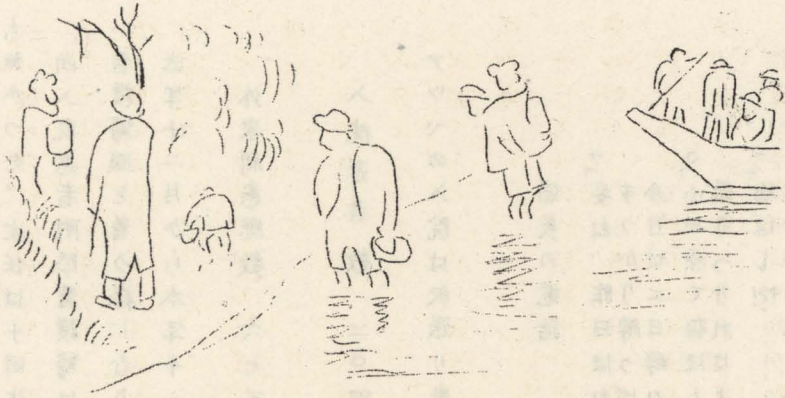
入院患者數 二〇四二名

アツペの入院は矢張り患者の大部を占めて約四百六十二名でした。

婦長の電話

「妾ね、昨日はね、熱海へ行つてね
 すっかり酔うばらちまつてね
 今日ば二日酔ひなのよ
 〇小田原で梅ぼし買つてお齋へ
 張りつければよかつたに
 「梅ぼし!?!.....」





新入局員歓迎鬼怒川温泉行記

山口 記

四月十四日吉例歓迎旅行を、下野鬼怒川温泉に行ふ。正午頃三々五々と医局から一升徳利を大切そうに抱へた連中が淺草へと向ふ。電車がものの三十分も走りぬ内に、もう車中は上を下への大乱闘で、網棚にねてゐる奴、吊り革にぶら下つて電燈を蹴飛ばす奴、窓から一升壺をポカン／＼と投げ出す奴、電單はありとあらゆる狼藉振りを兼ねて大滞へ到着した。プラット・ホームの直ぐ下はもう河で、大きな舟が一同を待つてゐる。ドヤドヤと降りたつた一同はその舟の上に美妓数名を衆見して思はず歓声をあげた。

二艘の舟に分乗して、満々たる水を湛えた大漕を漕ぎ昇る。数日來の雨で、舟はなかなかの難航だ。天狗連が飛び出して、我も我もと先を争つて臚を押すので、却つて舟は進まない。

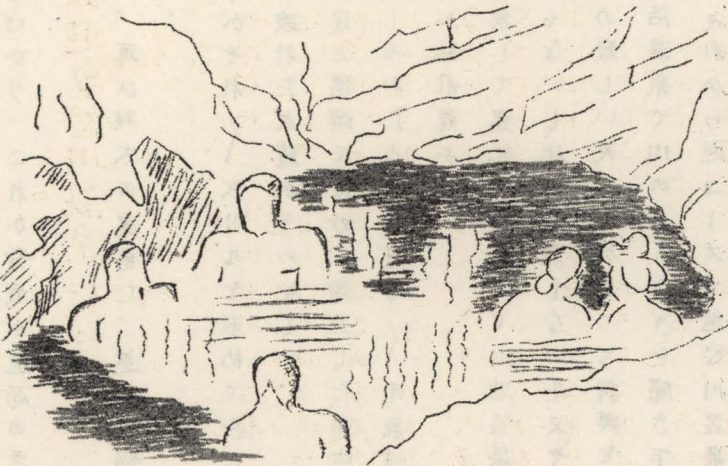
とうとう舟は目的地まで昇らず、途中で坐礁してしまつて、ここでジャブ／＼と河を渡つて上陸した。素早い奴は美人を背おつて悦に入つてゐる。

それでもとうやら鬼怒川温泉山水閣に五時頃到着した。

先づ入浴だ。鬼怒川の四月はまだうら寒く、湯の暖かさがしみ／＼と身にしみる。

「いで湯にて思ひ出せし母の懐」と云ふ先人の句を、ふと胸に浮べて見る。

都塵と今日半日の旅の疲れを落した一同が



大廣間に集つた。見渡せば何れも劣らぬ豪の者ばかり、これが皆我が医局の者かと思へば頼もしき極みだ。

豪の者四十名に集る美女二十名、宴會が始る。再び興太の連発だ。遂に吉例グロダンスまで出でて、いつ果てるとも知らず、

將に興の頂天に達した時、トラになつた連中がそれ／＼スリルを求めて街に出て行つてしまつた、後に残つた缺けた徳利と破れた太鼓がうら／＼しい。

明ければ十五日、又好天氣に恵まれた。寝不足と宿酔で奇妙な顔をした連中が朝食に集つた。しかし又この胃袋に朝の酒がしみわたると、見る／＼元氣は

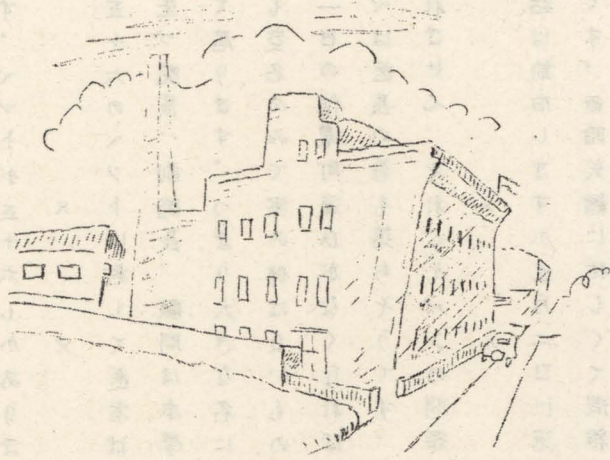


は恢復して、昨夜の手柄話が乱れ飛ぶ。

十時頃教台の自動車に分乗して鬼怒川にそふて川沿温泉に向ふ。山々には春の新緑もないし、秋の紅葉もないが、又そこには云ふに云はれぬ春の寂しい美しさがあつて詩興をそゝるに充分だ。晝食は川沿温泉で、川のせ、らぎを聞きながら、いかなの味を楽んだ。それから逆コースで鬼怒川温泉へ戻り、午後五時無事浅草に帰着して、この旅行を終つた。

警友漫語

土 方 生



警友病院の事を書けと云ふ橋本編輯委員長の御下命でしたが、どんく〜曰が經つのに一向氣衆りがしない。

でも約束だから漫文めいたもので御赦しを願ふ事とする。詳細はちか〜に御來駕の上駕と御實驗を乞ふ。

倍濃町から横濱まで四十七錢、バスに乗つて警友病院前まで十錢、十分程の距離です。

四月七日に辞令をもらつてわんさ〜と忙しい開院準備に日を暮し、愈々五月十五日から診療に従事しました。

縣下六千五百の警察消防職員と、縣警察部関係者とそれ等両者の家族とがお客さんです。一般患者も診ます。何しろ比較的廉くて医者が丁寧で治療にインチキがないので評判がよろしい。ですから直ぐ大入客止めの盛況です。その筈です。ベツトが五十六しかありません。

X X X

五十六のベツトに對して医者は甚だ贅澤です。

先づ院長、副院長、顧問は本學の教授兼任で一週一日宛仲好く信濃町通ひをして居ります。つまり大きな名に對して僅ばかりの實を示さうと云ふ法です。尤も空名のみで實の伴はないものはどん／＼整理をする方針だそうですから一週一日の信濃町通ひがなくなれば當然學校の方は首になる筈です。講師の首が飛べば医長の首も落ちそうです。こうなると僅ばかり持ち出しの足代には換えられませんか。それこそパンの問題です。

X X X

話は前後しますが五月二日に落成式を花々しく行ひました。その前の日が大変です。無暗矢鱈に忙しくて混雑してゐて汚れて居て、ちらかつてゐて、眼が

血走つてゐて、息がはづんでゐて、聲がうはづつてゐて、凡そ大地震の最中に隣から火事が出たと思へば大体気分が出ます。その日の午后四時に警察部長が巡視に来ると云ふ電話です。

さあ事務長があわてました。彼氏は元刑事課長で正直一途の好人物。ですからあわて、午后一時から一切器械の搬入を中止し、院内を整頓し掃除をして午後四時を待たうと云ひ出しました。後は明日の落成式が済んでからと云ふのです。トラックは器械類を満載して玄関前でブービーやつてゐます。或は器械屋は電話で「只今東京をトラックで発ちましたから」と云つて来てゐます。そこへ事務長がもう搬入まかりならぬと云ふのです。外科の医長は少々つむじを曲げました。「誰が視に来たつて良いぢやありませんか。我々は急げてゐるのでありません。皆一生懸命やつて居るのに仕事がすまないのです。でも明朝までには必ず間に合はせようと思ふからこそやつてゐるのです。濟みもしないものを濟んだ様な顔をして表面だけ取片付けて視て貰つたつて何になります。それよりも有態アライに皆が一生懸命努力してゐる所を見てもらつた方がどれだけ正直で好いかわかりません。それに今から搬入を中止して了つて今晚と明日一日ト

ラックに積んだまゝ、荷物は一体誰が責任を持つて保管するのですか。僕は徹夜



でも今夜中に入れてしまひます。そして明朝
八時迄には必ず片付けて室を掃除しておきま
す。今から思ふと随分歯の浮く様な啖呵を切
つたものです。而し事實は心配する程の事も
なく問題の午后四時頃には一通り片付しまし
たし、肝腎の部長の巡視が有耶無耶。「外科
の医長は一番小さいが一番こわい」誰かそん
なことを云つたさうです。

外來に來る患者で一番多いのは外傷です。

多くは柔道によるものですが特に鎖骨の皮下骨折はなかなか澤山來ます。よ
く聞いてみると警官の柔道と云ふのは甚だ頑張りが強くて當然倒れるべきのと
ころをクソ頑張りに頑張るので体が奇麗に返り切らないで肩を下にしてモロに
床に落ち込むのださうです。だから多くは鎖骨外端の直接骨折です。肋骨骨折

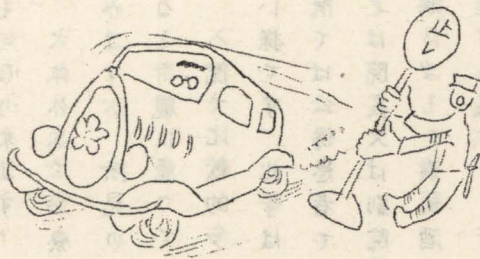
も可なり來ます。

大体外來で治療します。次に多いのは腰痛で勿論多くはレントゲンをとつてみますが、所見のあるのは殆んど稀で、熱氣を行つて撒曹プロカノンを注射すると奇麗に癒つてしまひます。矢張り職業關係が多少はあらうかと思ひます。入院で比較的多いのも勿論外傷ですが、これにはあまり重いものは却つて少い様です。此等は何れも公傷のものが大部分で一切縣費で治療されますが、病院では公傷患者で入院したものには一様に天恩葡萄酒と云ふ行事を行ひます。之は院長又は副院長、事務長及び医長の立會ひの下で病床で、恩賜金によつて購ひました葡萄酒の一杯と、外科患者ならば更に同様の性質の繙帯一卷とを贈呈する儀式？です。先日は一度に六人も行ひました。

手術は全体として余り多くはありませんが、中で虫様突起炎と痔核が可なりあります。痔核は手術をしないで呉れと云ふ註文を出されるので手術は必ずしも多くはありませんが、する程のものは大ていホワイトヘッドです。

甚だ少いのが悪性腫瘍の手術です。イレウスとヘルニアは各種比較的多いやうです。死んだ患者が開院以來六人ありまして、あまり名譽の幸ではありませ

んが各科中第一かと思ひます。但し此等は大部分他の外科医又は内科医から送られたり、逃げて來たりしたものです。何處の統計でも外科は内科よりも稼荷が悪いのは扱ふ患者の性質或は疾病の時期の關係上誠に止むを得ない事と思つて自ら慰めて居ります。



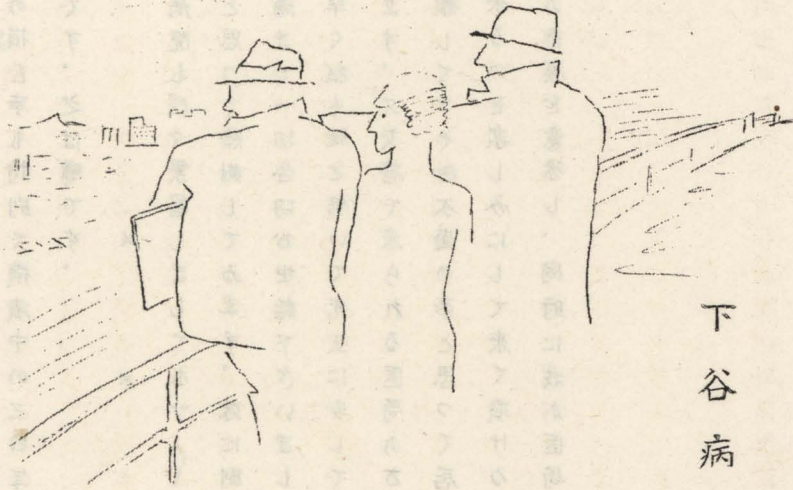
病院には寝台車の外に兼用自動車があります。朝はそれで運ばれるわけですが、寝坊をして自動車のくる時間に間に合はなければ置いてきぼりを喰ふ事になりますから皆一生懸命に早起きをして八時頃には揃つて出勤することになります。この点仲々勤勉です。その自動車の運転手が刑事上りでその運轉の猛烈な事は市中既に定評があります。前面に院章の櫻花が燦然と付いて居ますから大概のスピードも黙認されますし、たまに交通巡査に注意される様な事があれば彼氏窓から顔を出して「ヤアヤア」と云ふ調子で、O・K. となります。これを顔の運轉と云ひます。その代り

車の損む事も特別で横濱中の三四年型の車の中で病院の車が一番ひどいと云ふ噂です。之は噂です。

病院も段々繁昌しましてボツ／＼増築の話もある様です。これも皆様のお蔭と思つて感謝してみます。殊に副院長として水村先生は外來から病室から手術場まで一切合切お世話下さいまして誠に恐縮の至りです。

早く私も腕を磨いて先生に少しでも御迷惑のかゝらぬ様になりたいと願つて居ります。又交蒼で來られる医局の方々には餘り症例も多くないので雑用ばかりお願ひしてさや御不満の事と思つて居ります。何時かは皆様が横濱に出張の頃番の來るのを楽しみにして來て頂ける様にし度いと思ひます。それは即ち警友病院の発展を意味し、同時に我が医局の隆昌を裏書きするものでありますから。

(九・一一・一六)



下谷病院 雜觀

T

K

一二八

灰色の寒い空だ。低い然し遠いその空の下に大川が淀んでゐよう。其處まで、其處から又先まで、ずうつと工場や、汚い屋根の續き、そんな風景を、ホームを昇る階段の高窓に嵌め乍ら、立てた外套の襟に肩をすぼめて、上つて行つた二人である。

「あそこに行くのは○田ぢあないかい」。

「お、、せうらしいな、一つ驚かしてやれ」。

急ぎ足で改札を跳び出した二人は狭いスカートの下に、ピチンと締つた絹の足首

に追ひ纏つて両側から、はさむように並んで立つた。

「あら？」と恐らく小さな声で云つたであらう。左眼深に載せた帽子の下から
双の眼を、黒ずんだ上野の森に透らした。何かチャツカリした返報が口紅を衝
いて出そうな所、訊ねた返事はその儘に、案外可憐らしく、

「先生方こそ；、今時分どうしてこんなところに？」
二人揃つて右手を首に庖丁のように當てたものである。

「口を見付けに出掛ける所さ。」

「死談はつかし。」

「冥は今日から、それ其處の……」 陸橋のあちらに軍艦型の煙突をさし示
して、「病院勤めになつた所だよ。」

鶯谷の跨線橋は、すばらしく風通しのいい通路だつた。橋の中途から振返つ
て見たら、その女はまだ後向きのまま手摺の脇に佇んでゐた。一年程も見なか
つた彼の女は、刈り上げた襟もとが少し寒さうであつた。

x x x
町田助教授の下谷病院外科部長就任に一月遅れて十二月一日、醫局から半年

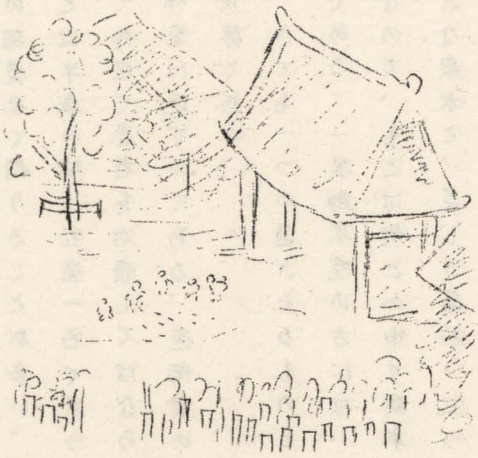
交替の出張が始つてから丁度一年になる。最初、板橋と二人で屋上の寒い日向ぼつこをやり乍ら、四谷に歸參の日を勘定してゐた頃に較べると、今は總勢五人で、小さな外科医局の出張所、慶應系の内科、耳鼻科をこき混ぜて、野球のナインを組織すれば、Aクラスの覇者に向つて、「いっちょ、もんでやらうかい」と來る豪勢振りである。

鶯谷駅の高台から眼の下に眺めた病院の非常時型の大煙突は、市電の坂本二丁目からはいと、くねくねと曲つて行つたお寺町の中で、コンクリート三階屋上に聳えてゐる。朦朧車夫に連れ込まれて、帰り路に迷ふ、狸の棲んでゐるような根岸の里は、案外、近間でありそうである。

下谷病院に過ぎたるものが二つ許りあるようである。東京府醫師會下谷病院と云ふ長々しい肩書もその一つである。こんな肩書は過ぎたると云ふより無きも哉と思はれたこともある。自分達が出し合つて建てたと思つてゐる町中の医師の中には、期に望み、此の病院を充分過ぎる程までに利用することを忘れない人が多い。内科の二人で當直してゐると、此處の内科には如何に臨終間

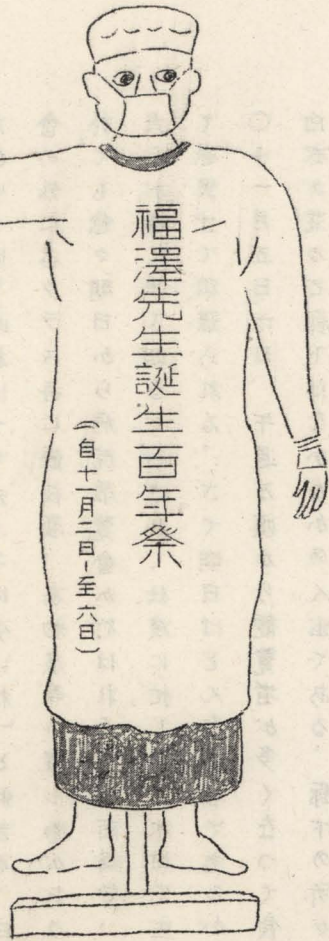
際の患者が無理をして送り込まれて来るか、分る。而も多くは真夜中に。が外科にとつては又それがよい所もあるといふもの。「ペリトニチスをなんで、ハッ、チヤラ、でい」とおつしやる程の膽と腕とを授けて貰へるのである。熟し過ぎたるアツベを慶應では「下谷型」と何時とはなしに呼ぶようになったが、下谷ではそれより前に早期手術を「慶應型」として珍重して居った。下谷の外科は実に繁昌することがある。入院四〇の定員を一〇も一五も超過して、耳・内・婦科の部屋まで借りることが多い。その大半がアツペであり、腫瘤の類の稀なることは半歳の間、乳癌一名であつたので、もうかゞはれよう。下谷病院は原則として外來で患者を治療してはならない。退院出来るようになった患者は以前の紹介医に返すのである。医師會の看板が無かつたら、随分と繁昌しそうな氣がした次第である。

さても一つの過ぎたるものといふのは、実は何の罪もない石ころのことなのである。一度御來院の方には、あゝあれかとお分りになる。金巻萬圓也の庭石なので、もとは何か申す源本のお屋敷跡ださうで、中庭には狹い中にも、大きな泉水と、美しき庭石、三つの石燈籠、頭の焼け折れた銀杏の古木に、古井



子の水から花びらが石碑をつたつて、はねた滴をよける裾がほころびる。

六ヶ月と纏った下谷の出張は実に有意義なものである。慶應に在つては或は得られまいかと思ふ膽と、腕と、そして同時に慶應といふ意氣をしみじみ感じさせられはしないだろうか。数少い吾外科の出張所にこれは又仲々得られまい良き鍛煉場を得たことを祝福するとともに、町田部長の下に益々奮ふ後の人達に心より御健闘を祈る次第である。



高橋 記

○十一月二日 午過、手術の無い体をブラリと医局へ現はすと三人ばかりがラヂオの第二放送を聞いて居る。長椅子に掛けると婦長が大テーブルの向ふに書き物をして、ラヂオからは何から毛唐が大声で話して居る。さうだ、三田大講堂記念式からの中継だったのだと思ひ出す。次に聞えるW大総長の話はさすがにうまいと思つた。誰やらが「チト下品だね」とは言つたけれども。次に恐ろしく唄れた老人の声が響いて来た。「誰でせうね、これは」と婦長が言ふ。「カドノ幾之進」と一人が婦長が振り向く。夕方になるとハトロン包みを抱へ

た先生方が二三人歸つて來られた。見るとモーニングか何んかで三田の式へ行つて來たらしい。「うちのオヤヂもあ、いふ處へ出ると立派だね」「さう／＼席が一つ空いてた。M先生のですよ」。丁度そこへ來て座つて居られたM先生は「ほほう」と言はれたさきり。福沢先生自傳といふ部厚い成書と大きなグラフのお土産を見て俺も行けば宜かつたと思つた。

○十一月三日、四日 今日は日吉デーだ。日吉へ出張された橋本先生は、運動會の救護で医局には姿が見られない。昔から三田の運動會はシヤンが多いとは定評であるが、日吉は如何か。歸つて來られた橋本先生「來るの來るのを一々見たがやつぱり此れはつて云ふのは少いね」と仰言る。日吉には二日に亘る運動會の外に各クラス毎に餘技展、古物展等の催し物があつたさうである。四谷に於ても愈々明日から病院展覽會が行はれる。平面講堂、大廊下それから別館あたりが遙くまで明るく灯されて仕度忙しい。木村先生も風邪の咽に繻帶されて派更まで頑張りれる。さて明日はどんな具合であるか。

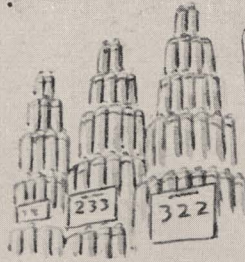
○十一月五日、六日、午過る頃から觀覽者が多くなつて食事を濟ませた先生方の白衣が混ると廊下はなかなかの人出である。廊下の所々へ長椅子が横へられて

外科陳列室

アッ!
俺、ガアルゾ

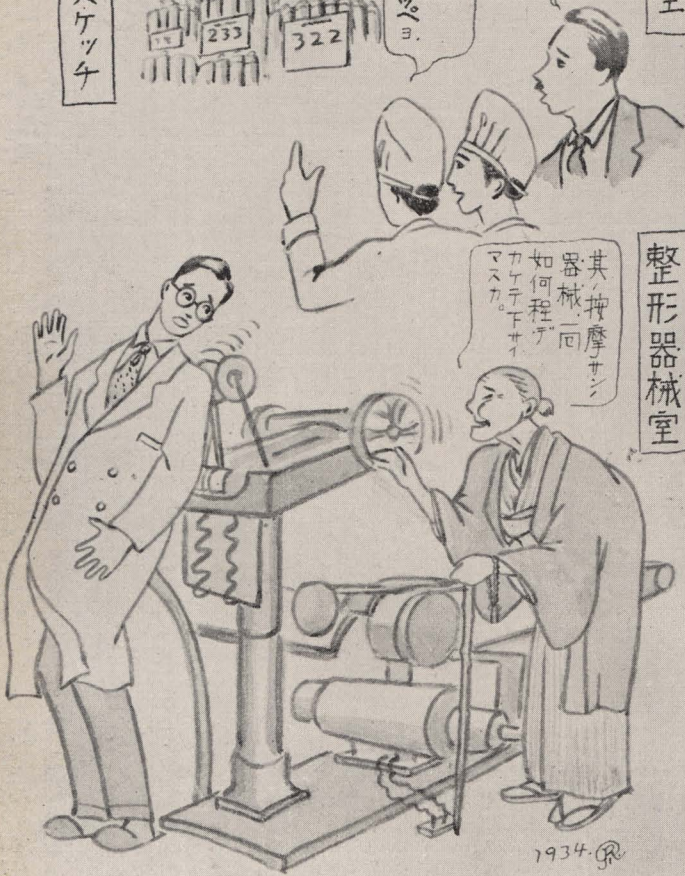
下カラニ段目デ
右カラニ番目。
アレ、Aサン、アツ、ヨ。

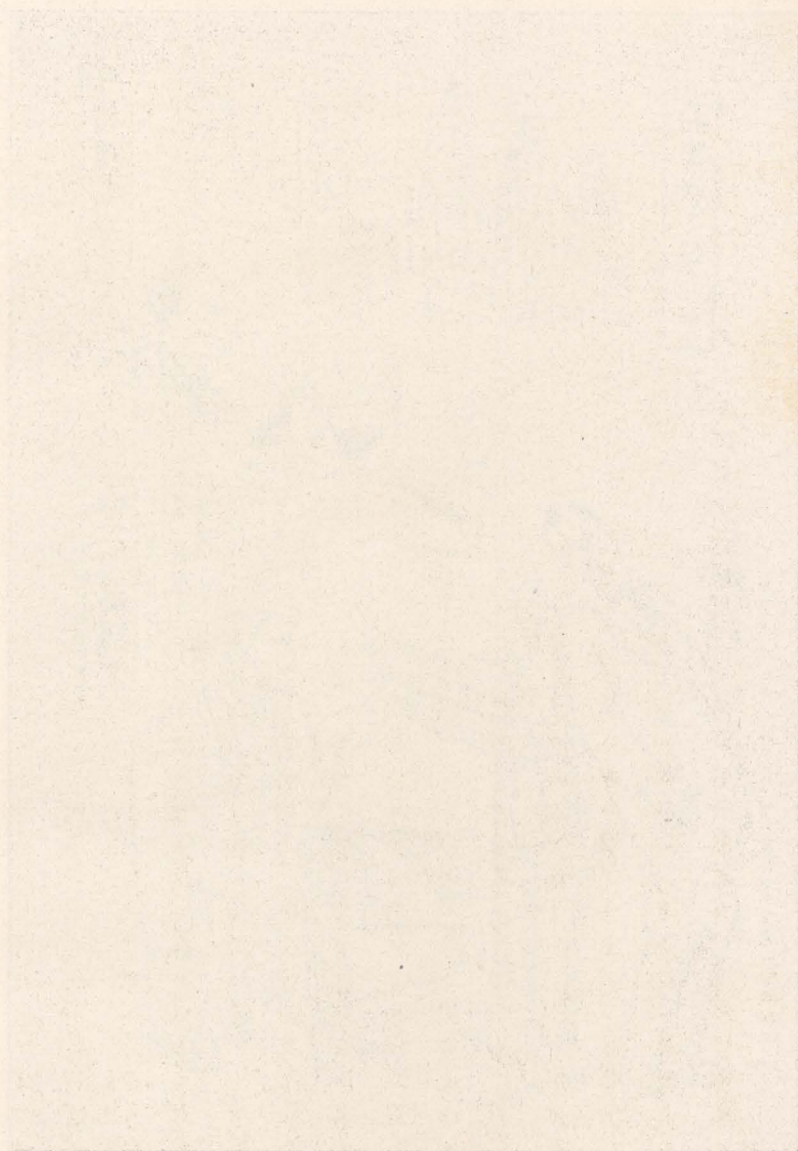
百年祭スケッチ

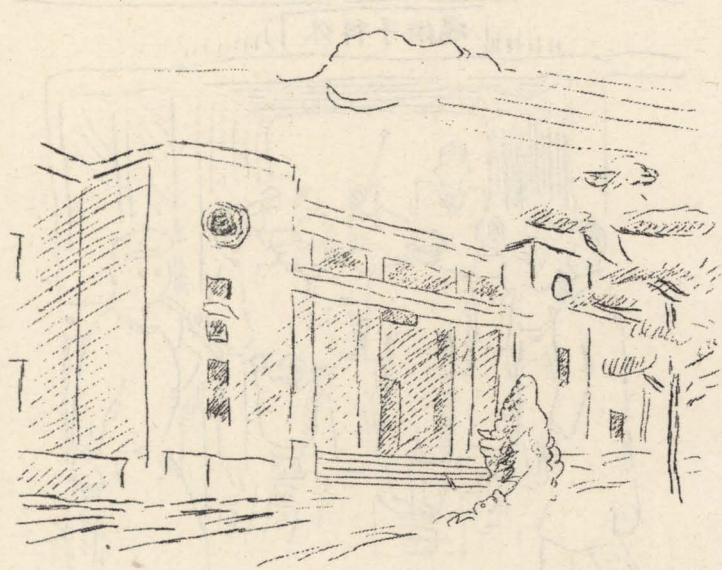


整形器械室

其、按摩サシ
器械、何
如何程デ
カケテ下サイ
マスカ。







ない人である。頭越に格さんの長い顔と四角い肩が見える。「此は電氣メスと

通行止となると一通りの鑑覧コースが作られた。外科の出し物としては、先づ第一にアツベ塔である。毎年度の数をグラフにしたものでK先生苦心の作と點頭かれる。標本塚に漬つたアツベを見て「此れは何ういふ虫ですか」といふ奇問があつたと説明役のK先生が苦笑される。手術場は目立たないので誰もが素通りする。そこで妙計案出。御存知ですか繻帯坊主を。あのグロな大人形に手術の粉装をさせて廊下に立てたのだから誰でも一寸遠入つてみたくなるし、他の科の連中は「ほ、外科の奴はやつぱり器用だ」と言ふし。一旦其処へ這入ると身動さも出来



言ふ奴です。」と一しきり説明する。さう云へば、此の頃医局で電気メスの原理

が論議されて居たのを思ひ當る。専門家も来るからうっかりした事も言へんしな。子供はい、よ、一寸切つてやろかと云ふと逃げてしまふし、女學生は電気メスマあ恐いと言ふんで近寄りやせんよアツハツハ」と迷懷される。

最後に別館だ。標本室三つをぶつ通して血型無料検査場としてある。来る来る。わんさわんさだ。新人がシユニットを耳朶へ。mさんが血型に就いての説

明役だ。此處の突當りの壁に掲



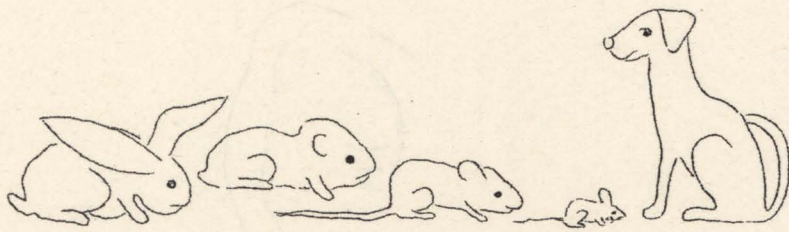
殊ニ若イ児ノ採血ハ良イネ
 フワ〜ト軟カクテ、其レデ相當
 抵抗ガアツテ、グツ！ト
 入レル時ノ氣分タラ
 タマラナイヨ、エヘ、……
 ダツテサ、

採血ノチャンピオン〇氏

げられたのが木村先生の鼻整形
 の寫真であつて、先づ圧卷であ
 らう。「今日は馬鹿に混んだね
 日米野球が了つたんで、電車待
 つ間を一寸といふところだらう
 とは悪口屋である。
 明日は最後だからもつと多い
 ことだらう。」



一三七



食研動物座談會

比古

キー／＼ キュー／＼ ボン／＼ カサ／＼

犬 ムウ ムウ ツワン！ ツワン！ おい一寸静かに

して呉れ給へ、そろ／＼ 定刻だ、始めると

しやう、おい／＼ そう葉の中へ落り込まないで顔を揃へ

て呉れ、黙呼をするよ！

犬！ あっ！ 犬は俺だ、猫君！ 猫君！ 猫君は来て居なかつ

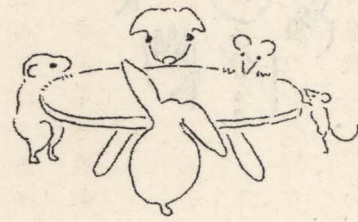
たかね、先刻顔が見えた様だつたか」

マズ「あのー犬さん、猫さんは一度来たんですが、今は外科の

人に別にいちめられて居ないし、それに今外科の医局の方

で何かお魚の嗅ひがするから其方の方が大事件だから失敬

しますつて帰つちまいました。でも暇が出来たら又来るつ





て言っていました。

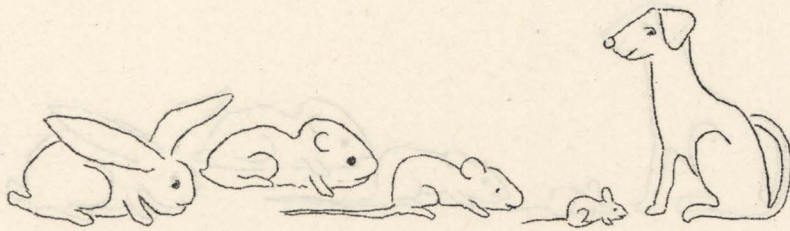
犬「では兎君、居ますね、次モルモツト君、ラツテ君、マウス君、居ますね。ではと、今日は座長格の猿君が、覚え立ての仕事がやけに忙しいから、僕に座長代理をやれとの事でした。諸君、此の卓子に座って円卓座談會といかう。

犬「何、座ると見えなくなる？ あゝ、マウス君か、では背伸びして居給へ。」

モテ「僕もだ。」

犬「では速記屋さん、これから頼みますよ、見出しは、食研に於ける外科醫局員の吾々動物に對する態度改善要求座談會として下さい。」

諸君吾々動物に對する外科の人々の虐待振りは実に言語に絶するものがあります、今此所に諸君の遠慮のない、有りの儘の惨状を發表して下さい。何れそれを纏めて虐待の手を緩めるべく要求します、それが通らねば最後は「断」の



一字あるのみです。

「同」ヒヤ／＼、チユー／＼、キー／＼」

犬」と云つても唯諸君が取止めもなく云ひ出したのでは、速記も取り悪く、纏がつかないから、幸ひ此所にお猿の入眞似で作られた所謂ブラツクリストがあるからそれによつて被害者が順に速べたらいいだらう。

先づ三階病理には土方久顕さんが居るが別に吾々には被害はない、同じく三階薬物の鍋島勉さん」

兎^A「僕鍋さんに随分ひどい目に會はされちやつた、薬の注射位僕強いから我慢出来るけれど、頸切つてガラス管入れられんの樂ぢやなかつたよ」

兎^B「でも夏中十月末まで海軍さんの演習で留守だつたので樂ちんしちやつたね」

犬「次、二階の医化学ではと、居たく、君塚正さん、どうだこの人に就いては」



兎「ハイ、居ます、塚さんはね、私のおしつこを取るんですよ、それが度を過すと腎臓まで取つちやうんですよ、

犬「次細菌室、居るね、犯人がずらつと並んでるね、先づ、

神山敏さんについて、

マウス「この敏さんて人却々するいんだよ、だつてね、僕を取つ

つかまへておいてね、口の

端へ硝子棒に菌を塗つて

ね、持つて来るんだよ、

御馳走たと思つてつい

嘗めるとね、豈計らん

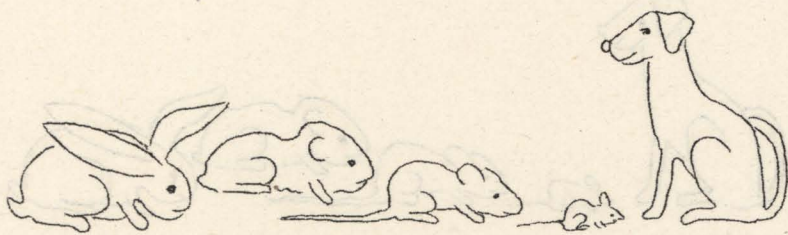
や、吾々鼠仲間のチブ

スだつたりするんだよ、

そして、翌日は生きてる

のにお腹を切るんだよ、

犬「ウン、惨酷なことをするな、よし、次は藤原道純さんば



マウス「僕此の頃はよく知りませんが、前には相當むごい罪なことをしたらしいですよ、でも今は細菌丈けを澤山いぢつて居る丈けだから少しは楽だけれど。」

犬「同じく細菌室の橋本文ちやんは。」

モル「彼文ちやん却々の悪人ですよ、何時も夕方わしを捕へるです、そしてわしの腹の中へ注射をして一と晩置いて、わしの命を取るです、実に怪しからんです。」

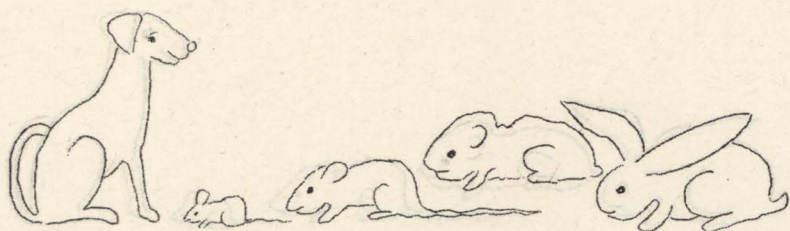
犬「次同じく、笹島彦次郎さん。」

一同「ガヤ／＼／＼。」

犬「静かに／＼先づ兎君から、彦兵衛さんは非道い人だよ人間のアツペ丈けいぢればいいのに吾々健全なる動物に薬品を注射して腹膜炎を起させやうと努力してゐるんだよ。」

モラ「そうだ／＼腹膜炎でも生きてりやいいけれどすぐ殺すんだもの。」

犬「そうか／＼、却々いかな、では階段を降りて動物実



習室へ行かう、此所にも沢山居るな、百溪定七郎さんから
どうだねい。

兎「座長！ この人は特別だよ！」

犬「格別激しいのか？」

兎「いんにや、是非吾々一同の名で表彰しなくつちやならな
いんだよ」

一向「そりや又何故ね」

兎「だって親切なんだもの、食べものが、いいんだよ、君、
牛肉を呉れるんだよ」

犬「何、牛肉？」

兎「座長涎が出るよ、でも無理もないよ、動物小屋の小母さ
ん達も羨んで居るもの、そねめ、そねめ」

一向「甘くやつてやがるなア！」

犬「次瀬尾賓三さん、被害者は斯く申す吾輩だ、頸に仕掛け
をさせられるんだ、弱って居るよ」



犬「その外、伊藤國男さん、畠中卓助さん、小平正さん等々が、吾々犬類を虐めに來るんだ」

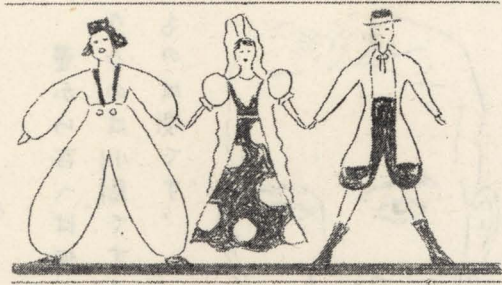
兔「今にね、医化學へね、酒井欣朗さん、田村信介さん、若林研爾さんの三人が來るんだってさ、今はまだ、西校舎で準備中だけどね、大敵が増えるね、お互に身を守つて専らお役に立たうよ、反抗するばかりが能ぢやないし、それが吾々実験動物の天命天職なのだからね」

犬「やけに穩健になつたね」

モマ「でも兔さんの云ふ事に理があるよ」

犬「そうだ、全くだ、では速記さん、見出しを、唯食研動物座談會と改めて下さい。では之で打切りとしやう」

同「速記屋さん、御苦勞様」



新入局員紹介

僕達が醫局に入つて一番最初に驚いたのは歓迎旅行です。旅行そのものも驚いたものですが、先輩が皆どうも皆よく飲むんです。僕達だとして皆いけない口ではないんです。僕達の中で一番豪の者も先輩の誰れ一人にも相手にならないんです。けれど入局以來チビリ／＼ガブリ／＼やつて居りますんで、其の中には腕より先に上達するのと思ひます。飲む話で思ひ出しましたが、佐藤壽郎は福島の酒屋です。福島の人は誰れでも知つてゐるか知つてないか知りませんが「福一カ」と云ふ清酒を造つてゐるのです。酒屋の息子でも佐藤は餘りいけません。けれども矢張り酒の中で生れ酒の中で大きくなつただけはあります。一緒に飲むとすぐ赤くなります。そして「お銚子」を持つて「まあ飲め」とすぐ注いで呉れます。奨め方は中々うまいんです。商賣氣がつい出るんでせう。け



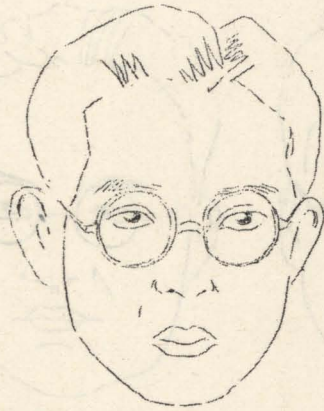
けれど必ず返杯しないと機嫌がよくないんです。すぐ「いや君飲め」って注いでやると如何にもうれしさうに「にんやり」笑って盃を出すんです。飲み度ければ一人で飲めばよさうなものです。相手の欲しい所は将来酒飲みになる素質は充分あるらしいです。

量から言へば何と言つたつて葛原でせう。飲んで直ぐ赤くなつて機嫌がよくなるのは小島です。普段でもさうなのですが、飲むと哲學を語り人生を論ずるものは濃いです。



運動は僕等の平均身長と平均体重とから見ればお解りになる通り皆何にかやるんです。けれど學生時代に本當にやつたのは小島の野球と、渡大内のバスケット今井佐藤のテニス、佐藤憲のボート、葛原の田盤投げです。小島のピッチャーは速球を生命とします。彼のカーブやドロップは却つて打た

れるのです。何の事はない生命とする球速がおちるからです。小島は酒は好きらしいです。そしてすぐ赤くなつて「ネバマイン」^トと他人を近寄りせな
いんです。彼の鼻と口が尖つてゐるのと同様鼻っばしが益々強くなるんです。
酒を注いでやると「にんやり」笑ふ佐藤壽はテニスのチヤンです。見た所は
何時も「にや／＼」して、口の聞き方が何となく甘つたらしい。けれどテニス
何時も積極的です。



今井はテニスはねばつてゐれば勝つと言ふ事をよく知つてゐる男です。けれど彼は最後返ねばることをしないで積極的に打つて出て負けて了ふ事が多いです。今井は色の白い子供の様な。話はするけれども遊びは知らない男の様です。学生の時は殊に豫科の時はさうでした。けれど本當の事を言ふと遊ぶ事なら中々よく知つてゐるんです。

つい口が上つて遊びの話になりましたが、Y談を一寸真に迫つて芝居たつぷりに話すのは葛原です。彼の遊びは「内地に始つ



て満洲に終つてゐる」さうです。「何故終つたか
つて？」それは彼に美しいフィヤンセが出来たと
云ふ話を聞けば諾づけられるわけです。

葛原のY談を聞いて、「ごんちきしよう止めろ」
と勢力的な声を出すのは渡です。人間は誰れでも
さうなのでせうか、遊んだ翌日「もうあんな馬鹿
らしい事はしない」と思ふものです。渡はこれが
激しいらしいんです。彼はこれが激しいらしいん
です。彼はよく人生を話す哲學を論じ人物を批評
し痛快な声を出して笑うんです。葛原は利口な男
です。

同じ様に痛快な笑ひでも竹内の笑ひは無邪氣さ
が大変あるんです。彼は背は高いし手足は大きいし。顔は額骨が高く、顎が張
つてゐます。何處から見ても決して器用に見える男ではないんです。骨相學か
ら見ても決して器用な顔ではないのですが、けれどこの人相を持ったものは何



方かと言へば努力家なのです。竹内は努力家です。そして闘志満々たるものがあります。テニスも相當やるし野球も上手下手は兎も角捕手をやつて大きな身体でボールを止めるんです。

竹内と一寸反對の様に見えて反面似た所のある様なのは大内です。彼は小泉と一緒に整形です。大内

は見た所話した所すぼらの男の様です。學生時代試験の前なんか「俺は未だ一回も讀まぬとか、或は來る電車の中でやうやう一回讀んだ」とかよく言ふんです。けれど聞けばよく知つてるし又試験の成績もいらしいんです。人間には



「俺は勉強しなくたつて此位のもんだ」と他人に見せたい見られたいと思ふ心は誰れにもあるもんです。だけど人間と言ふものは裸にならなければいけません。彼は今中々コンディションがいいんです。悪女房は貰ふし駄目だ」と言ひながらも文献調べをやつてゐます。

背の一番小さい鶴澤は運動もしないし酒も飲みません。けれど野球は見るこ

一五〇



とは好きで外苑の救護は何時も缺かした事はありません。彼はすぐ夢中になり易いんです。此点渡と似かよつた点がないでもありません。あれじや駄目だと簡単に決めつけるのです。と同時に又褒めて呉れるのです。上面^{エッジ}だけでなく褒めて呉れるから難有いんです。

人の中々褒めないのは山田庸です。彼位ブバツタ顔と身体は一寸ない様です。彼自身ナポレオンと言ふてる様に押し強い男です。酸いも甘いも相當知つてる様に話をします。ローマンスもあつたらしい、あるらしい、あるであらうらしいのです。彼は自動車の運轉が出来るんです。鶴澤も簡単に奮

るんですが山田も相當奮る方です。人が奮るのは人が善い証拠なんです。二人とも中々善い男ですよ。いお嫁さんがあつたら世話してやつて下さい。



今年出たもので女房持ちは今井と大内に當ります。菅が一番こばい顔をしてるです。だけど御本人中々さうは思つてゐないんです。彼は決して怒らないし又腐らないです。勝負事をやっても、勝つても負けても大して嬉しがりも悔しが



りもしないです。ぢや勝負事は嫌いかと言ふと好きらしいです。現代には珍らしい男です。こゝだけは確かに聖人の資格は充分あるんですが、他の方面は全部落第です。「そんな退屈な人妻し嫌ひ！」と淑女さん達は言ふ事でせう。けれど彼は平氣なんです。「女は一人居れば澤山だよ」とほのかに北海道から連れて來たと言ふ女房の惚氣を言ふです。

酒を一盃飲んでも嘘をつけないのは久崎です。ほんのり櫻色と言ふのは中々色氣のある風情ですが、それは色の白い人の事です。それが久崎は相當に黒いんです。黒い所が眞赤になるんですから男性的だと云へばそれ迄ですが、何の事はない酒天童子なんです。彼は本當に「いかつく」見える男です。彼位「いかつい」言葉なり顔付きなりのものは一寸ありません。

久崎は生理に足掛六年居て講師であつたのに對して山田迪は頭は随分禿けては居ますが、解剖に四年居ただけです。年だつて頭ほど食つては居ません。彼は醫局で二番目に顔が廣いんです。(一番目は言はなくても解つてますが)何故つて言ふんですか。彼の額額はとても廣いんです。そして頂頭部に亘つてゐる



んです。こんな廣い額はさうめつたにあるものではないです。で結局彼の顔はとても廣い事になるんです。禿げてゐる人間に悪人はないと云ひます。彼はおとなしい本當に人のよささうな人です。

佐藤憲と小泉は同クラスです。佐藤は去年学校を出ると同時に濱松の梅村先生の所に一年間居て梅村先生が医局へ歸られると一緒に此春新しく入つてものです。小泉も一年間濟生會に居て来たものです。

小泉は現代人です。上衣は茶色でシングルです。顔は鼻がつんと高くて中々苦がみ走つた方です。これ繪は晝くし、音楽は解るし、又殆んど總ての現代の運動はやるし、それに人さばりはい、と來てるんですから全く申分ないで



此レ以ハ描ケマセン
良クカケバ悪イシ
悪クカケバ聊カ
文句ガ出ル筋カ
アルマスノデネ
ワタン



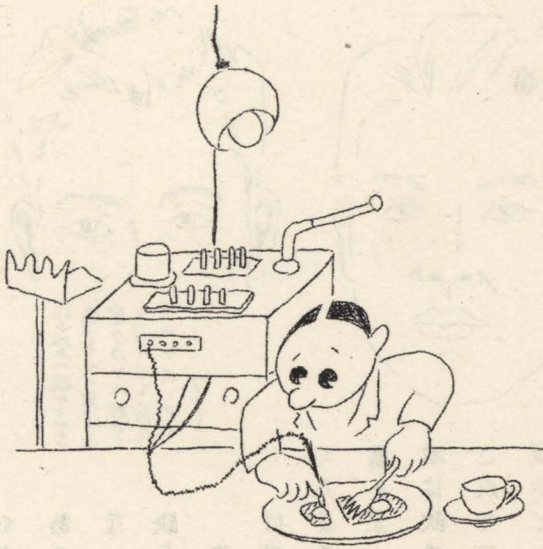
です。餘り褒めるので不可思議おかしと言ふ人も
あるでうが人間に缺點のない人なんか一人も
ないんです。缺點がないと言ふのはそれ自身
缺點なんです。

佐藤憲はホートをやリホートを漕いでゐるれ
は機嫌のよい男です。頭はいつも奇麗に分け
てゐますし、色は白いんですが美男型ではなく何
處となくつつげんどんな感じの話をする男です。
酒は飲まない代りに食ふ事は幾らでも食ふです。
これで日曜以外は朝は食はないと言ふんですから
彼がどんなによく寝るか又は女房と仲のいいかい
解力でせう。

以上くどくどと書いて來ましたが、人間なんて言ふものは結局棺の蓋を覆
ふて見ねは分らないものです。棺の蓋を覆ふて見ても年代が経てはどうなるか
分りません、けれど又それが何百年かの後にはどうなるか又分らないんです。

せめて現世に於て動物學的に如何に皆体格が良いか御覽下さい。

最大体量	二十三貫	平均	十五貫三百匁
最大身長	五尺九寸	平均	五尺四寸五分



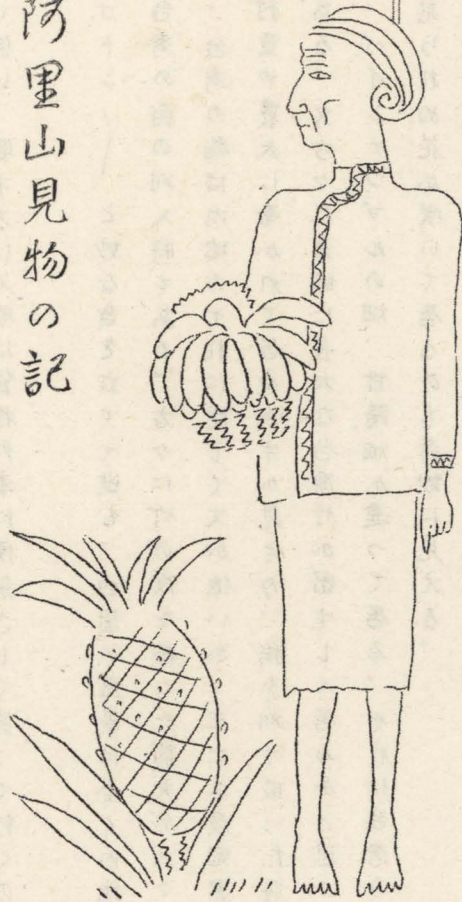
も、たに

やるせなきハムエッグスを喰ふごと
電氣メスにて切らんとぞ思ふ

夏の日にてニスの球を追ふ我を
小さき兼雄は汗をして待つ

阿里山見物の記

茂水藏之助

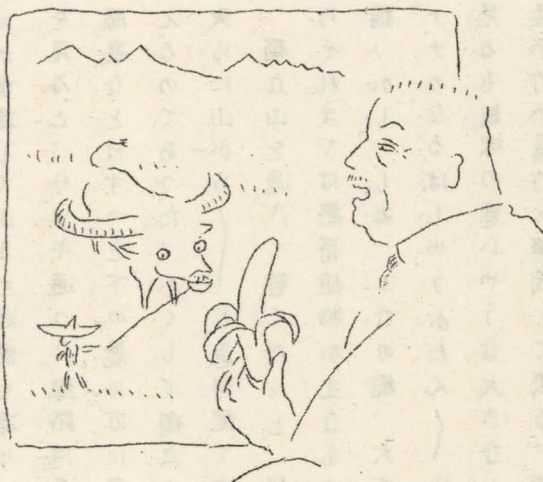


台湾醫學會参列を好機として、東洋の名景阿里山の見物をなす。十一月二十六日台北ホテルに於ける醫學會懇親會を終り、少憩の後、午後十一時三十分朝鮮醫大の廣田教授及李講師と共に、台北發の夜行列

車に乗りて嘉義に向ふ。午前五時三十分嘉義に下車す。町はまだ薄暗かりである。驛前の青柳旅館に入りて朝食を摂り、晝の辨當を作つて貰つて、午前八時五分阿里山行きの汽車に乗り、汽車は特製の登山列車と云ふのであるが、小さい汽車で、荷物の運搬が主となつて居る。多くの貨車が聯結してあつて、客車は僅に二個だけで、しかも客車の下にも荷物が横から入るやうになつて居て、客車の天井は至つて低い、要するに人間は貨物列車に便乗さして貰つて行くのである。

汽車はガタ／＼ゴトン／＼と妙な音を立てて進む。四圍の風景は全く内地とは異なる。今は台湾の稲の刈入時である。方々に竹の皮を被つた農夫が三々五々立働いて居る。台湾の稲は内地のそれに比して丈が低いが、年に二度宛熟ると云ふ。所々に村童や農夫に牽かれて居る水牛が見える。稲を刈り取つた跡の田を耕やすのである。又方々に素的に長大な台湾竹が密生して居るかと思へば高い砂糖黍の畑、パインナップルの畑、甘藷畑が連つて居る。それに台湾の甘藷には内地では見られぬ花が咲いて居るのも奇妙に見える。

鉄道がだん／＼山に差し掛かるに従ひ、田が少なくなると同時に、芭蕉の大



木牛の見える風景

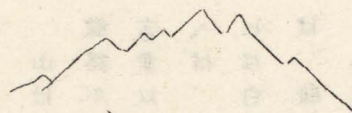
きなのが見える。それにバナナが房々と生つて居る。それから椰子や賓榔樹や
パパヤの樹や棉の木や名も知らぬ珍妙な木や大きな草が繁茂して、綺麗な花も
咲いて居て、如何にも台湾の土地の豊饒さを思はせる。汽車中には官許の腕章

を附けた案内人が居て、色々と説明して呉れるのだが、なか／＼覚えきれぬ。汽車の進み
は至つて遅いのだが、周囲の風光の應接に急
がわしい。汽車は漸く進んで樟腦寮と云ふに
着いた。村童がバナナを賣つて居る。十錢で
二十四五あつて樹に生つた儘熟したのでなか
なかに旨い。

汽車はいよ／＼阿里山鉄道の名物なる獨立山
のスパイラル線（螺旋線）にさしかゝつた。
此の山の高さはいくらであつたか聞き漏らし
たが、樟腦寮からは見上ぐるばかりの高い大
きな山である。其の山は十数個の長いトンネ

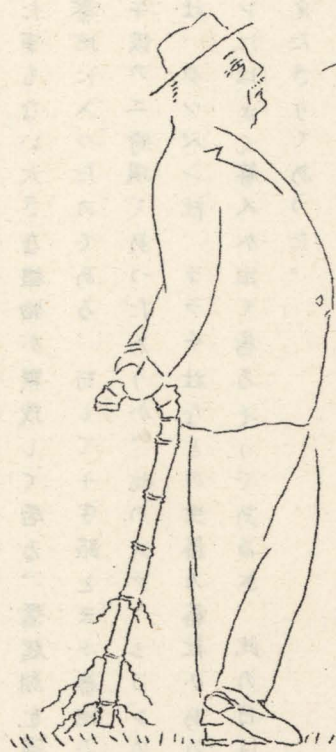
ルが貫通して山を三廻餘も廻り／＼て登って行くのである。一廻りして下の方を見ると、サツキ通った線路は遙かに目の下にある。況んやパナを買った樟脳寮などはずつと下の麓の方に見える。此の樟脳寮は三度も上から／＼と見えるのであつた。かくして獨立山を登つたが、それから山を下るのではなく、更らに山から／＼と急勾配で進んで行く。

獨立山を過ぎて暫く行くと、熱帯林と暖帯林との境界線なる標示がある。即ちそれまでは熱帯植物が主なものであつたが、それからは暖帯植物となり、樟脳、かし、しゐ、ぶなの樹、大きなしやくなぎ等が多くなつて来る。而してパナなるばしやくがだん／＼小さくなり、実がならなくなつて来る。而して見るも氣味の悪いやうな大きなしだ類が見える。又大きな台湾竹が無くなつて孟宗竹や眞竹が繁茂して来る。特に水社寮附近に於ては山と云ふ山が、山頂から麓まで満山竹で包まれて居る、それは竹の林ではなくて、竹の大森林である。又、ステーションが屋根も壁も柱も竹ばかりで作られて居るのもおもしろい。台湾は甚だ肥沃で、切つた竹を土地に挿しても、直ぐ根が生えると云ふ事である。金山竹に包まるゝも宜なる哉と思はれた。



しばし

絶景に見とれるうちに！



上るのである。登るに従って所々に山高の標示がある。又、日本内地の高地や山々、例へば、富士見高原、上高地、妙義山、阿蘇山、霧島山、赤城山、等々

奮起湖へと云ふても湖があるわけではない。で上下の汽車がすれ違ふへ阿里山の汽車は上り下り一日に各一回しか無い。汽罐車に水を入れたり、荷を下ろしたりするのに暫らく時間がかゝる。丁度晝時なので持参の辨當を開く、やがて汽車は又、ガタンゴトンと怪音を立て、山を登つて行く。山を登つて行くと云ふても道があるわけではない。足溜りも何もない急側面の懸崖に僅かに汽車が通るばかりに切り開いた岩路をたどり或はトンネルを潛り或は深い谷の上の橋を渡りながら山を攀ち

の標示が同高の場所に建てられてあつた。

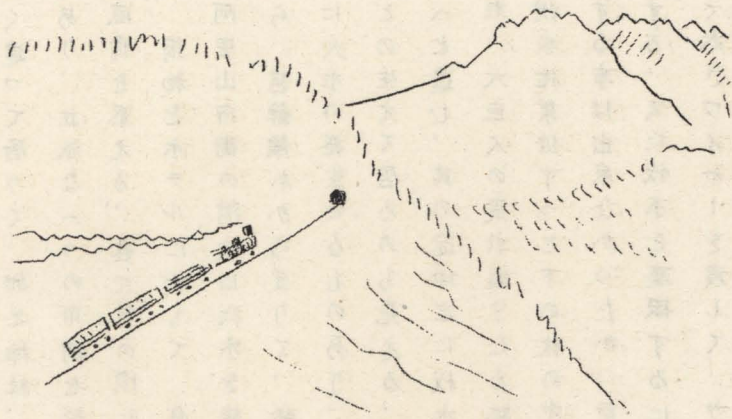
山の勾配は益々急となり、汽車は喘ぐやうに登つて行く。山は益々深く、見た事もない大きな植物が繁茂して居る。奮起湖を過ぐる事暫くにしていよいよ蕃地に入つたのである。而して十字路と云ふ蕃地のステーションに着いたのは午後の二時頃であつたろうか。此のステーションの左右の深い谷に近くトマヤ社、タツペン社、ララチ社などの生蕃の蕃社があるので、十字路のステーションにはよく蕃人が出て居るそうであるが、此の日は生憎僅かに二人の蕃人が見えたりであつた。

山は益々深く、勾配はいよいよ急になつて来る。二万平の附近からは所々に線路が切り換えになつて居つて、チツクサク状に山を登る。深山幽谷と云ふ言葉以上に物凄く、所々に途方もない大きな巨巖、奇石が隆出して居るかと思へば、鉄路の線上線下は幾百丈とも知れぬ断崖となつて居る所がある。山の裾には白雲徂徠して居る。山氣は身に迫りて膚寒く感ずる。二万平の少し前から、暖帯林が温帯林となつて居るのである。

午後三時頃汽車は漸く阿里山の頂上に到着した。此處は山高実に七千尺にも

及んで居るのであるが、所々の山の凸地、又は平地を利用して人家が可なり多く建つて居つて、加之神社、佛閣、小學校、郵便局、発電所、クラブ、旅館等あり、立派な一つの市街を形成して居る。所々に櫻樹の葉が紅葉して居るのも風情を添える。春三月の頃には此の山上に櫻花爛漫たるものありと云ふ。

荷物をホテルに托して、直ちに奥山行きに汽車に乗り伐木作業を見に行く。阿里山市街の附近は伐木を禁止してあるので、到る所に巨木林立し、蔓、かつら、苔蘚類がからまりて、幾千年の昔を忍ばせる。或は太古の倒木の上に更らに大木の発生せるものあり、大きな宿木の繁茂せるあり、或は大樹の幹に蘭などの生えて居るのも見える。汽車は所々の作業所に荷物を下ろし乍ら、奥へ奥へと進む。其の途中已に伐木作業の終りたる所あり、大木參差として縦横に倒れ、巨人の荒れ廻りたる跡の如し、汽車の終点にて下車し物見台に上つたが伐木作業はずつと下の林の中で行はれて居るので、遺憾ながら直接之れを目撃する事は出来なかつたが、巨木が伐り倒されて、落下する音は物凄くも山に響する。又た伐木を運搬するに山頂と山頂の大木を利用して、幾町の長きに亘りて太きワイヤーを渡して、ウチンツにて伐り倒されて山腹や山麓に横わつて居



る巨材をガラ／＼と事もなげに易々と鉄道線路の
附近まで運び上げるのである。幾千年を經たる山
靈もこう人カに荒らされては堪つたものではない。
一寸殺風景な感じがする。

汽車は我等が見物するまで待つて居るので、や
がて汽車に乘つて阿里山に引き返した。其の間、
山頂や山腹に浮して居た雲が、夕暮の冷氣と共
に段々に沈下して来る。而して阿里山名物の雲海
が將に展開せられんとして居るのである。我々は
汽車が阿里山ステーションに到着するのにもどか
しく、急いでホテルの二階に駆け上つた。蓋し阿
里山ホテルは雲海を眺めるには丁度よい高台にあ
るからである。

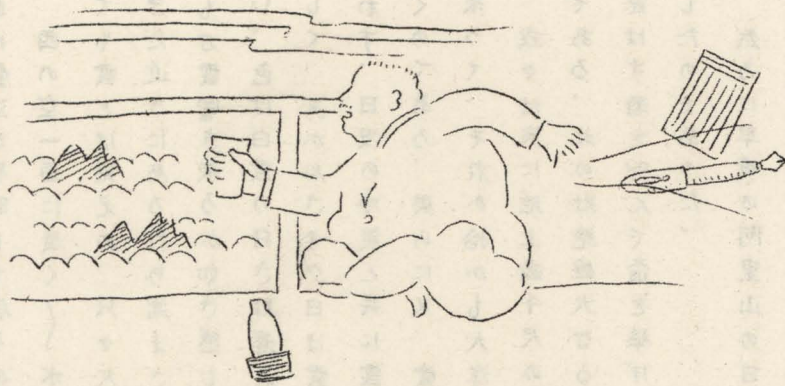
雲海！ 何と其の壯大雄渾なることよ！
一万余尺の巨嶽を兩袖とし、其の間に西の空一

面に雲海が展開して居るのである。

西の空一面に廣く、水平面呑雲平面を巻いて渺茫限りなく、それはどうしても雲とは見えぬ。只々大海洋の果てしなく連なると見るやうである。而してまだ近きにある打ち沈まざる雲々は澎湃として打ち上ぐる大怒濤の如く、今にも万雲響き來るか如き感じもするが、天地は全く静寂として些かの音だにもない。色は白雲の白さは薄れ行きて、海洋の如く青黒く見えるところもある。而して、あかねさす夕日は雲海に没せんとしつゝ、も永く灼赤の彩を雲海にたゞよわす。日没の冷氣と共に雲海も低下するので、いつまでも夕日の灼赤の彩は續くのである。更らに又、雲海の低下に伴ふて、遠く、近くの山々の頂が露出し來つて、それが恰かも大洋の中の島嶼の如くに見えて來る。

我々は實に地上幾千尺の雲外にあつて、雲の怪妙極まる此の大觀を眺むるのである。此の壯絶雄大なる眺望は到底筆紙のよくするところにあらす。我等は思はず酒を呼んで盃を挙げ、此の絶景を賞し、暗れ行く迄も倦かず眺望を恣にしたのであつた。

然るに早曉の阿里山の日の出も格別と云ふので、やがて室内に退き、旨い鳥



鍋で夕食をすませて早く床に就いた。

一六四

二十七日午前四時半頃起床。二十日ばかりの月が中天にか、つて居るので、提灯の要もなく、案内者に従ふて、阿里山の側にある祝山と云ふに登る。山頂まで二十六七丁。山高突に三千七百米ありとの事途中次第に夜が明くるに従つて四圍の山々の雄大な景色が見えて来る。我々が山頂にたどり着いたのは午前六時を少し過ぎた頃であつた。

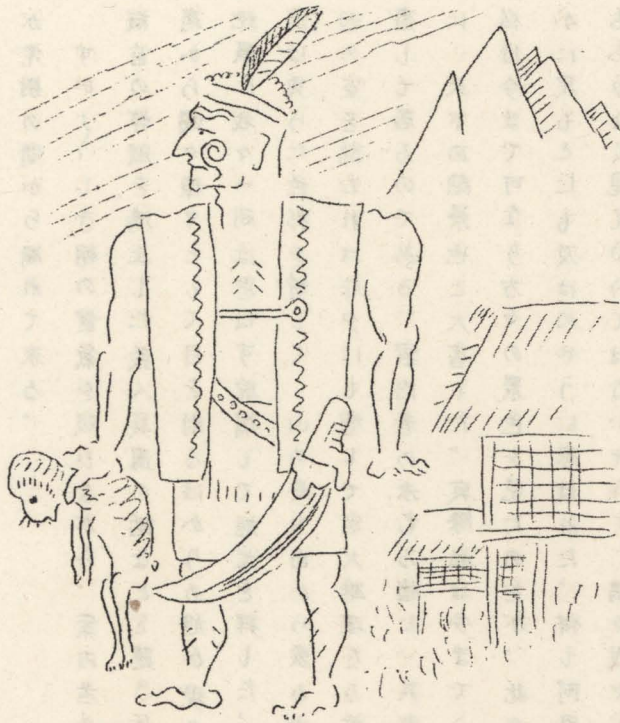
此の朝も、我々には何たる幸運や、東の空には殆んど一片の雲もなかつたので、本邦最高峯なる新高山の主山、南山、西山を始めとし、一万尺以上の連峯が堂々として肩を列べて居るのが、手に取るやうに見える。又、左方には断崖絶壁三千尺に餘る小塔山を眺め、其の間には台湾最大の山湖日月潭の一部まで見えるではないか、名も知らぬ種々の小鳥の声

が老樹の間から漏れて来る。

すが／＼しき朝の靈氣を吸ひながら、案内者の生蕃人の話、身を犠牲にして
誠首の弊風を矯正した義人兵鳳の話などを聴き居る内に、新高山主山の右方の
肩から爛々輝々として目を射るばかりの旭が現れ出で、来た。其の崇高極まる
絶景に我々一同は思はず脱帽して旭光を拝した。日の出と共に相連なる群峯の
色は更らに色彩を増して、山の姿も自から変るやうに思はれた。而して更らに
西の空を眺むれば昨夕にも増して宏大雄渾なる雲海が渺茫として西の空を埋め
盡して居るのである。案内者の求むる儘に、其処の見晴台の記念帳に私は即座
に 天下の絶景也と大書した。實際私は今までこんな絶景を見た事はなかつた。
私は今まで可なり方々の景色を見たのだが、此の阿里山の絶景に比ぶれば、遙
かに足もとにも及ばぬやうに思はれた。併し阿里山の雲海、新高山の旭はいつ
もかうよく見えるのではないやうで、偶々我々が此の絶景に接する事の出来た
のは非常に幸運であつたらしい。

帰途 幾度となく足を留めて絶景を賞しつゝ、ホテルに帰つたのは八時頃であ
つたらうか。朝食後阿里山神社に参拜し、神木万歳杉の巨木を見物し、午前九

時頃汽車に乘る。此の汽車には十四五名の生蕃人の一行が貨物車に乗つて居た。生蕃人は主として貨物車にはあるが、一切無料で乗車させて居るようだ。聞くところによれば、此の一行は阿里山の山奥に狩獵に行つたのださうで、中位



な猿二頭を獲物として持つてゐた。多くの生蕃人は鹿の革の陣羽織のやうなものを着て、蛮刀を腰にして居る。裸足のものもあれば、足袋をはいて居るものもある。ハイカラなのは、古い青年團のカーキ服のやうなものを着て、ゲートルを巻き、蛮刀を腰にして居た。而して頭には糸蘭の房を差して居るものが多かつた。

仲には鳥の羽を差して居たものもあつた。

阿里山の生蕃は昔は最も兇暴であつたさうだが近來は至つておとなしいとの事である。生蕃人の体格は筋肉がしまつて、奈何にも輕快そうである。眼光是鋭く、しつかりした人相をして居るものが多く、台湾本島人のやうにするやうな風が見えぬ。酒か煙草でもあつたり、呉れてやりたいやうな氣持までした可爰らしさであつた。

十字路で生蕃人の一行は下車した。歸途其の駅には可なり多くの生蕃人が見えて居た。仲には生蕃の正装をした年輩の婦人や、單衣に帯をしめたハイカラな若い女も見えた。若い女の方は目鼻立ちが、日本人によく似て居た。

歸りは早いものである。まして汽車は下り坂を走るので、昨日の景色を縁り返して見て居る内にいつしか嘉義に到着した。此の日は前日と異なつて曇天で阿里山の方面は全く厚つき雲に鎖ざされて居た。つくづく我々の旅行の幸運を感じたのであつた。

(附記) 阿里山の森林は数千年を経たるものなそうであるが、それは大木の年

輪にて証明せらるゝとの年である。又、阿里山が森林地として甚だ適當な事は四圍山に包まれて、強風なく、湿度が適當に存する為めであると云ふ。併し伐木事業がなか／＼盛んなので、さしもの大森林も遠からず伐り盡して仕舞はるので、近來伐木の終りたる所には盛んに植林事業を行ふて居る。次に阿里山に於けるか如き雲海はあまり外にはないやうであるが、之れは阿里山の地勢や水分の關係によるものであろう。又、阿里山は非常な健康地なそうて、台湾の平地に生活する人々のやうに顔色が所謂台湾色でなく、日本内地に見るやうな白い或は桃色の顔色をして居るものが多い。併し阿里山以上の高地に行くとな健康状態がよくないとの事である。従つて夏期には台湾の平地の方から避暑に來る人も多く、又、虚弱児童のためには山間コロニーの家が建て、あつた。





海で三ヶ月

鍋島 記

七月十七日から十月廿一日迄の暑い盛りの二月を軍艦で過して来ました。その間に見聞し、又感じた事を少し書いて見度いと思ひます。面白くもないかも知れませんが、之も非常時―全く嫌な言葉ですが―の景物として御辛抱願ひます。初め第一艦隊司令部附で、戦艦霧島に於つて居りましたが、八月八日から第四艦隊の旗艦伊勢に外科擔任として最後迄便乗して居りました。伊勢は乗員は千六百人位ですが、第四艦隊の手術艦になつて居りましたので少し厄介なのは皆伊勢に委託して来るわけです。従つて手術も相當に多く、「アツペ」だけでも三十余名を救へました。

宿るなら大樹の蔭と云ふ事がありますが、茂木先生の教室に居ると言ふ事、その事だけで外科医者として相當に認めてくれ、実力を買い被ふられて、すっかり經驗済みの天晴外科医として責任を持たせられました。所がこつちは自分でメスを持つ事等は月に一度あるか無しですからいささか照れたです。それで

もよくしたもので周囲から持ち挙げられて見ると、そして他に外科医者が居ないとなると強気になつて、他方本願ながらも自信のつくものです。およそ自信なんてものは恐い見たいなもの、「アツペ」の二つ三つも續けてやつて見るとこんなのは教室では毎日でもやつた様な氣がして來るものです。自分でメスを持つと云ふ事は勿論必要以上に必要ですがさうでなくとも何時とはなしに強氣だけは養はれて居る事が分りました。幸にして化膿した様なものもなく腹膜炎を起したものも四例打突りましたが一人も殺しませんでした。

たゞ外科を幾年かやつて來たといふ事だけで、山のものとも海のものともつかない者に、何もかも任せつきりでやらして下すつた四艦隊軍醫長の福井軍醫大佐や伊勢軍醫長の押田軍醫中佐には感謝の言辞もありません。

前置きが長くなりましたが、近頃の戦争殊に海戦に於きましては海面に浮んだ軍艦だけの戦争でなく、潜水艦あり、飛行機があつて平面上だけでなく立体的にも益々延びて行くから複雑です。殊に飛行機に至つては御承知の様に偵察通信、爆撃等の他に煙幕を引いたり、毒ガスを撒いたりするだけで無く魚雷を抱いて來て直ぐ側へ落して行くから一大脅威です。普通駆逐艦や巡洋艦から発

射されたり、飛行機で五十米位の高さから艦にすれ／＼に落して行かれては避ける業もありませぬ。

する事なす事すべてが科學的で吾々素人にはサツパリ分りませぬが、今大砲を撃つた場合を考へて見ましても先づ望遠鏡で七里も八里も先きの敵を發見したとします、測矩儀で精確な巨離を測ります。それから射撃に對する修正が必要ですが、先づ自分及目標艦の速力及方向、風の影響、それに軍艦の動搖があります。尚その上に吾々素人を面食らはせるものに地球の迴轉があります。その影響は緯度に依つて違ふわけです。こんな風に大砲一発打つにも全て科學的で頭腦的ですが、戦争そのものは人間と人間との間でやる事ですから理屈だけでは駄目です。要するに結局は意氣です。某國の大官等は日本人は飛行機から爆彈を落したりする様なまどろっこしい事を為すに爆彈三勇士式に直接に打突つかるだらうと怖がつて居るさうです。

實際兵隊の働き振りを見て居りますと涙ぐましくなります。軍艦の中の暑さと云つたら陸上ではとても想像もつきませぬ。海の上だから涼しいだらうなと、考へるのは全く素人考へです。殊に機関兵等の働いて居る所は百廿度以上

です。即ち摂氏五十度以上になりますから、体温の廿六七度の人間の住む所ではありませぬ。入浴だつて週に一度あるかなしです。夜はハンモックで蓑虫みたいな格好で天井に振り下つて寝て居ますが、睡るところの騒ぎではありませぬ。所が謎々見たいに暇で遊んで居れば居る程能率の上るのは吾々軍醫の爲事です。即ち軍醫が有閑士官の本領を發揮して居れば居る程全般的には成績が好いわけです。但し之は診療事務の方だけの話で軍醫の本分は他にある筈です。

海と鉄、白と黒、而して耳には機械と金属のかち合ふ響ばかりの中に一ヶ月余りも閉ぢ込められて居ますと、頭の調子が少しばかり狂つて来るのもあながち凡人の淺ましさとばかりは云へますまい。耳のヘマトームや、聲部を蹴られて診察を受けに来る若い兵隊の増えるのも此の頃です。目の色まで変つて来ると云ふのは少し大袈裟ですが、今になつて考へると可笑しい位氣持がイラ／＼して落付きがなくなり、ものを考へるのが厭になり、無精に土が恋しくなる、そんな氣持は皆様は想像が出来ると思ひます。何んな風な氣持かつて？ 今考へても以上の事位しか憶ひ出せないし実際に體驗した人でなくては実感を伴はないと思ひます。

凡そ記憶なんてものは當てにならないもので、面白かった愉快な憶出しか憶ひ出さないものです。辛かった事、苦しかった事さへもが過ぎて見ると反つて懐しく愉快に憶ひ出されるものです。

さて斯うして苦しさのあとの上陸第一歩は—？ 勿論皆様御想像の通りです。此の事に就いては詳しく御話しすれば面白いし、初めはこゝん所にヒントを置くのが目的でしたが、長くなりますし、色々誤解される怖れがありますから、敬遠して置きます。たゞ品行の「円満」になるのは無理のない事でせう。

最後に海軍の士官用語の面白さうのを少しばかり——

「ビーシー」 英語の「ABC」は「いろは」……ロハです。

「レス」 「レストーラン」料理屋です。

「ゴト」 god 神、即ち「レス」のお神。

「コーベル」 Coyner 銅。英語の daughter に通ず、娘さんの事。

「ホワイト」 white 素人。

「アール」凡 *Strawberry* の日本語。同じく「プラム」は梅。

「サイド」*Side*、*Bubo* の「横」

「ケージー」*Sham Lams* の日本語

「ホス」動詞では「ホスる」P.O.S. 即ち信号の「吾勢力ヲ半減セリ」意味

深です。

兵隊の普通學の試験に「ポスター」とは何か。と言ふ問題を出したら「士官が上陸した時にする事」元は士官室の從兵をやつて居た兵隊の名答案だつたさうです。



拳闘救護一手引受F氏
往來テ自轉車衝突ニ遭
遍セル圖

スキーだより

田 無 珍 生

昭和九年一月廿七日「出かけるぞ」と云ふので、揃った面々、今までにない大人教、皆氣が揃つて繰り出したのは実に嬉しかった。

目的地は山形縣五色温泉、上野を夜の十一時十五分発、奥羽本線の列車に乗り込んだ。どうにか席に納まつて腫くなる迄四方山の話がはづむ。席の一つに



サンドウィッチ
アマナットウ
チヨコレート

窮屈さうに坐つて居るのは格さんだ。でも癒しさうにニコくして居る。格さんスキーは医局では最も古い方だ。もうかれこれ三四十年になるとか、スキー服にも年効がついて居る所が捨て難い。近頃御出掛の折には心の籠ったお菓子などを背背ふて来るので、我々大いに歓迎する一人である。

それと背合せにダンヒルのパイプを啣へて、ニタリニタリと収まって居るのは、昔高田中學スキー部に此人ありと知られたセオチンである。頭には毛糸のチヤシチヤン帽を被り、ダブダブのニツカーを穿いて、下宿にありとあらゆるシユムツチヒな物を引つ張り出して身に着けて居るが、なか／＼以て凄味が出て居る。こんなのをシークと云ふのか、或は地で行くのか。



「アール油塗るかなア」と見れば防水油を平手で靴にすり込んで居るのは布留チ

ンだ。氏は昨年始めたばかりだが、今年は既に山野を始頃終速に駆け廻る進境歴然たる新進スキーヤーである。昨年の蓑虫セーターを脱ぎ捨て、詰襟のスキー服に身を固めた所は、一分のスキモ無い。

此方のボックススでは興奮の餘り涙を浮かべてスキ



一の事に就いて色々談じて居るのは我が仰天の宮行乎殿下である。もつとも

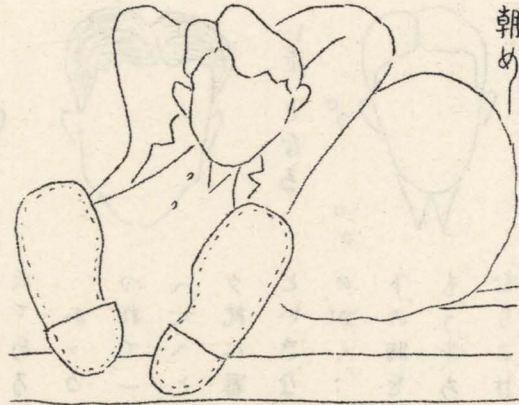
スキーは今度が始めて、さりながら殿下の御熱心はおそれ多い位である。

殿下に御相手してスキー術の秘訣、銀界の驚異等を御説明申し上げて居るニツカー姿は、医局スキーヤーの中堅小ビン氏である。

いととなる

かゝる光景の中に汽車は暗を突いて進んで行く。更けるにつれて一人眠り二人眠り、何時の間にか列車は一同の夢を北へ北へと運んで行く。隣のボックスを覗くと、リュックサック枕に器用に收つて眠つて居る。「魚みたいだな」「何を」といきなりはね上つて来たのは齋藤氏だ。身の軽きこと飛魚の如く、医局随一の曲藝的スキーヤーである。ダブルブレストの胸を合せてキヨトンとして居る。夜は白々と明けて来た。もうそろそろ福島に着く頃である。今迄床板の上に長々とねむりこけて居たが、ふと頭を上げて、「朝飯は汽車辨にするか

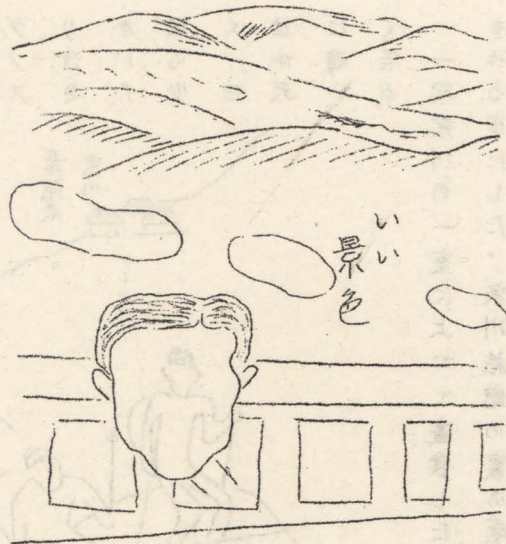
朝め



ひなから実に和やかである。車窓から首を突出して「いい景色だなア」とピンの髪を逆立て、感嘆するのは伊藤國氏だ。山を幾し景色を好む氏は、堅実なスキーヤーである。昨夜の睡眠不足も何処へやら活々と釋かしい顔をして居た。七時五十三分板谷駅に着いた。駅前既に積雪数尺、雪量も十分であり、絶好のコンディションである。五色温泉に向ふゲレンデ迄は約四十分の道である。

福島に着いた。一同朝飯を済ます。此から板谷駅迄は約一時間、もうスキー圏内に入ったのである。福島市から出掛ける人々も大勢乗り込んで来て、車内は俄然スキー気分が漲った。汽車は峡谷に沿って進んで行く。夜もすつかり明け放れた。一月二十八日快晴の日曜日である。白雪に日光燦々と降りそぐ。眼前に聳える家形、鳥帽子、葉師、高倉、東大巖、梅森の山々は、冬半ばとは言

とモン、起き上つて来たのは斯く申す筆者である。

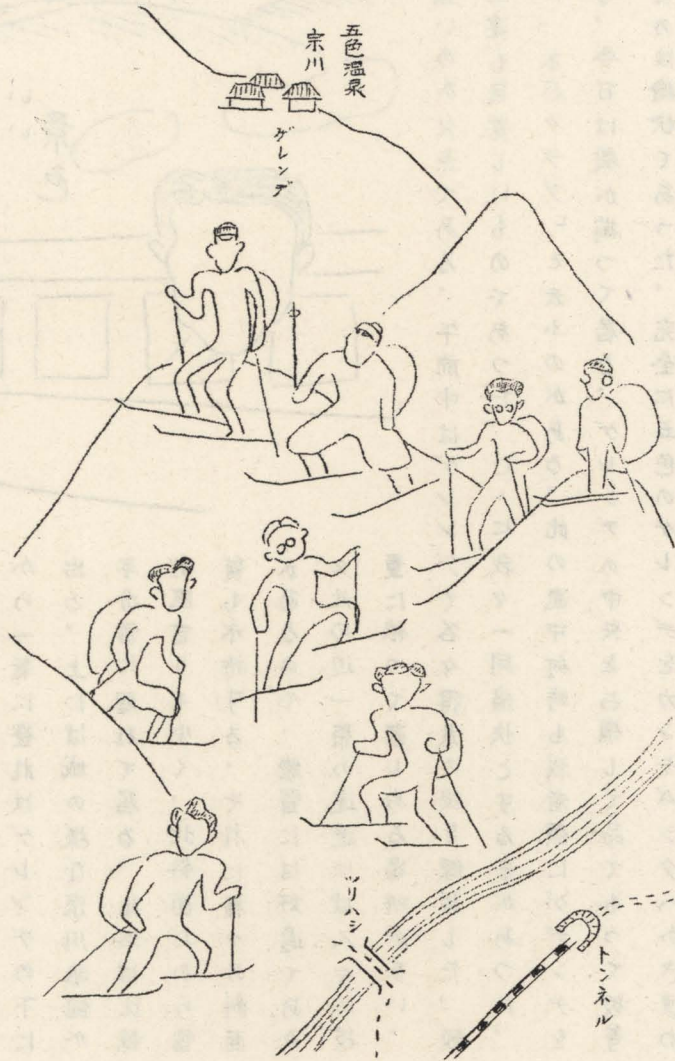


只風の強いのが欠点である。午前中はゲレンデで各々得意の技を練習した。殿下の御上達も目覚ましいものであった。こゝに我々一同痛快とする事があった。福島に「不忘クラブ」と云ふのがある。此の連中何時も我者顔にゲレンデを押し廻る。今日は顔が揃って居る。ゲレンデの中央を占領して品でもって彼等を壓したのは愉快であった。完全に五色のゲレンデをカンキムシタへかきまわ

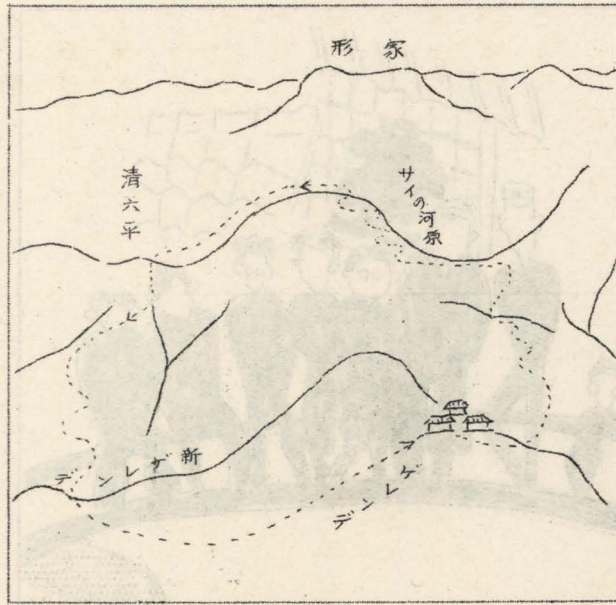
谷川に沿つて平地行進を続け、途中から一寸降つて川を渡る。それから一氣に登ればゲレンデの下に出る。上には城の様な宗川旅館が半分雪に埋れて居る。此処は比較的風當りも少く、北斜面だから雪質も永持する。それに種々の斜面があるので、練習には好適である。又此の辺一帶の遠近には人々の技量に依つて楽しめる場所が多い。

した
のであ
る。軽
い疲労
を覚え
グツス
リ汗を
かいた
風も少
く、白
は中天
に輝い
て居る。

一同宗川の一室によつて晝食した。暫時休養、午后一時頃から「清六まはり」をやる事にした。宗川旅館の裏の尾根をサイの河原迄登行、此処でアザラシを



外して清六平めがけてトバスののである。初めは開けたゆるやかなスロープ、段々



々と急になつて最後の急斜面を崖の如くに降れば、此処に一段平な所がある。これから清六平迄は灌水のあ

まった。これで「清六まはり」を終つたのである。此の間約二時間半のコース

である。



再びゲレンデで練習、しばらく旅館のストーブの端で休んで五時五十三分板谷発の汽車に乘るべく仕度を整へて山を降つた。吹きさらしの板谷駅ホームに

一八二

何処から
とも無く
異臭がた
よつて
来た。一
同不思議
に思つて
顔を見合
はせた。
嫌疑はA
にかゝり
Bに移り
遂には殿

下に送及んだが毒ガス犯人の目星もつかなくかつた。此の汽車は福島止りである。飯坂温泉で夕食しようと言ふので、電車に乗った。約三十分、駅を出ると飯坂の町である。すりかみ川を距て、対岸は湯川で、駅の前から高い橋が架つて居る。橋の下手に堰があつて、川の水は満々とたゞよつて居る。湯宿が兩岸の汀から立ち並んで、水に映る灯に小雪がちら／＼降つて居た。まるで舞台の様な景色。川に沿つて飯坂の古風な一廓を一寸見物する。橋を渡り、湯川の栢荷屋と云ふ宿によつて、一浴して夕食。膳に立つて居るお銚子がたまらなく嬉しい。山火事の様子に酔がまはる。良い氣持になつて一憩して居る処へ音もなくむせるが如く現はれたのは、又しても彼の毒ガスである。一同喧嘩腰の探索も徒勞に歸して事件は再び迷宮に入つてしまつた。いとも奇怪なるかな。一犯人探索懸賞附、三階又は四階の（コーヒー）宿を出て、福島を十一時三十六分の上野行に乗り込んだ。席に着くか着かない中に睡くなる。目の覚めた時には上野に着いて居た。冬の朝の東京は未だ眠つて居る。一同其儘

「登院しシエルツエを着れば医者もやり」ます。

参謀長命令

のらくらく軍医



或る联隊の軍旗祭に招待された旅團長、参謀長及び副官等、冷酒にするめの料理で終日歓待されるまゝに、遂に度を過ぎ、自分で自分が解らなくなる。やつと联隊の將校の介抱で旅館

迄帰つたものゝ、咫尺を辨じない。そこいらの先生方なら「早速軽く行かう」とか「ツリーユツクケーレンは止めてフェルケーン」と言ふ所で落付く所だが？。そこは軍隊生活の辛い所で、明日の勤務を休む訳には参らぬ。いくら遅くなつても衛戍地に帰らねばならない。況して旅團長閣下たるもの他の模範でなければならず、且つは偉最も具へなければならぬ。稍、意識が恢復した？。ので帰るべく駆送で出たものゝ、冷酒にするめ、小木の溜ること皆さんの御経験の通り。

也かて汽車は轟音もの凄く爆進して来る、これから約三時間の旅を續ける訳だが、扱て車中の人となつて見ると、尿意頻数を訴へるにも拘らず、如何してもミクチオンが無い。便所に入つて二十分、三十分と頑張られ共、どうしても出ない。其の中足が勞れるので、便所から出て来る、坐席に帰ると又行き度くなる。其苦しさらたら傍の見る目も氣毒次第である。

全行の副官に参謀長、閣下の此の苦しみを見て括然たる譯には行かない。何と工夫は無いものかと氣を揉んでゐる。偶然そこに集り合はせた青年軍醫を見付けて蘇生の思ひで早速呼んで、事の始終を語り、何とかして呉れと頼む。

軍醫「閣下は何れに？」 参謀長「今便所に苦しんでゐる、行つて診てやつて呉れ」 軍醫「行つても宜しう御座いますか？」 階級制度の嚴しい軍隊のこゝとであるから、まさか閣下の入つてゐられる便所へはと、稍々躊躇してゐる。参謀長「かまはないから、早く行つて診てやつて呉れ」とたつての依頼、軍醫仕方なく、副官を呼び、便所のドアを開けさせて、軍醫の來た旨を告げさせる。軍醫が來たと聞いては閣下も屹度喜んで呉れるであらうと、内心期待し乍ら、恐る／＼便所に入つて、

軍医「閣下御病氣は如何です？」と聞けば、変な格好をした閣下、一言のもとに、三軍を叱咤する様なドラ声で「軍医なんか用はない、何んだつてこんな所へ来た？ 早くあちらに行け！」とのお叱り。軍「でも御苦しう御座いませうとは言つたもの、ドラ声におびえて引下り、参謀長に向ひ「参謀長殿!! 只今私は閣下に叱られて参りました」と報告すれば、参謀長意外の思ひして「閣下が怒る筈はない。お前は医者で、相手は患者だ、医者が患者の所へ行くのは當然ではないか、早く行け、今一度行け！」とのお叱り、どちらに行つても叱られて許りゐる軍医、どうして良いのか分らない、上官の前だから「ハツハツ」と返事はしてゐるもの、内心はカツと燃え上り「勝手にしやがれ」と云ふ氣で一杯である。

やがて閣下も坐席に帰り、「どうも小便が出なくて苦しい」と溜息をついてゐる。如何にも苦しうである。アナムネーゼを聞かうとしても、場所は二等車見渡す限り貴顕紳士はがり、其の中でまさか「閣下、御淋病をおやりですか」と聞く訳にはゆかない。只々呆然と顔を観てゐるより手段はない。その中又便所へ立たれる。

参「軍医!! 閣下があれ程苦しいでゐられるのに、お前はそれを見てゐるだけで良いと思つてゐるのか?」 稍声は荒い。 軍「只見てゐるだけではありませぬ。大変氣の毒に思つてゐますけれども、車中の事ですから何とも仕方が御座



るません。屹度お酒の所為ですから、今に酔

が醒めましたら小便も出ること、思ひます」

参「小便が出なくなつた場合にはどんな處置があるか」 軍「色々方法はありますが、病

氣の原因に依つて處置が違ひますから、先づ

病因を調べなければなりません」 参「なぜその

病因を聞かないのか?」 軍「まさか閣下に向つ

て淋病をやつたかとは此處では聞かれません」

参「兎に角、どう云ふ訳で小便は出なくなるのか

軍医ウロで學んだ凡ゆるワアルを速べる。此でウ

ロの試験みた様だ。

参「然らばそれ等の処置は?」 軍「マア膀胱部

を暖めて見たり、冷してみたり、それで出なければカテーターを突込みます。尚出なければpunkチオン、愈々出なければ手術。」 参「今はどれが良いか」 軍「どれでも良いけれど、車中ではどれも出来ません。」 参「然らば如何にする、あの儘で良いか、軍医としての責任はそれで良いか？」

軍醫いささか憤然として、「抑々旅館にゐる時、既に小便が出なくつて困つてゐたのを知りつゝ汽車に乗せたのが悪いです。乗せた者が責任を持つべきです。何故宿に居る時醫者を呼ばなかつたのですか。」 参「それは過去の事だ、過去の事を聞いてゐるのではない。現在の処置を聞いてゐるのだ。」 上官たる者到つて都合の良いもので、自分達の過失には決して觸れない。たま／＼乗り合はせた軍医の手落でもあるかの如く、軍医一人が悪者扱ひにされる。 軍「車中では處置ありません、唯一の方法は途中下車です。而も途中下車たるや、次の駅と其の次の駅とのニヶ所しかなく、その後はずつと田舎になりますから、醫者の有無さへ分りません。」 参「然らば次の駅で下車しても良いか。」 軍「可なり。」

内心頑固な上に酔拂つてゐる参謀長に弱つてゐる軍醫。早く厄を逃れんと

狡い考を以て頻りに下車を薦める。

やがて閣下シヨンボリと便所より帰つて来る。

参「閣下！ 途中下車して病院に御出でになつては如何です。車中では處置がありませんから……途中下車は次の二駅しかありません。その次は田舎になります。で医者の有無さえ……」閣下「馬鹿な事を云ふな！ これ位の苦しみが何だ。君達は何も心配せんで良いから寝んでゐろ。小便は今に出るよ。ア、苦しい……」

軍人だけあつて如何にも強さうな事は言つてゐるが、さも苦しさうである。やがて時間も相當經過し、車窓より流れ来る涼風にいさゝか酔が醒めたか、数度目の用たしに立つた閣下、暫くして出て来る。以前より稍、血色がよろしい。それを見て取つた軍醫「さては出たか」と、軍「閣下如何ですか。お出になりましたか？」閣「いや有難う!! やつと出たよ、併しまだ少し残つてゐる様だが、それもやがて出るであらう、ウーイツ」如何にも生き返つた様な顔をして居る。

参謀長いきなり軍醫に向ひ、参「軍醫!! 閣下のお脉を診てあげよ!」以前

より頑固な参謀長に凝りてゐる軍醫、この言葉に愈々憤然として、軍「脈を診る必要はありません、あの血色なら何も心配ありません。出なくて困つた小使も出たのですから全く安心です」。参「何だ其の言葉は！ 軍医として脈を診るのは當然ではないか、脈を診てあげよ」。軍「否!! 其必要はありません」。軍紀に関する限り、部下は上官の命に服すること當然なれ共、殊に脈に関する限り門外漢の参謀長の命も何もあつたものではない。どうしても参謀長の言に従ふともしない。流石の参謀長も遂にこの軍醫の頑固さに承れたものか、憤然として形を改め、参謀長「軍醫!! 氣を付け!! 参謀長命令! 閣下の脈を診よ!!」。

上野駅

萩原君 見送珍談





色ざんげ

草庵翁

其一

嘗ては勇名を轟かしたる剛の者五人、今宵は如何なる風の吹き廻しにや、幸
楽の宴果てたる後、さる處に二次會と一決。しばし飲む程に、隣座敷に待りし
藝者のいとみめ美はしきに目を附けたるは、流石に其の道に通じたる塚山氏。
隣客帰りたる様なれば、早速にその妓を招じ込めば、他の面々我劣らじと野心
満々たる氣色に、彼の妓思へらく、何れアヤメにカキツバタ、何れに靡かんも
のよと困じ果てけるに、間もあらず新たに数人の美妓來りぬる程に、例の妓は
塚山氏のものとなりけり。然るに、その妓あまりに愁波の盃を重ねしこととて
さてはあられも無く酔ひ伏したり。かくては流石の塚山氏もイヤ氣を催し、遂
に一同クヂ引にて夫々相手を得て引揚げぬる。さる程に横川氏に侍るべき妓に
食指動かざりければ、其の儘返し、物足りなき心にて獨り盃を重ねける横に、
かの熟酔の妓、床板を枕にして伏せるがいと哀れに見えて、優しき声など致し

ぬる程に、内心の焔自づと燃え盛るまゝに、
 したりける。

さて、そしらぬ顔にて待てば、用事終りし
 面々「氣の毒したるものかな」と云へば横川
 氏「己れ獨りを置き放したる、怪しからぬこ
 とぞ」と、いと眞面目顔なりしとなん。



其二

勉強に疲れたる頭を冷すべしと、悪童
 三人さる処にて飲みけるが、そのうちに
 美妓來りぬ。丁氏の寵愛を受けしことあ

る故、丁氏の朗らかなること一方ならず、己れがそばに招き寄せんとすれど、
 妓の顔に狼狽の色ありて浮き立たず。只卓子の向ひに座りて酌など致しぬ。斯
 る氣色に氣の附くべくもなければ、丁氏いやが上にメトトルを上げしまゝ、夜も
 更けぬればとて三人帰るべしとする折柄、妓の立ち來りて何事をか丁氏の耳に

私話きぬれば、「少し後れて帰る程に、君等二人一足先に……」とS氏の云ふに、始めて彼女S氏の思ひものなりしかと覺り、やり所なき心を抱きて寒き街を家路に向ひしとか。

其三

價安き所と人の噂に聞くまゝに、ある夜ひそかに足を運び、直ちに二階へとよりて待つ程に、女來りければ、女將と交渉すべきものと思ひ、「女將を呼ぶべし」と云ひて、待てど暮せど女將の來るべき氣配なし。彼れこれ一時間も隙間多き障子の部屋に待つ程に、又女來りて、「何卒や下のお座敷へ」と云ふまゝに何氣なく下り行けば、美しき座布團に茶菓など出して、主人と女將いとも町重に招じ込まるれば、「交りたることもあるものかな」と思へど、落着きて世間話などしけり。さる程に、「且那は何れの方にござ」と主の云へば、「吾れは……」にゐる者よ」と答へけるに、主更に「署の方なりや」とのことに、始めて己れが刑事に間違へられたるよなと悟り、「ナニ……校に行くものよ」と云へば、主、女將も、その過ちをヒタあやまりにあやまり、「何卒お二階にて御ゆるりと

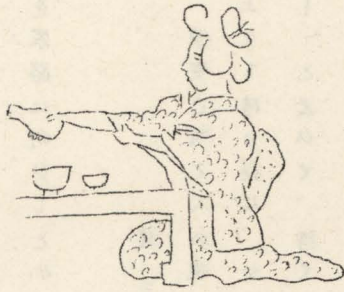
と、云ひけれども、時刻已に十二時を廻りぬれば、この次に行くべを約して戻りぬ。

一九四

其四

丁と云ふ男あり、人を泣かす癖あり。巳と云ふ妓あり、大いに奇聲を発するを以て其の名轟く。一夜丁巳の會するあり、悪人共其の成果を期待する事大なり。時來りて各自部屋に入りしも仕事も手につかず、一人廊下に出づれば、悪人共期せずして顔を合す。忍び寄りんとすれば廊下に音ありて立往生す。三人寄りば文珠の智慧、各自蒲團を曳き出し廊下に並べ目的地へと忍び足。

程なく聞ゆる奇聲、歎聲、嘆聲、泣聲。悪人共一人減り、二人減り、暫しの後は、蒲團も部屋に再び納り、廊下のみつやくと燈の影を映し居たりとなん。





霧ヶ峯スキ行
伊藤 藤 記

見渡す限り山又山、雪又雪、今辿り着いた霧ヶ峰。白い呼吸を吹きながら額の汗を一拭ひして眼を開けば、緑り展げられた白銀の大スロープに陽光はキラ／＼と輝いて空は蒼く、身を切る様な寒風に遙か車山の彼方には雪煙が立ってゐる。

一行は田村、布留、井手、伊藤、長坂君と筆者の六人である。汗を拭ふ暇も惜しみスキーを履く。土地の人、遠来の客何百人となく右往左往する池のくるみゲレンデを間もなく離れて一行は車山を指して登りはじめた。田村君は冬ともなれば何を措いても先づ日曜毎にサンデースキーに出掛けなければ氣のすまない男だ。一寸弊に掻き上げた髪の毛を風に吹かせ、真黒い顔に白い歯をむき出して、ニタ／＼と笑ふ顔は日頃の君のやさしい心を知らぬ者はビツクリして逃げ出すかも知れないといふ様な山男である。布留君去年からスキーを始めたのだが、田村君のコーチ宜しきを得て、今年関温泉での練習頃からメキ／＼腕を上げた。

蚊の脛ではあるが案外エネルギーギツシユである。井手君は先達五色へ行き今日が
筈二回目のスキー行だ、天を仰ぎ雪に伏して奮闘する君の姿は又涙ぐましいも
のがある。伊藤原君は新しいスキー用眼鏡の塗りがはげて寒風に吹き曝された
顔をブチに染め上げ周囲の純白な雪に一段と赤えた煙突男の様、與さんに見せ
たら百年の恋も一瞬に吹飛びさうだ。長坂君之は人も知る運動家であるが慣れ
ぬ雪の上では余り思ふ様にゆかぬらしい。併し平常の強みを見せられてゐる一
回は霧ヶ峯の雪がとけても君ののびる心配はないと安心して前進を續けた。

かれこれする内に、ガボツチヨといふ小山を右にしながらゲーロツ原も過ぎ
車山續きの尾根にとりついた。この頃からである。長坂君頻りに後滑りに惱ま
されて汗をかく。皆腹が空いてきた。風が寒くて一寸立留つても身を切られる
様に冷えてくる。大急ぎでリュツクサツクの中から取出した餡パンを頬張り乍
ら歩く。夕べ新宿を出る時プラツトフォームの賣子から買つて来たものだが、
こんな甘い餡パンは余り食べた事がない。遙かに目を馳すれば流石は天下の霧
ヶ峯だ。その景色のよい事ハヶ岳、富士山、駒ヶ岳、御嶽から遠く北アルプス
の連峯と瓜そ有名なる中部日本の山々をたゞ一瞬の内にパノラマの様に見渡す



事が出来る。自然の雄大なる
夢幻境に立ってたゞ「い、な
ー」と一声の感嘆詞が出る許
りである。

頂上に近づくに従ひ雪の所
々に火山岩が顔を出してゐる。
先に登って行つた人が時々ニ
三人宛頂上の方から滑降して
くる。岩を避けた拍子にデー
ンとひっくり返るのを見て、
やがて我身に迫る運命と眉を
ひそめる。

池のくるみを出てから約二

時間にして車山の頂上に着く。筆者は昨年小平君等と四人で親湯温泉より蓼科
の麓を通り、大門峠を過ぎて手の凍えさうな雪煙を真正面から受けながら今日

とは反対側から車山を登つて日も暮れかゝる頃やつとこの頂上に着いた時の事を思ひ出して、暫しは懐しき追憶に耽つた。

肌に浸み徹る風に吹かれて、とてもこの頂上にぐづくしてはゐられない。早く滑らう。身支度を整へて愈々元の池のくるみを指して出発する。「行くぞー」細い体から太い声を出して布留君は面白さうに滑つてゆく。一スでドンドン先へ行つてしまふ。時々振返つてはストツクを振つてゐる。井戸君も五色の時と違つてスロープが廣いので愉快らしい一生懸命に岩を避けながら真剣に滑つてゆく。大部直滑降が續く様になつた。併し時々彈丸の如くにのめり顔中を雪だらけにして起上る時は蓋し幽鬱なる面持である。登りで多少へばつた長坂君流石の足も疲れたか、時々スドン／＼とやつては溢い顔をするが、それでも頑張屋の君はデングリ返る迄真直に突進するのである。伊藤原君又墨だらけの顔を今度は雪だらけにして朗かに笑ふ。老巧田村君其処を右へ其処を左へとコトキをしながら、筆者も亦云ひ知れぬ雪の魅力を味ひながら、元氣は何れ劣らぬ六人の面々途中で持つてきた晝食を濟せて一氣に池のくるみに滑降を續ける。この頃より空は雲を増し遠くの山々は段々見えなくなり、チラ／＼と粉雪が舞

ひはじめた。

サラ／＼と心細かに雪が降る

スキーで房らうよ不 戻りませうよ不

雪の高田へ 灯の影へ ツーツガツ ツーツガツ

こんな歌が唱ひ度くなる。

途中で登ったり降ったりして遊んでゐた為、案外時間がかゝつて、池のくろみに到着した。皆元氣である、暫くゲレンデに遊び、帰りを急ぐ一行は、三時半頃霧ヶ峯を下り途中科木より自動車に乗つて上諏訪に到着、湖畔の湯の町にゆつくり温泉に浸り度い処だが、五時発の上り列車に乗る事に衆議一決、惶惶として帰京の途に就いた。

廁 中 校 正

小 便 小 僧

凡そあら探しをしては果しなきことなれど、人間の無駄を捨つべき廁の中に無駄多きを見出しても、何の不思議のあるべき。

一、便器内に煙草の吸殻、紙屑、綿屑等を投げ入れぬ様願ひます。

二、大便所にて使用の紙は便所中に備付けある用紙に限ります。半紙や「さくら」紙等を用ては困ります。

三、大便所にて用便後は便器の脇にぶら下つてゐる紐をお引き下さい。紐を引けば、水槽から水が出て来て便器の中を流します。

四、若し水が出ぬ時はその儘にして置いて下さい。

無駄を省けば

一、便所内に吸殻、紙屑、綿屑等入れぬ様願ひます。

二、紙は備付けある用紙に限ります。

三、用辨後は脇に下つてゐる紐をお引き下さい。

四、に到つては水が出なかつた時、ゴテゴテ

溜つた糞を手で掴んで押し流がさうとする人があると云ふのか。





忠子の話

下谷
忠子

私は下谷病院の三階看護婦室に住む白鼠です。やさしい看護婦さんが「忠子」といふ名前をつけて下さつて毎日残り物を食べさせてくれます。私は唯小さい籠の中に入つて車を廻して居れば良いのですが、お医者さん達の話しを聞くのも大変好きなのです。色々な面白さうな話を聞きましたので、私には一寸も面白くはないのですが、これからそれを皆様にお傳へ致します。

(1) 大根切断

「変な患者さんが来ましたわ、大根切断だつて」といふ話しに、これは特種と直感した私は早速外来へ行つて見ました。午前七時頃です。

「之何を切つたのですか」と眠さうな外科當直の先生、

「先づわけを聞いて下さい」と患者、

「実は私は哲學を研究して居りまして、煩悶の余り切りました。こういう物が

あつては惱みの種です」

「ハ、ア、で哲學との關係は」

「哲學の如き崇高な學問を研究する學徒が、かゝる一物に心の平靜を奪はれ惱まなくなつてならないとは実に実に歎かほしい事ではありませんか、依つて今日五時断然意を決して西洋剃刀で切断したのです」



「現在の心境は」

「実に明鏡止水です」

私はこの話を聞いてさっきの大根切断の意味を了解しました。男の人って本當に余計な物を持つて苦勞してゐるのですね、私達はそんな心配がないから全く安心ですわね。

後で先生のカルテを一寸拜見したら、*S. G. Babo u. Trimmer - Letztes Jahre.* と書いてありました。明鏡止水氏の大根は見ませんが、きつと腐つた事でせう。

(2) P の 話

「P って奴は可愛相だなあ」

「更つて感激無量の形だが、どうかしたかい」

「実はイレウスのPね、あれ抜糸してもう一週間もたったので、今日退院しても良いつて云つたら泣かれちやつたよ」

「へエー、別ればつらいつてね、よくある手さ」

「まあ聞けよ、先生は何も知らないから帰れ帰れつて云ひますけれど、帰ればすぐ仕事をしなければならぬんです。帰つて静養するなんて事は出来ないんですのに先生は帰れ〜つて……」

「何程ね、可愛相だなあ」

(3) 膏葉に一言恨みが云ひたい

「たちの悪い腫物オデキで、場所も悪いし、それに糖尿病もありますからね」

「先生お蔭様で楽になりました、家に居た時は頭がぼーとしてたんですが、今はそんな事ありませんや」

「早く来れば良かったんですが」

「何ね、わつしや医者は大嫌ひで、医者なんかには世話になつた事はねえんです、三十人もの車引きを兎分に持つ江戸つ子のわつしや病氣になんかなつた事はねえんです。こうなると實際早く來れば良かったと思ひますよ。」

「随分痛かつたでせう。」

「ナニ死んだ氣であるから痛かあねえです。江戸つ子で三十人もの兎分……。」

「ア、分つた分つた、で何故早く來なかつたのですか。」

「そこです先生、きつと治して下さい頼みますぜ。」

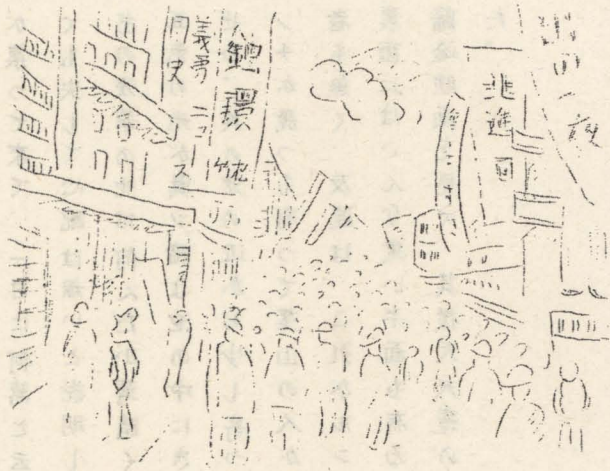
「そりやこつちも一生懸命やりますよ。」

「わつしやね先生、もう五十六にもなるんだから何時死んだつてかまやしねえし、子供も皆なお蔭様で一人前になつてます。だけど、だけど……。」

「まあ、そう興奮しないで。」

「先生！一言恨みをあの膏藥屋に言つてやりたい!!」





浅草の夜

姚 瑟 若

私は先日の夜、日本に来て初めて、友に連れられて浅草に行つた。日本に来てから未だ八ヶ月にしかならない私は、浅草と云ふ名前は以前から聞いて知つて居たが、丁度我國の「上海四馬路」にも似て居て、何だか懐しい氣がした。赤い灯青い灯のネオンサインの光に先う驚いた。仲見世の通りを眞直に歩いて行くと観音寺の大きな鳥居がある。此處に参詣して何事か一生懸命に念願して居る日本の娘さん達よ。私達の國と全く様な静かな東洋趣味には本當に好感が持てる。幾つあるか数知れぬ映画館「いらつしやい」と客を一生懸命に呼んで居る有様は他の何處の映画館にも見られない珍らしい風景だと思つた。

天夫羅屋、壽司屋、其の他飲食店が澤山軒を並べて如何にも景氣が良ささうで有る。あんなに同じ様な店が何軒も有つて良く商賣になつて行くものだと思ひ議に思つて一緒に行つた友達に聞いて見ると、浅草と云ふ處は各所から大勢人が集つて来て、一日に何萬と云ふ人が遊んで行く處だから、同じ店が幾軒有つても決して心配は無いと説明して呉れた。

あの浅草の池は何んだか薄暗くて恐ろしい様な氣がした。映画館の電氣廣告の五色の光が眞ッ暗な池の中にきら／＼とうつって居る様は、尚一層淋しく思はせる。其の池の辺から少し寄つた處に來ると、樹木が澤山有つて、其の中にベンチが幾つも有つて澤山の人が此の寒さの中に腰掛けて居る。誰れも話をする者も無く、友達は、これかルンペンの群だと説明して呉れた。浅草の華やかな表面にはこんな黒い半面も有るのかと初めて知つた。

歸途映画を見て、其後天夫羅の美味しい味に感心して自動車にゆられて歸へつた。



御挨拶に代へて

景 凌 瀨

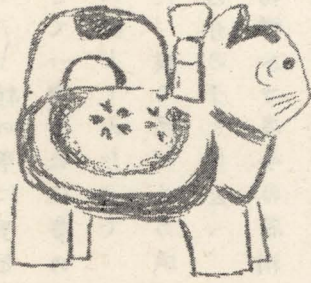
曾て茂木先生の著書を一讀して以來先生を欽羨景慕して我が腦裏より低徊去ることが出来ませんでした故に私は職を棄てて日本に先生の門に教へを受ける決心で居ましたところが幸ひにして昨年の秋菲才をも捨て給はず入學御教導を快諾せられました事は欣喜に堪えませんでした。さて今日に至る、既に一年を経過致しました。而して先生より蒙れる御教へは實に計ることが出来ないものがございませす。唯言葉の關係で何うしても完全に感謝の意を表することが出来ないのは誠に誠に遺憾至極に思ふ所であります。先生の御年は今や六旬に近く而も白髮童顏精神は矍鑠壯者も及ばないものがあります、又人に對しては親切。手術の敏捷適確なることは特に以前米國病院

に居たる時に於て見ることの出来なかつたところでありませう。先生始め木村先生、前田先生、岩原、藤原……の諸先生及び醫局諸君より看護婦諸氏に至る迄等しく誠に懇切丁寧を極められました。之れも亦先生の徳風の御蔭でありませう。

尚長期の間師事して最初の目的を達する考へでありましたところ突然に經濟的打撃を受けました為に最初の目的を達することが非常に困難に陥りましたところへ先生が之を聞かれて全力を擧げて文化事業會より學資の補給を受けることが出来る様にして下さいました。私でも決して水石ではありません、先生の
大恩と御援助御厚志をどうして感謝しないで居られませう。

今後は唯一生懸命に學問に努力致しまして他日歸國の後に於ては茂水先生初め諸先生の懇切と誠意に對しても中日國民の感情の基礎を作り東亞の和平を確立し人類生存競争の惨劇を救済せんとするのが小生の本懐であります。

実は小生は日本文が未だよく出来ません、言葉も拙い、唯藤原先生の御懇囑を受けて刀林誌上を借りて先生の御好意を謝し併せて小生の微衷を彙表致した次第であります。



幼き秋

H

S

M

T

尋常五年の秋のことだった。黄色に実のつた稲の穂が重く垂れて、村の人々の顔にはどこと無く安堵の微笑みが見えてゐる。大祖父は九十歳歳かまで長生して幼な心にもはつきり覚えてゐるが、随分働き手で、死ぬる一週間程前まで獨りで杖をつき乍ら、自分の田圃や山等を見て廻るのが何より楽しうだった。祖父さんもぬたが、丁度僕が尋常二年の時無くなつて後は専らこの大祖父さんに可愛がられた。まだ尋常に上らない頃だったと思ふが、いたづら兎の僕はよく、この大祖父さんの杖を持ち出して遊んだが、そんな時、大祖父さんは「春雄！俺れの杖を探し出して、「ハイ大祖父様！」と云つて、持つて行くと「家で春雄が一番利口者だ」と云つては何か褒美を呉れたりしたので、祖父よりも大祖父の方が印象に残つてゐることが多い位である。父はまだ其頃は着かつたし、村では中等教育を受けた有数の中に数へられてゐたので、そし

て一人息子であつた所為か、大祖父や祖父に大事にされて育つた為め同じ農家の仕事をするにしても、為ることが皆お百姓離れした所謂學生の百姓と云つたやり方だったので村の人々はそれに依つて教へられることは少しはあつたにしろ、一家の社事として此の様に進歩？したやり方では、どうしても收支償ふ筈はなかつた、今迄麥や大根を植えてゐた畑を、蜜柑畑や梨畑にして仕舞つたのも其の頃だつた。此の様にして何時ともなく家産は段々減る一方で、家の中にはお百姓に似合はぬ什器類が澤山あつたが、大祖父が死んだ頃には、此の傾いた財産を取り返し度い心底もあつたが、又一方では例の利口さが手傳つて、トウ／＼株の事に手を出す様になつた、親族の叔父達が來ると、何時も株の話をして一攫千金の夢の様な話をしてゐた。此れを僕は幼な心にも馬鹿なことだ位に感じてゐたので、勿論叔父等がその余りにもうまい話に耳を藉す訳はなかつた。僕の兄はその頃既に中學へ這入つてゐたし、父としては山や田畑が、例へ自分の子とは云へ、段々減るのを知られることは余程心苦しかつたと見える。朝鮮が丁度今の滿洲の様な状態にあつた時分だったので、一つ朝鮮に渡つて一旗挙げる積りでトウ／＼朝鮮に渡つて仕舞つた。その為兄は中學の寄宿舎にゐ

たので良いとして、姉と妹の二人は一番近い叔母の家に、僕は兄の居る町の叔母の家に、弟は三四里離れた叔父の家に、それ／＼預けられることになった。僕はその時尋常五年の後半だったし、又自分で云ふのも可笑しいが、大分物解りがしてゐたので、遂に來る処迄來たナと思つて大して悲しみもしなかつた。又中學に這入る位何でもない様な氣がしてゐたので、弟や姉の様に狼狽はしなかつた。併し一面、あまり頭の良くない弟が指導者のない叔父の家に行つてどんな生活をするか。又假令姉が附いてゐるとは云へ、まだ尋常一年やそこらの妹が叔母の家で毎晩泣いて暮すんじやないか、今度生れた叔母の子の子守をさせられて暮すんじやないか。色々の悲しい事許りが子供の僕の頭の中を往來した。

村の豊年の祭が鎮守の森で行はれて二日目だった。隣村の叔母の家から弟を迎へに來たのは、假令父や母は遠い処に行つたとしても、まだ兄弟四人が一所にゐる間は悲しみの中に一種の朗らかさは残つてゐたが、いよいよ弟が今日から一人離れて、知りぬ小供達の間に交つて行くかと思ふと、一瞬にして暗い氣持が互の胸の裏で熱い涙に交つて行く。今迄弟が使つてゐた小さな机、本立や、

着物や夜具迄で荷車に積むのを手傳つた。それでも晝の御飯には特別に姉の計らひでお魚や赤飯がつけられたので、今晚からは直ちに冷たい他人の飯を食はねばならぬことをあまり考へないらしい弟は、左程悲しい様子もせず、或は弟も僕等に心配させない為、故為に朗らかに振舞つたのかも知れないが……斯の様な心で泣いて表で笑ふ朗かさを見る時、僕はたまらなくなつて、人のあまり來ない瀬戸の陰で幾度泪を拭いたか知れぬ。柿の葉がホロ／＼散つて、色鳥の囀る声も晴れ渡つた秋空の奥に聞えて來る。晝食が終つて荷車は下男に依て引かれ、弟は其の後を押して出掛けた。僕は鎮守の森の入口にある石橋の処迄見送つた。それから少しく下り坂になつた路を小走りに下りて行く。泣き出しはしないかと思つたが、流石に泪は見せず僅かにシカメた。離れ難い思ひをどことなく表はした顔を振り返り、車の後について行く幼い姿!! 幾年住み慣れた故里、昨日まで友達の誰彼と無心に演習ゴツコをして走り廻つたこの丘、あの森、時々野遊びの子供達の角笛が澄渡つた秋空にホーホーと鳴つてゐる。弟達の姿が曲り道の土手の陰に見えなくなると、僕は矢筈に駆け出して家に歸つた。

夕暗が迫つて來るのも知らずに、押入の中で何時迄も泣いた。

四季 四題 (○談四季)

丸 橋 嬌 婉

春

月も朧の春が訪れると、森羅萬象皆発動しし初め、とてもちつとしてほろれない衝動にかられる。當直子を惱ますあの異採の猫の泣き聲を聞くのも此の頃である。

いくら戒律の厳しい尼寺だつてやはり春は訪れる。だからと言ふわけでもなからうが、春先になると諸國修業に出掛ける尼の数が急に殖える。

四國の或る村に毎年同じ尼僧が宿を求めゝ家があつた。今年も例に違はず眉目秀麗の尼がやつて来て数日の逗留を乞ふてゐた。

附近の自信家が少し怪しみ、或夜其の主人を訪れ、「お前は毎年同じ尼を泊めてゐるが、きつとあの尼と浅からぬ關係にあるのであらう」と好色的な眼で言へば、勤直な主人「飛んでもない、俺にそんなことが出来るものか、併し若

しお前氣があるなら何つてみたらどうだね
 ? その間俺は外出してゐてやらう」とあつ
 さり外にかける。

やがて時をみばかりつて帰つて来ると、
 自信家さも満足そうな顔をして待ち侘びて
 ゐる。事の始終を一通り語つた後、一段声
 を絞めて「あの尼のやつパイパンだったよ
 と言へば、主人いきなり色をなして、何だ
 !! お前俺の噂とやりやがった。」



夏

とても蒸し暑い夏の晝下り。

平素力強くて餘韻のある明朗性の発砲をやるので有名な怪男子、新調の猿又
 に浴衣がけで、いきなり友人の宅を訪れ、應接間の窓に腰かけ雑談中得意の一
 発を発する。いつもの如く特徴ある快音を期待してやつたのに、案外力のない
 不発弾の様な音がした。変だなと思ひながらもまさか実質が出たとは思はない



秋

から、今日の様な蒸し暑い日にはガスまで蒸し暑いわいと思ひ、別に氣にも止めないで雑談に耽つてゐる中、餘りに何時も蒸し暑いので、少しあわて氣味になり、便所に入つてよく調べてみると、新調の猿又に紛れもなく立派な一片がついてゐると言ふ罪の無い話。それで新調のスロースは其の際どう処置したかは聞き洩らした。

下手な癖に碁の好きな或る獨身者。さ、やかな家を一軒借りて佗しい生活をしてゐる。家の中には生命のあるものとは小さな庭の池に瘦せた鯉がゐる位のもの。毎日或る役所に勤めてゐるが、獨身者のことゝて留守番がない、必ず鍵をかけて出掛ける。その点は案外几帳面にやつてゐる。

役所に行つても大した仕事もしない。でこそ／＼と碁ばかり打つてゐる。偶々九月十五日!! 月見に招待されてゐるので、午後七時にはそこへ行かなけれ

ばならない。退廳時間から七時までには可なり時間があるので、それまで暮を打つてゐる。やがて時間も来たので同僚二人で出かけることにした。途中まで行くと急に下腹部の膨満感を訴へて来た。少し変だなと思ひながらも互に罪の無い話をしながら歩いてゐる。どうも変だと思つて「僕便所に行きたくなつたと相手に打ち明ける。田舎町のことにて共同便所とてない。直ぐ近所の家に入つて御無心すれば、田舎のことゝ喜んで？ 貸してくれるんだけれども、少し小心者で氣どりやの獨身君近所の厄介にならうとしない。

「便所なら此の先に友人の家があるから、そこでしたらどうだ？ もう時間もなし、折角招待されてゐるんだから遷れると具合が悪いせ」と同僚は仲々親切である。獨身君瞬間に友人の宅と自宅との距離関係を調べてみると、自宅の方が稍、近そうである。

後戻りをするのも変だと思つたけれども、急を要する問題なので、自分は自宅に帰り、同僚は友人の宅で待つてゐて貰ふ約束をして別れる。

急いで帰ればよいのに敵に後をみせまい心意気か馬鹿に落ちついて帰つて来る。(本人もそんなに急に來るものとは思はなかつたらしい) 併し陣痛様の



たが、それが又仲々鍵穴にはまらない。その中拈拈筋は発作に負けてしまつて
 アーヌスの廻りは異様の暖さである。萬事休すツ!! 氣の絶みが拈拈筋のゆる
 み、益々暖さは大腿内側に拡がる。

やつと門を明けて便所にかけてつけて、ズボンをとつてみると、ズボンシタは
 恐るべきコートマツセで満ち／＼てゐる。下腹部膨満感が起つて僅々二分間で
 此の始末である。世にこれを電撃性下痢と云ふ。

ものが拈拈筋を刺戟する、拈
 拈筋も陣痛発作に抗して緊張
 してゐたが、我が家に近づい
 て急に氣が絶んだか遂に抗し
 きれなくなつた。獨身者はあ
 はて、自宅の門に駆けつけた
 が、あわてゝゐる時によくあ
 るて、鍵が仲々出てこない。
 やつとポケットから鍵を出し

冬

寒い——冬の夜の出来事

學生時代から頭がよく、年若くして医者となり、獨身ではあるが童貞を標榜して優越感に浸つてゐる、鼻柱の可なり強い男、或る田舎町に外科を開業してゐた。



いきなり一人の患者が外來を訪れた。診れば年頃二八か二九からぬ妙齡の娘！今朝程から廻盲部が痛いと言ふ。アツペと言ふ診断が下された。別にドウグラスを診る必要もなかつたのである。此の先生、女のアツペとなれば必ず老若、未婚既婚の別なくワギナルウンターズトフングを試みなければ氣のすまない男である。

やがて患者は手術台に昇せられて術は開始された。患者は盛に苦悶を發する。その聲たるや既婚者か或は經驗者でなければ、味はふことの出来な

い一種異様の聲である。
若先生堪りかねて暫くメスを置き、「君、君、手術中は変な聲を出さないでくれ、気が散つて術が出来ないから」と戒めた。
童貞先生ともありうものが、あの聲を氣にする様では変だなと思ひ、助手ども怪しみ数日後先生のワツセルマンを調べてみたらスタポチであつた。

手術室

すべれば
尻が可哀想





たわごと

T S U N E

二二〇

◎男根を切断して來れる若き男あり。見事其の根部より断たれて余す所無し。國手よ、願くば共に去勢をも行ひ給へ。」と處置せる医者を腦すことしきなり。

聞けば此の男哲學の學徒にして、宇宙の真理の探究に苦しみ、その解決として遂にこの事を為すと云ふ。一同彼の心境を思ひやりて同情の念に絶えず暗然たり。

やがて處置終りて繃帯せんとせし時、思はざりき、両鼠蹊部にいとむいみじき横痃の痕あるを見出して一同再び啞然たり。

功成り、名逐げて櫻ひんぬかれ。

◎さる廓の娼妓の淋毒性肘関節炎にて來れるあり。此の女、かたくなにして

些も女らしき所なく、徒らに苦痛を訴へる事の大袈沙にして、にくくしげなる、さすが温厚なる受持医も遂に怒りて、「厭なれば止すべし」と處置するを断念するに到る。傍らに居あわせたる者共も、これも人の子かよと、歎聲をあげ



さるほどに、この女ニケ月ばかり入院する内に、始めとは、うって変りて、物淑やかとなり、全く世の常の娘達と変らず、医者、看護婦達とうちとけて、笑ひ興じ、「良き娘よ」などと同室の人々にも云はれる内、やがて名残りを惜しまれて退院す。

この女も元の巷に歸れば、しばしの内に、又元の如くなるならん、と思ひやれば、この女の身の哀れなる、かゝる巷に足ふみ入る、男のいやしさも思はれて、涙をそそる。

◎入は百人百様なり。看護婦達の便器もて、廊下行く有様もさまさまなり。少しばかり指先にてつまみて、出来るだけ身より離して持てるあり、新聞紙に



包みてかくし持てるあり、又歩
むも廊下のま中を堂々と行くあ
り、端をこそこそと歩くあり。
金縁眼鏡をかけたるあてやか
なる人の、目八分にさ、けて、
しやなり、と歩くなどは、
いともいみじけれ。

異物奇談

M M T N

患者、七十二才の男、獨身。

主訴、食道異物

症状、体格大、老衰の状なし、レントゲ

ン検査に依り明かに總入歯の食道稽留せるを認む。

醫師稍、狼狽て、患者の口中を再檢するに總入歯なれど上下共に原位置に在り。
該入歯の出所不明なりとす、諸賢以て如何となす。

解答に曰く、該老人はさる「婆々藝者」の入歯を吞みたるものにてやある。
一般状態を見落すと診断はつきませんや。



生臭坊主

鉤ピン 生



凡そ無味乾燥なるは、統計表を作ることなる哉、と嘆する勿れ。アツペの統計カルテに現れたる各種の「アツペの原」といふ項のみにも時に興味をそそることがある。記載の極めて簡單なるものに「バナナ」。冗談に、アツペの原因が文字通りにただバナナである、と解釈して見れば甚だ珍である。記載の長くして凝つたものに「三晩酒を飲みながら麻雀をやつて徹夜す」といふのがある。

「ポリファギー」とあるは敢て珍とするには足るまいが、此の原因ポリファギーなるアツペを手術したのが、医局當代隨一のポリファギーたるS先生にして、而も又、偶然にも彼S先生自身のアツペが「デイエート・フェーラー」によるものと品よく記載せられたるを見出して、ものも書きやうである、と嘆せざるを得ない。職業「僧侶」とあつて、「肉食大好」と大書せられたるは、「此の生臭め」と讀める。



キンチヲ先生

歡迎會

H S M T

静岡から来たK先生の歓迎會、宴爛となり、飲むにつれ、酔ふにつれ、クラ
スの誰れ彼れ、何れもお箱を出して、さんざめく裏にK先生も之れに釣込まれ
て、

シイテ、シカれて、相ぼれて、一夜も忝はジに死んだなり、妾しや菜種の
花と咲く、あなた蝶々で飛んでお出で、シットントン、シートントン
一同腹の皮が痛くなる程天ひこけた柏子に隣に居たY。イ。タ。チ。先生を押し轉がし
て仕舞つた。Y先生、柱にぶつ付けた頭を押し乍ら「オイ／＼」と笑つてゐる。
之を見た口の悪いS君「オイ怪我（毛が）無いか」。



退屈當直問答

H S M T

今日は特診も無さそうだと云ふので、皆早くから當直室に引揚げる。落語口調のY先生に口の悪いS先生、宿借りをして寝てゐるH先生、

S、「オイ、H君が青森に行くと、君も大分顔役になるなア」

Y、「まだく、俺れのは少し薄いだだけだ」と頑張る

S、「結局同じ事ぢやないか」

Y、「?!」返答に困る。

H、「ハゲとはあるべき処に毛のない事で、薄いと云ふのは毛と毛との距離間隔の大なるものだ」

Y、「喜んで、ソウダく、俺れのは毛の生えてゐる範圍がモトく狭かつたんだから」

S、「ナール程ナ、云ひ様もあるもんだ」

廁 中 閑 鈎 ピ ン 生



狹き院内のことなれば、随分とおなじみのむきも多かる
 べしと思へども、さる廁の落書に、次の如きものありき。
 しやがめば丁度眼の前に貼られたる注意書の「御使用済み
 の時は、側に下つてゐる^{じま}紙をお引き下さい。すると、……云々」の^{じま}紙を消して
 鎖と訂正し、而も「^{じま}紙とは植物性のものを言ふ」と註が附せられたり。そいつ
 を又別なる筆蹟にて「絹は如何？」と軽くおさへたるつもりなるは、餘程の頭
 痛持ちが、久方振りの快便にてありしならん。

外科

或る土曜日の醫局小景

H
S
M
T

時刻

午後八時前後。

「長椅子の上に碁盤を置いて、ザル碁を打つてゐる者、将棋をさしてゐる者、黒板の前の引出しの上に腰かけてワイ／＼見物してゐる者多勢。部屋の一隅では瓦斯にヤカンをかけて、お酒の燗をしてゐる者。その圍りに椅子にかけて四五人相當メートルを上げてゐる者。南豆の殻や雑詰の殻、ピールの空壘等でテーブルの上は雑然としてゐる。紫煙は部屋一杯に立ち籠めてゐる。又一隅では當直員がシンミリとラヂオを聞いてゐる。此の騒然たる中に、白壁の一方に何々畫伯の畫いたと稱する若い女の肖像畫、或は風景畫の額が不似合にかかつてゐる。」

A、早くやれよ！ 下手なクセによく考へるんだナア。

B、まあ待て〜。手には何々だい、桂、角、銀か。ヨシツ。

A、何アーだ、考へた末がやつとそんな手か。それじゃこれはどうだ。

「此の時B待かまへてたと許り角を進める。」

B、サア王様か飛車を載きます。と得意になる。

A、アツ、王子飛車取りか、一寸困ったナ。と考へる

C（見物）、何でもないじやないか。ハツ、、、、

A、ア、何んだ。桂が効いてる。ハイ只載きます。

B、オイ一寸待てよ、今のは待つて呉れ、桂で只か。

A、オイ〜、又待てか。

「此時酒を飲んでみたPたまり兼ねて。」

P、俺れが少しコチしてゐる、何方の手だ。

B、俺れの手なんだかね、今王手飛車取りとやった此の桂が効いてるんで弱つ

たよ。

P、手には何々持つてるんだイ、王様の頭にフを打て。

王手飛車
折った餘裕で
飯を喰ひ



- B. ウ、それは良いな。と力を打つ。
- A. オイ／＼、そんな手があったのか。と困る。
- C (見物)。 何だい、そりやニフじやないか。全くどうかと思ふな、ニフ打つて喜んでやがる。見ちやもられないよ、よくそれで人前でやれたもんだ。
- 「と退却して碁盤の方へ来る」
- C. 此処も下手同士だな
- エ. マアそう云ふな、一寸これを見て呉れ。と得意
- C. ア、その大きな石に目が一つか、可哀そうに。
- Y. 此処に二モ一眼出来ないかナア。少し困ったぞ。
- C. アツ、良い手がある、あれが分らんのかなア。
- エ. オイよせよ。Yさんいくら考へても駄目ですよ。
- C. ハッ……、良い手があるのになア、あそこに置いたら君の勝ちやないか。
- エ. オイC! だまってろでんだ。「とCを手で制す。
- Y. そんな手があるのかなア。此処か、此方か。

C. そこじやない。ウ、そこだ。

Y. ナアーンだ。Xの奴胡麻化しやかつて、君の此の石が後三目で上りじやないか。

X. トウ／＼氣が付きやかつた。ハツ……。

Y. 全く油断も、すきもならんからナア。

C. 全くネ、見ちやみられぬいよ、一寸目を離すと直ぐあれだからナア。

X. 何云つてやかる。一体此の暮は誰がやつてんだ？

、此の時酒の方から声がかゝる。

Y. C君！ マア此方へ来て一杯飲めよ、そんな下手の奴の奴を見たつて仕様が
ないよ。

X. あいつ、俺れに二目置く癖に、あんなことぬかしやがる。此の次は三目に
してやるから……。

Y. マア良いよ、三目でも四目でも、あなたの好きな様にして置いてやるから
良い加減止して一杯飲めよ。

Y. 良い氣持になつてゐるナア、早や一升飲んじやつたのか。醫局の酒のある女

け片着けて帰るんだから叶はんよ。醫局費は充分モトを取ってるよ。

α、大勢で飲んでんだ、一人頭いくらもなりやしなないよ。

β、あんなこと云ってる、殆んど君一人で飲んだ様なもんだ。

α、ハッ、、、まあ良い。飲める内に飲んで置かんと、年を取ると飲めなく

なるぞ、金は要らぬしサ、只より安いものはないよ。

γ、全くネ、此の儘で済めば安いもんだが、、、。

α、コイツ妙にカラミヤがる、イヤにセーブしてる処を見ると、サテハ今晚行

く氣だな。そんなら此処で飲む丈け飲んで行つた方が安上りだぞ、飲めよ。

β、Cの奴、今晚いやに張り切つてゐやがる。まだ早いよ。

γ、癪な奴だ。ヨシ俺れも飲んでやる。

「此時看護婦カルテを持つて入り来る」

α、何だい？ 當直か、その辺に一杯あるよ。あまり大したものもゐないが、マ

ア選り取り勝手と云ふ処だ。

看護婦 α先生！ 此の患者さんですけれ共お小水が出ないで苦しんでゐるん

ですよ、一寸見て下さいよ。

- メ 何アーンだ、俺の患者か。導尿して呉れ、良く拭いてナ。娘さんだから、ソーツとやつて呉れ。
- Ｃ こいつ、女の患者とすると、いやに親切だからなア、自分で行つて見て來いよ。メ先生、と云つてたよ。
- メ 何云つてやかる。Ｃの奴、いやに張切つる処を見破られたんで……、敵打ちか、それじゃ仲直りにちよいと行かう。もうそろ／＼お時間だよ。
- Ｃ 全く叶はんナア。
- メ 土曜日じゃないか、たまには良いだらう。
- Ａ メの奴の「夕マア」にはあきれろよ。昨夜行つたばかりじゃないか、全くどうかと思ふね。
- メ 昨日はオトナシク帰つたんだ。
- Ａ どうだかネ、帰へると云つても色々あるからナア。
- メ 何處だつて良いじゃないか、兎に角行かう。早く服を着ろよ。Ａ!! 早くしろよ、今日付合んと此の次から俺も付合はんからナア。
- Ａ 付合つて貰はなくして此方が助かるよ。ハッ、、、

α、自分が一番好きな癖しやかつて……早くしろよ、誰誰行くんだイ、早くしなないと後らすや。

「此時吉村屋の出前持入り来る。」

出前持、今晚は！ お待遠様。

α、吉村屋、何持つて来たんだ、天井か、吉村屋!! お前の処の天扶羅腐つてゐるや。

出前持、そんなことアありませんよ、うちじやトテも上等のを使ふんですから、

A、メキシコの上等だらう。

出前持、毎度有難う御座ります。「と帰る」

α、當直の奴、不景氣なもの喰つてやがるな。

當直、ハイ、濟みません。許してネ、總てをネ。

一同、ハッ、、、、、、。

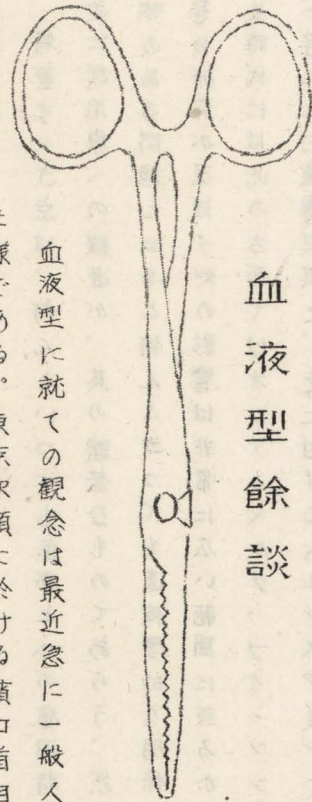
α、B!! 早くしろ。

B、今日はちよつとこらへて呉れ、少し下痢してんだ。

α、ナ、ナ、下痢なら一杯飲むと直ぐなほろよ、行かう〜。

血液型餘談

A · H 生



血液型に就ての觀念は最近急に一般人士の腦裡に入り込んで来た様である。東京駅頭に於ける濱口首相遭難、上海に於ける白川大將遭難事件等が相次いで可成り「センセイション」を捲き起したに違ひない。即ち今日の偉人を救ふべく輸血と云ふ新治療法を以てした事が一般には大なる刺戟を與へたに相違なからう。

輸血の古事末歴に就いては相當古いらしい。今日文献上に知られてゐる物分論筆者の知れる範囲）としては一四九二年伊太利のインノセント八世に始まる。と云ふ。此の時皇帝の臨終に當つて三人の少年から輸血を行つたと云ふ記録に始まる相であつて相當古い話である。亦人間の體に人間の血液のみならず動物（牛）の血液を輸血したと云ふ話も話かの本で讀んだ事があるが其の多くは不

幸に終つて了つた。處が一九一〇年前後に至つて所謂ランドスタイナー氏現象なる物が発見せられて以來ジャンスキー、モス等の學徒と共に人間の血液に四通りの型がある事が確定され茲に始めて輸血が安全に且比較的効果的に試みられる様になつた物である。

或人の言を借りて言へば、此の血液型の発見は二十世紀の學界に於ける白眉である。とさへの讃辭すら聞く處であつて、ランドシュタイナー氏は確かに昭和五年十二月ノーベル賞を授與せられた様に記憶してゐるが、亦當然な事である。事實此の発見に依りて現世紀の生物界に一新紀元を劃し得たことは争はれない事實である。

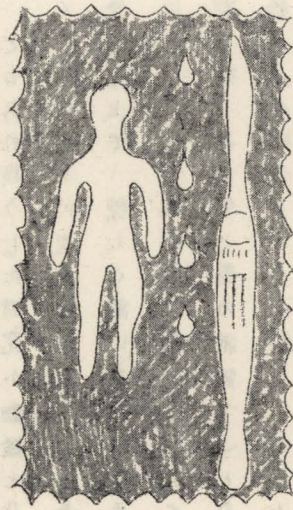
特筆すべき点は、何んといつても醫學上への應用特に外科領域に於ける手術並に後治療への躍進が、其の顯著なものであらう。然し乍ら生物學的に見て興味のある問題と云ふと何んと云つても遺傳學的な關係であらう。何故ならば此等の研究が及ぼす處の影響は非常に広い範圍に亘るからである。僕等が未だ學生時代には此の方面ではオツテンベルグ、フォンツンゲルン及びヒルスツフェルド等の二対遺傳型質と、之に対するベルンスタイン、古畑氏等の三因子説とが

相半ばしてゐた様であつたが近頃では後者の説の方がより優秀とされて來てゐる様であるが、それでも尚且つ説明のつきかねる事或は斯うと断定のし切れな
い点がある様な報告があつて此点から見てもまだ〳〵完璧を期するに遠い様な
状態にあるらしい。

ともあれ斯うした研究か動機となつて此の恩恵が獨り人間界のみならず、廣
く一般生物界に迄及ぼされてゐる点が愉快である。先年筆者は文部省体育研究
會の席上で、親しく聞いた話であるが、東大農学部松葉博士の如きは此の方面
に就いて實に興味ある報告をされてゐる。即ち氏は多数の馬に就いて其の血液
型を檢し其の形と馬の氣質(?)との間に一定關係があつて、しかもその關係は
恰も人の場合とよく一致すると云ふ点からして氏の馬に対する体型の規定條件
に此の血液型を加味して良いと云ふ点を述べられた様であつたが此んな様な例
は他の背椎動物に就ても広く試みられてゐる。筆者の知る範圍に於ては同じ背
椎動物と云つても蛙や蟻の如き兩棲類には型の種別はないが哺乳動物となると
三型しかないもの、四型あるもの、決定不能なもの等があつてフロゲネティッ
シユに未だ体系附けられてゐない。

最近の小説中にも折々血液型に就て觸れてあるものを見るが此等の点も將に時代の傾向を示すものと云つて良い、特にそれが探偵小説の中に加味された物があるさうであるが、また日本では見當らない様である。

先年來血液型と種々なものとの間に關係があると無いとかと云つて旺んに論じられて來てゐるが、此中特に性格と血液型との關係は主として心理學者間の



研究範疇に屬する物の様である。勿論精神的素質は其の拠つて來る因に智、情、意の三部分を老察すべきであつて、此中智能は吾人の性格に潤みを附ける着物の如き物であつて、真髓をなす物が即ち感情と意志とであらう。して見れば性格と云つても其の人の意志、感情との關係に就いての研究が主となる。此の點に就いては高師の古川文學士の多数の研究が發表されてゐて、氏に依れば血液型と人の氣質とが因果的關係を有する事を証明する事が出來たと云はれてゐるが、人の氣質には後天的な多くの要素に依つて左右され得る事が事實であり、且つは其の後の修

養力の如何が相當大きな変化を與へ得るものであるから、學術的根柢へ氏の所謂氣質の分類上の判定並に検査方法に就いての凝義に於て正しいと假定されても、さう簡單に断定して良いか否かは直ちに決定出来ないと思ふ。筆者はいつも此場合孟子や荀子の所謂性善説、性惡説と云ふ事が頭に浮んで來る。勿論両者の説は何等學術上に根柢があつて説く處でないので彼我同一の比に批判すべき限りでないが其の云ふ處が根本的に相反する点が面白いと思ふ。

更に此点を演繹して所謂易学なるものの不思議なる存在に就いて考へて見るのに、彼等に謂はせると人間の性格と云ふか性質と云ふかは生れた年に依つて決まるのだ相である。亦若し古川氏の所謂血液型と氣質との間に平行關係が成立するものとするならば、其の結果は次の様な現象を見なければならぬ事になる。或るクラスの血液型出現率は必ずやある一つの型のみに限られると。但し此の場合クラスメートを略し、同一年生れの者と考へる。

假りに此の事が成立つとするならば次に困る事に遺傳學上の問題である。何故ならばいくら同一クラスメートと雖も其の父母の血液型迄が同一であらう筈がないからである。何れが事實で何れに缺點があるかは先づ或るクラスの血液

型出現率を検査すれば見當が附く。筆者は現在の三年と二年の二組に於ける血型出現率を検べた事を此處に思ひ出したのでそれを引用して見るのに、何れのクラスに於ても血型の出現率は丁度日本人（二〇二九七名）に於ける出現率に相一致して即ちAが最大、次がO、其の次がB、最も少いのがABであつた。但し率は多少異つてゐた様である。して見ると遺傳學上の問題に牴觸しない事が分るから、どうしても古川氏の説に無理があるのか、或は易の云ふ處が間違いなのか何れの説もいけないのかの三通りの判定となる。

しかし筆者は古川氏の説く處には確かに理屈があるだけに易者の説く處に否定すべき点があると思はれるが絶対的に断定出来ない事に曩きに述べた所である。今一つ此處で述べ度いと思ふ事に血型と結婚と云ふ問題である。此の問題も以前から論じられてゐる處であるが此点に就て曩きの易者からも質問を受けた。此の人の考へでは同一型の内の結婚は何人とかの反應とやらが起らないから都合が宜敷いでせうとの御意見であつた。確かに反應が起らないから一方が病氣をして輸血を必要とする場合には都合が良いと解釋も出来るが、優生学的な見地からは問題にならないと思ふ。むしろO又はB型の夫とA又はAB型の婦人と

の内が良い様である。しかし此れとても万人が望める所でないので解決は六つかしいであらう。此の場合見合なんかして未來の夫君たる者良い氣になつて煙草なんか吹かしてゐると何日の間にやら煙草がもととなつてあたら良縁が破綻になる心配も起り得る理由である。

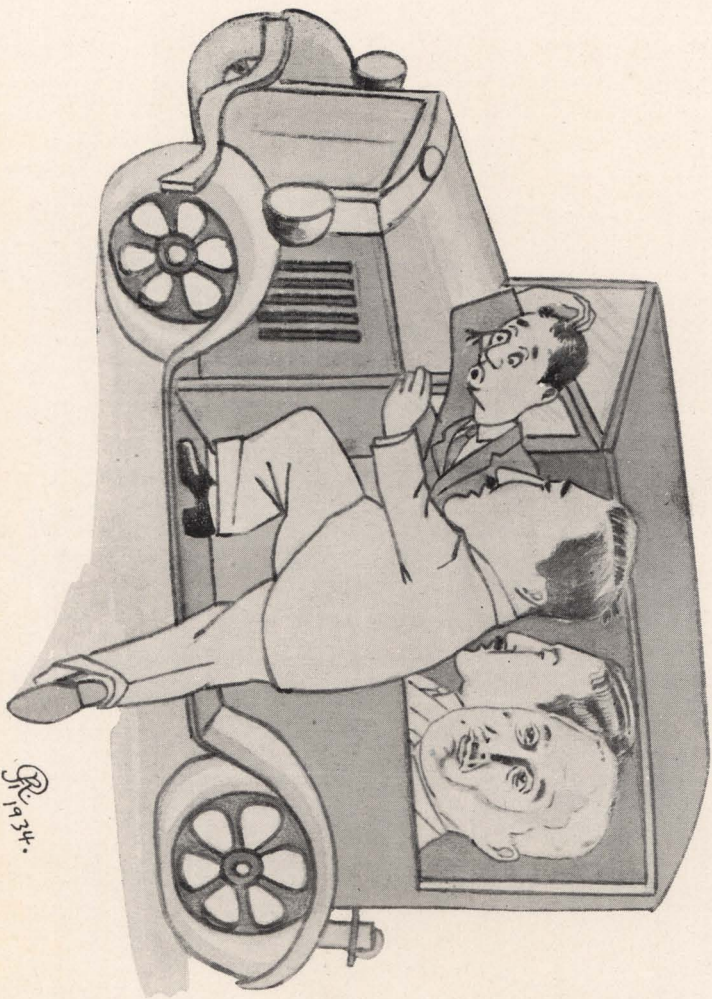
此の研究はウイテフスキー、シエワルツマン、日本では一九三〇年茂田博士等に據つて完成された業績であつて、即ち血型の決定を更に進めて各人の分泌物へ尿、汗、涙、唾液等）から判定しようとする試みであるが、此の研究に依つて最も尊いと感ぜられる事は故人の手紙等からして其の人の血型が判定されると云ふ事であり、便利な点は多数の人を一時に検査しようとする際に、あまり人手を煩はす事なくして、亦採血の要を無くして判定出来る事であつて、スポーツ醫學の研究にも可なりの便宜を得てゐる点で、感謝すべき業績である。

秋季雜吟

犬蓼にふれてほしたる浴衣哉
秋立つにカンナの紅のつよき事
七夕の色紙しつとりぬれて居る
ポスターもはりまぜてあり響虫
岩魚ゐて冷き水や秋の山
草市へ淋しき母でありにけり
陸奥の夫婦といへる箱を刈る
女郎花に二百十日の風雨哉
霧の中の姨捨山を見よといふ
烏瓜 霧 高々と 熟れそめぬ
鹿の眼のやさしくうるみ居たりけり
垣の外 雁といふ声きこえけり



中
村
武
重

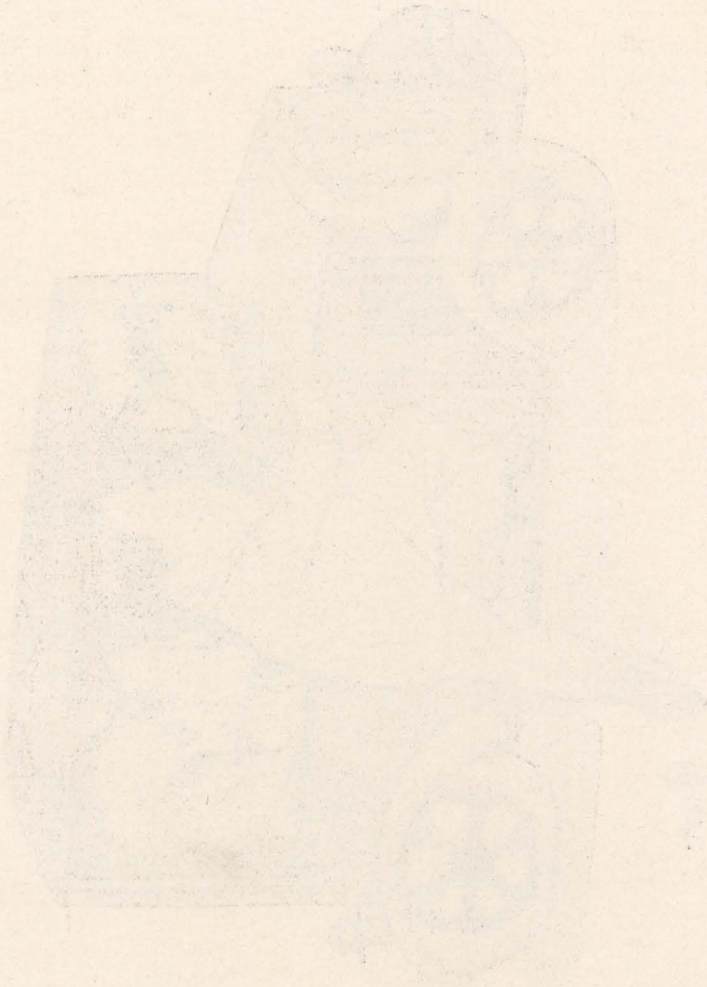


新宿車庫裏で三十三銭

或る日、正門前小景

H.S. 景

1935



北京大學圖書館藏

ヨツト

風が強いぞ センター下ろせ

しめた、帆綱を離すぞ無いぞ

沖へ出ろく 荒波越えて

三浦三崎の見えるまで

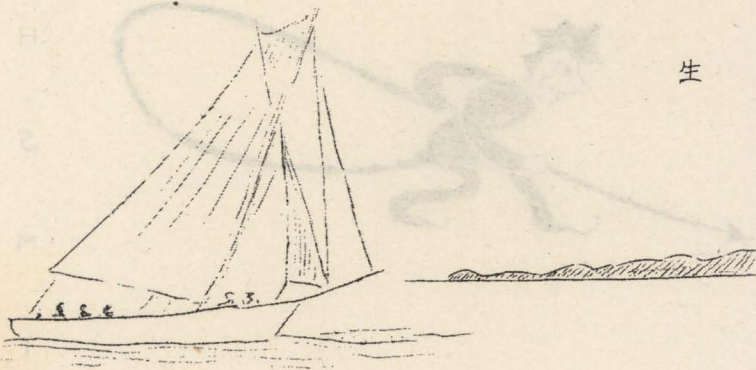
舟を廻すぞ 頭を下げろ

しめた、此方へ皆座を移せ

風よ吹けく 舟傾けて

帆綱とる手の 痛むまで

治生



醫局の子守唄

泣くなよし　ねんねしな

眠かしいワと　泣いたとて

切らなきやペリプロ　治りやせぬ

リチネを吞んで　ねんねしな。

坊やは強いぞ　我慢しな

母ちやんゐないと　泣くものか

切らなきやヘルニア　治りやせぬ

泣けば腸めが　又出るよ。

ニッコリ笑つて　ねんねしな

今日の麻酔にや　何をやる

どうせ術後は　痛いもの

パントポンやるから　ねんねしな。



H

S

M

T

泣くなよし〜 あきらめな

ラバさん泣くとて なげいても

切ったお乳は かへりやせぬ

アタリンやるから ねんねしな。

クヨ〜云はずにやりませう

切ればアツでも すぐ治る

痛みを知らぬ ルンバール

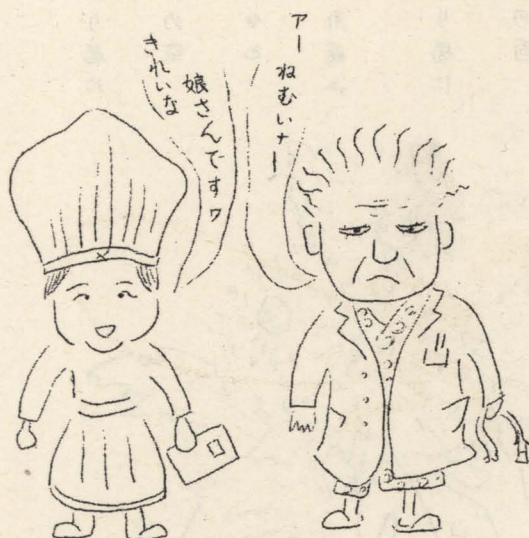
切らなきや 腸めが又騒ぐ。

グヅ〜云はずに 起きてきな

夜中の特診 つらくとも

今日のは特別 シヤンですよ

診ればねむさも すぐなほる。



雨

雨の降る日の籠り居に

見るとはなくも宵の空

雲の切間は白々と

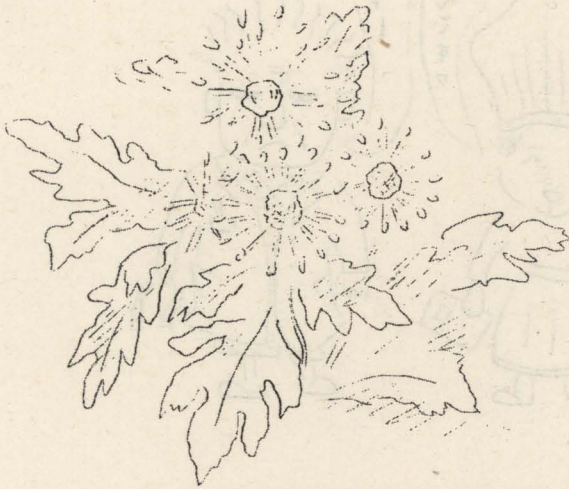
形様々に乱れ飛ぶ

雨の降る日の籠り居に

見るとはなくも庭の面

名残りの小菊ニつ三つ

花色あせて低く咲く。



治生

二四八



醫局オハラ節

H S M T

一 醫者は慶應 すきなは外科よ

粹で陽氣で オハラハラ 腕が立つ。

ハヨイヨイヨイヤサト

二 外科の親爺は 醫界のほこり

死ぬるアツヤも オハラハラ 殺しやせぬ。……………

三 ネットのちよい出を ダルムと思ひ

切りはせぬかと オハラハラ 氣にかゝる……………

四 手術終つて いとまもくれず

又も輸血で オハラハラ 日が暮れる。……………

「見えた見えたよ シヤームハーレ越しに

若い女の オハラハラへモロイド。……………

「おらが親爺は 話せる親爺

若いうちなら オハラハラ 飲めと云ふた。……………

續 醫局 オハラ節

T M R

「入れた入れたよ 無理矢理入れて

そのまゝ履かせる オハラハラ ブジールング、ハヨイヨイヨイヤサト

「まくったまくった 臍までまくり

またいで入れる オハラハラ 坐浴盤。……………

「時間はかつて ねかせてつけて

布團をかける オハラハラ 熱器浴。……………

ていたい、いたいよ、上手に入れて、
もらしちやいやよ、オハラハラ スベチヨード、
.....

ばめた ばめたよ すつぱりばめた
もんで さすつて オハラハラ 鍵はづレ (脱臼ノコト).....

手術室

蠅の行方へは

ホームラン



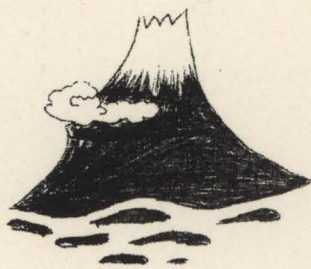
鏡ヶ浦暮色

沖の島へと 鳥が渡る

那古の灯 チラホラと

明日も日和か 鏡ヶ浦は

富士を浮べて 暮れかゝる。



治

生



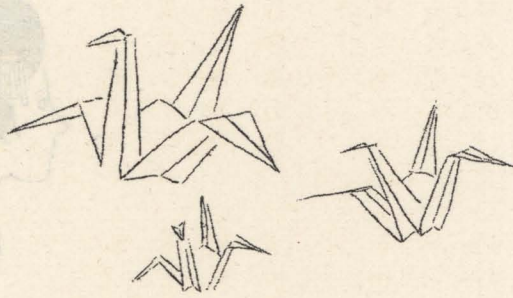
躡 步

来るか／＼と待ぼけて
しんきくさゝの瓜弾きに
ふつと切れたる其の糸の
纏れかげんが氣にかゝる。

灰去りしあとに淋しき盃の
さめては蒼き酒の味
更けてはろ／＼窓に雨
吾れのみ知るか末の秋。

ほろ酔に來るともなしに木挽町
ネオンの光りうすらぎて
白い襟足 幌車
月はまんまる 出雲橋。

S
O
S



紙折の鶴 (一号室所見)

治 生

二五四

長病みの人の枕邊

赤・緑・色様々に

かざられし 紙折の鶴

或ものは 首を傾げ

或ものは 尻尾をたてて

病む人を まもるが如し

癒ゆる日を 待てつ祈りつ

みとりする 人のまごころ

通ひてか 紙折の鶴

或ものは 首を傾げ

或ものは 尻尾をたてて

病む人を まもるが如し





獨り寝

H
S
M
T

雨の晴れ間に ポプラの葉音
風のたえまは しじまの夜よ
音と音との 相間にきくは
彼女恋しの 泪の音か。

風と雨とが 一所に止めは
夜の闇ぢは ヒツソリ更けて
夢のお國に 瞳が浮かぶ
いとし彼女の 瞳が浮かぶ。

又も降りくる 五月雨の音に
夜の夜中に 眼を覚ましや
遠いあの子が 氣にかゝる
夢に浮んだ あの子のことが。

雨と泪と 泪と雨の
はれ間はれまに ポプラの葉音
夢のまにまに けるかに響く
ぬれて走るか 汽車の音。

寝言

一昔ある時 患者の寝言

そつと聞いたら こんな事

お医者すぐ来て、薬は甘味く
痛まぬ手術、萬病全快

薬價はそのうち ある時拂ひ
こんなお医者 は 無いかいな。



治生

二昔ある時 お医者 の寝言

そつと聞いたら こんな事



患者は晝来て 文句を言はず

手術も注射も 萬端一任

薬價は必ず 現金拂ひ

こんな患者は 無いかいな。

外科龍峽小唄



H
S
M
T

ニハア 講堂通つて 裏道抜けりや メスは白金

外科の自慢の 手術室よ ヨイトヨイトヨイトサノヤレコリヤセ。

ニハア ドアを距て、 灯あかりが見える ミクロ磨ぐ灯あかりか

標本ひょうほんを切る灯あかりか ボルゲン取りの灯あかりかよ

ニハア 外科の外來 覗いてござれ 初心な娘か

粹なマダムの へモの太さよ

四、ハア 廊下傳ふて シユルツエの姿 い号ろ号と

に号は号の お醫者さんが 好きワよ

五、ハア 庭の飛石 踏みくごされ 道は地下道

別館通ひの 恋の道よ

六、ハア エレべ上つて 三階づとめ 東みなみの

外科の患者の うめく聲かよ

七、ハア 繻交すまして 四階林み モダン喫茶の

可愛い乙女の エプロンの白さよ



代持並刺小貝

スポーツと
救護

對青山外科懇親競技會記事



野球

小島 記

三田綱町球場に青山外科野球軍を迎へて一戦を交ふ。

九月三十日朝來暗雲低迷して正に龍虎相搏つの凄氣球場にみつ。青山外科は
久しく我々の好敵手とみられてゐるだけに、却々に巧者揃ひ、而も闘志満々。
去年の復讐戦とはかりいきり立つてゐる。

両軍カタの如き練習を終つて午後一時愈々戦を開始。茂木外科先攻。(球審
板橋、壘審三辺君)

一回。(慶) トップバッター長坂先づ四球、つゞく畠中の投匍失に走者一二
壘の好機、三番打者大塚カウントー一の時一二壘の走者ダブルスチール成
り捕手パスボールにて長坂最初の一点を挙げ、大塚三振捕手落球一壘に送球

の隙を見て三壘走者島中本壘をつくも成らずニ死。この本壘は無謀なり。小島三壘凡飛球に退く。

○一回◇(帝) 近藤第二球目を二壘飛球。若林ニストライク後投手ライナイにニ死、三番小原第一球を阻つて左飛。(慶一帝〇)

○二回◇(慶) 古山ストレートの四球、つゞく齋藤一ニ後三壘ゴロに倒るも古山ニ進、中野2ボール後の好球を三壘頭上を抜く絶好の安打して走者一三壘門橋四球にて満壘、又々絶好のチャンス。伊藤国へあの場合カウント1-2後にきた好球を待たずに阻ひ打つべきであつた)の一打を待望せしも空しく三振長坂投匁にて点に成りず、帝清水投手好投をつゞく。

(帝) 四番高橋2-1-0後遊匁、清水第一球をぬらふも投手凡飛球、つゞく楠2-1-1後さかんにねはつて遂に三振、帝大軍打撃ふるはず。(両軍〇)
 ◇三回◇(慶) 島中2-1-2后左中間に安打してパスボールにて三壘、大塚四球ニ盗后小島1-1-1后投軟匁この時三壘走者島中本壘に引引に突込むも又々成功せず一死(スタートをうんと早くしない限り無理なり)古山投匁の時同じく三壘走者大塚三壘を出過ぎて三本間に狭れてニ死。齋藤くさつて三振、又とない

絶好のチャンスも一点にもならず全く拙劣な攻撃であつた。

(帝) 小出三球三振、森も亦三球三振、小島2—2后三壘凡飛球、我軍小島投手好調を示す。

◇四回◇(慶) 中野第二本目の安打を中堅に放つて好機を迎ふ、門橋第一球をねらつたが惜しくも中飛一死、伊藤国打者の時中野ニ盗成り伊藤国の1—3后の三匍によつて三進、既にニ死なるも長坂遊三間に理想的の安打を放つて中野悠々生還、畠中の三匍に止むも一点を加へて我軍勇躍守りをかたむ。

(帝) 第一打者近藤決死の形相凄く1—0后の直球を左翼越大三壘打して本壘をうかゞふ、つゞく若林投手軟匍に近藤スタートよく一点を奪還す、若林は一壘にアウト、小原2—0后カーブを三飛、高橋三振、(慶1帝1) 帝大は三壘打によつて一点をかへし差は一点となり接戦をつゞく。

◇五回◇(慶) 帝0 ◇六回◇ 両軍零

◇七回◇(慶) 大塚遊匍、小島三凡飛、古山遊匍

(帝) 三好投飛で一死后三番打者小原投手の不用意に投げ込んだ初球をねらつて左翼越大三壘打、次打者高橋投飛ニ死后、五番打者清水0—2后の

角を通る直球を軽く當てれば二壘頭上のテキサスとなつて小原生還、又々その差一点となり俄然緊張す。次打者榎一匁にてチエンヂ（慶〇帝1）

◇八回◇（慶）齋藤第一球を左翼越二壘打して絶好のチャンス。次打者中野投匁、門橋三匁で齋藤生還、伊藤固左飛でこの回でも二点をあげ又々二点をリードす。

（帝）井上三振、森捕邪飛で二死、小島遊飛、（慶1帝0）

◇九回◇ 我軍二点のリードを以て最後の攻撃に入る。而かも打者一番長坂、1-2後の好球を投匁、島中二匁、大塚三匁一壘矢に生きるも小島三飛にて遂に空し。

（帝）この回到二点を奪還せんものと勢凄し。第一打者近藤果せるかなニ本目の安打を左翼に放つて出壘、慶應ピンチ。次打者ピンチヒッター三好三振、近藤ニ盗後三番小原三壘強襲之を失策せしめて出て直ちにニ盗、走者ニ三壘ニ死とは云へ絶好のチャンス、慶應小島投手こゝに於て懸命に投げ清水を投手ライナーで打つて接戦九合漸く凱歌をあぐ。

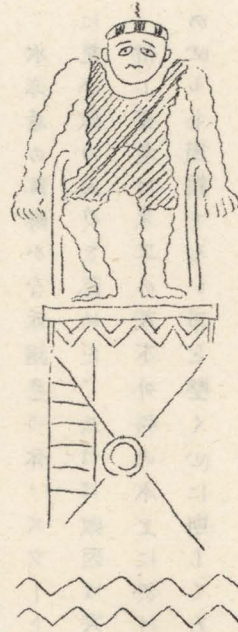
両軍メンバー次の如し、

茂木外科

- | | | |
|---|---|---|
| 8 | 長 | 坂 |
| 2 | 富 | 中 |
| 6 | 大 | 塚 |
| 1 | 小 | 島 |
| 4 | 古 | 山 |
| 7 | 齋 | 藤 |
| 9 | 中 | 野 |
| 3 | 門 | 橋 |
| 5 | 伊 | 藤 |
| | | 園 |

青山外科

- | | | |
|---|---|---|
| 6 | 近 | 藤 |
| 9 | 若 | 林 |
| 4 | 三 | 好 |
| 5 | 小 | 原 |
| 8 | 高 | 橋 |
| 1 | 清 | 水 |
| 2 | 楠 | 田 |
| 9 | 吉 | 出 |
| 7 | 小 | 上 |
| | 井 | |
| 3 | 森 | |
| 4 | 小 | 島 |
| 1 | | |



水上競技

渡記

青山外科の水泳は強い。東大の醫局対抗にも優勝したとか聞いてゐた。此の
 日我野球快勝の後を受け、あはよくば此の一戦をも矧り切らうと意氣軒昂なも
 のがあつた。

曇天秋雨を催さんばかりの天候に拘らずプールのコンディションは至極良好
 であつた。(三田廿五米プール)

開戦寸前瀬尾主將が発表したオーダーは次の様なもので、同窓の布留先生を
 誘ひ、岩原助教授の奮起をお願いした所等苦心の程が思はれる。

島 留 坂 原 内 泉 藤 尾 原

笹 布 長 伊 藤 大 小 淺 齋 瀬 岩

間もなくスタートは切られ、プール周囲に所狭しと押しかけた両軍應援團の喊声とエネルギツシユな体の動きにつれ、線状に走る水の飛沫の中に五分定らずで戦は終つた。

ラストの岩原君がスタートに立つた時既にゴールには敵軍の凱歌が擧つた程で惜敗と云はんには餘りに多くの躊躇を要する感があつた。

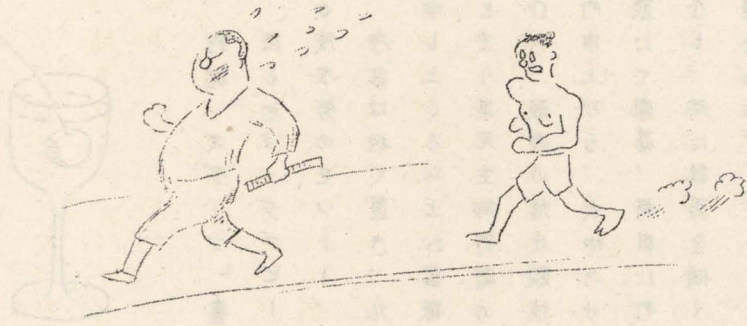
水泳着の跡鮮かな赤銅色の体、スタートダツシユの強さ、ピッチの早さ等々に充分敵の実力を認めた。云はば敗因は実力の相違とも云へやう。

併し筆者は來年の茂木外科の水上に於ける奮闘を切に祈ると共に華しい戦勝の必しも困難でない事を堅く心に期してゐます。

一 継 走 一

伊 藤 目 記

野球に勝つて水泳に負け得点一―一で愈々決勝の継走が始つた。手製のデコボコなトラックで両方のメモバーは三十人宛、一周を四人で走り一人分は六十



未位だ。先づ小學校のリレーを大人がやると思へばよい。

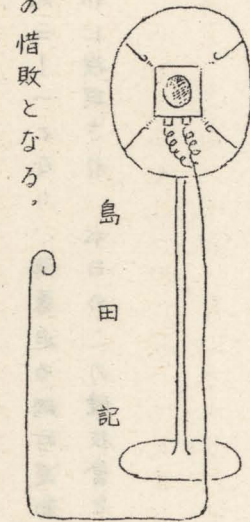
号報一発スタートは切られた。

慶大第一走者布留君よく、青外ハダカマンを抑へてバトンを渡す。第二、第三とバトンは移され依然慶大リードを續けたが、四、五番より形勢は逆轉、青外慶應を抑へる。かくして、差は三米より五米となり十米迄も離され、以後の慶應力走するも、之を挽回し得ずラスト百溪君の追走もむなしく、遂ひに勝を青外に譲る。

斯くして競技得点ニーとなり、薄暮迫る綱町運動場で、カッパは青外に授與され、本日この競技會を終る。



對青山外科
懇親競演録



島田記

對抗「スポーツ」畫の部は遺憾乍ら當方の惜敗となる。
然し之は「ラグビー」試合の前半戦に過ぎない。後半の押しの一、之が吾々茂木勢のモットー。殊に夜蔭ともなれば……。

序言は扱て置き、九月三十日午後六時より赤坂幸楽に懇親會を開く。御招待申し上げる以上お客様の酔感を高めやうと宴會係の苦心、先づ女將との内談まとまり某先生御寄贈の某ウイスキーを幸樂の専門家にその調合を依頼して万事OK。最後の継走競技に面やつれの諸先生、知るや知らずや洋館の一室に御案内申上げる。女中のサービスよろしく何れも御入浴とある。茲に一層御疲労の態にて圍碁、將棋に打興せらる。折もよしと特製洋酒（櫻の実入り）のおもてなし、時に数盃を傾くる青山外科の某先生奇声を發する事数度仲々の御機嫌に察せらる。

更に大廣間に於て本格的の懇親會に移る。長椅子を二列に並べ、その外側には青山勢、内側には茂木勢、何れ劣らぬ強者共七十名の盛會。先づ臨時設置されたる松声を通して百溪講師御招待の挨拶を述べれば、青山方の一快漢可成りの御酩酊なるも自ら進んで活辯もどきの流暢なる御答辯には一同感嘆置く能はざる態なりき。此壯漢辯舌巧にして醫者と云ふよりは孔孟の弟子にも思はしく口角泡を飛ばして奇辯縱横に走らす。風の便りに聞けば此壯漢二等看護長とやら、古山軍醫在營中は可なりの逸話があるらしい。

酔興酣にして室内騒然たる頃、吾木村教授の御入末、一同更に力を加へて、いよく競演會となる。青山側の進行係は先程よりの壯漢、茂木側は茲に當時を追記する拙者である。どんなかくし藝が出るかと云ふのが面白いと云ふよりは頭痛の種？。慶應方よりは大塚先生の二村定一聲色、古山先生の流行唄、拙者の米山、横山先生の都々逸、岩原先生の〇〇コ節、最後に門橋先生の十八番一ツ何んじやいな。一ツヨカ〇〇ボ……。その演出誠に型に嵌つて見事なもの、股の下から出てくる徳利が楽しみとある。一回大喝采。青山方よりは進行係自ら常に漫談、乱舞にて場内の光彩を一段と具へ、入道先生（一等軍医）

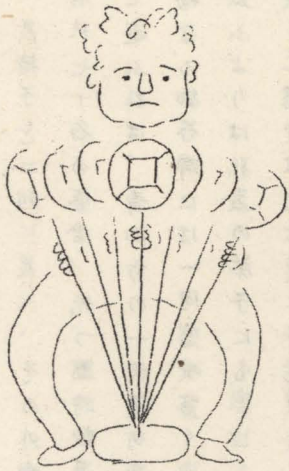


方御一同の手拍子も鮮やかなもの、誠に目出たし、
 扱てこれからが大乱舞、例の二等看護長の人の顔を見ると
 飛び付いてなめる。某先生余りにもなめつくされ何れへか
 御立消えとなる。更に

の御挨拶、悪食と放尿、毒舌と
 やら猪に見聞する悪舌を承る。
 最後には人氣王時永先生の万才
 之亦年を重ねるに徒ひ益々円熟
 味を加へ、あの薙い顔と聲には
 惚れくする、之に和する青山

東京音頭に花が咲き、夜の更くるも知らず、
 懇親其の極に達し吉田医局長の御挨拶で名
 残り惜しくも袂別となる。嵐の後の静けさ、
 三々五々打ち連れて歸る。

翌朝に幸あれ!!!。



二等看護長奮戦の圖

未筆乍ら本會の御後援を下されし茂木先生を始め水村、町田両先生に拜謝す。
尚青山外科二等看護長に深謝す。

蹴球

長坂記

「蹴球とはソツカーなり」と云ふ註釈は、とうの昔に過去のものとなつてしまつた。蹴球を見にゆかう、とさそへば必ず数名の愛好者を見出し、神宮競技場へと出かけてゆく。

蹴球はラグビーの密集体系と違ひ、分散体系をとる。依つて十一人各々の連絡とか攻撃守備方法が素人目には一寸解りにくい、併し説明を聞きながら数回試合を見れば、必ずやそこに連絡のあるのに驚く事であらう。如何なる瞬間に於ても攻撃であり且つ守備であり、その試合中に一秒たりとも余裕がない。これが近代的スポーツの一つの大きな條件と私は考へる。野球をけなすのではないが、私の方が打ちます



から、あなたの方はお守り下さい。さあ今度は私の方が守りますから、あなたの方は御打ち下さい。と云ふ様なのは少なからず趣を異にしてゐます。

慶應病院蹴球チームと云へば大抵御存知と思ひますが、未だ知らない地方に
あつしやる刀林の會員諸兄にお知らせ致します。

今春大日本蹴球協會主催の本に行はれた第三回実業團大會に初めて出場し、
やつと優勝してカップを貰ひました。出場チームは十数组我が病院チームは三
共製菓を三対〇、勸業銀行を八対〇、最後に日立製作を二対一（延長戦）てや
つと破つたのです。そのメンバーは

- | | | | |
|---|-------|-------------|---|
| } | L.W. | 加 | 地 |
| | L.I. | 吉 | 山 |
| | C.F. | 伊藤原
(加納) | |
| | R.I. | 大 | 塚 |
| | R.W. | 伊藤 | 国 |
| } | L.H. | 小 | 林 |
| | C.H. | 長 | 坂 |
| | R.H. | 福 | 島 |
| } | L.F. | 青 | 木 |
| | R.F. | 正 | 木 |
| | Gr.K. | 大 | 瀬 |

我が外科教室からはその中五名、病院チームの骨路を作つてゐます。来年度の
の実業團大會にも優勝せんと、今から張り切つてゐる。

一方学生の方は、本年四月目出度く三四會運動部の末席に慶應医学部蹴球部

として認められる様になり、會員も段々と増加しつゝある。

扱て我が外科教室に蹴球チームはないか、作らうと思へばすぐ出来る。本年の対青山外科の交歓競技に蹴球を入れようと提議したのですが、青山外科は蹴球チームがあるに拘らず「やめて呉れ」と申し出た。それだけでも外科蹴球の強さの一端がうかがはれるでせう。外科チームを假りに作つたとすれば大体次の様になるでせう。

}	L. W.	小島	山塚	藤原	}	L. H.	武藤	藤坂	}	L. F.	齋藤	}	G. K.	笹島	}	Sub	その他 の 全
	L. I.	古大	伊藤	藤原		C. H.	長岩	R. H.		岩	R. F.		渡				
	C. F.	伊藤	藤原	藤原		R. I.	伊藤	藤原		R. W.	伊藤		藤原				
	R. I.	伊藤	藤原	藤原		L. F.	齋藤	R. F.		渡	G. K.		笹島				
	R. W.	伊藤	藤原	藤原		Sub	その他 の 全										

別館脇のグラウンドは霜柱が立つ様になれば外の運動は出来なくなる。そこでウインタースポーツなるこの蹴球を皆様達と大いに *Enjoy* 致しませう。

おい、
日曜だ
つてのに

精勤だね！

怠け者の節句働って

ね、何？如何に休日でお天気

でも行く所がなけりや仕方ないつて？

何のく大有り名古屋だ、おい支度をしろよ、

野球の時の服装で、運動靴とシャツ、ズボン、襪んでい

いよ、どうせ綺麗なのなんかある訳がないがね。行き先？

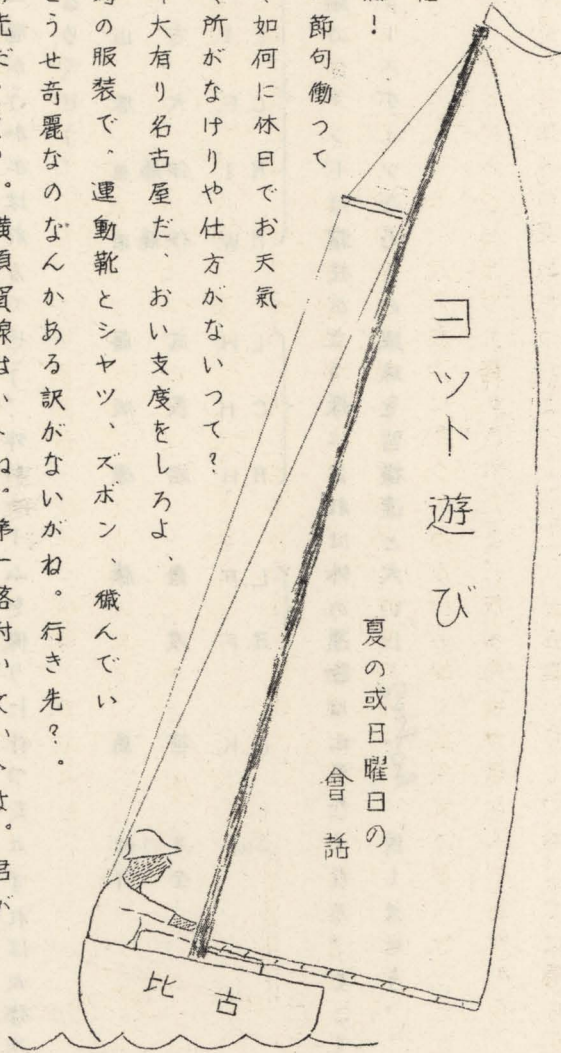
何処だの先だ……。横須賀線はい、ね、第一落付いていよ。君が

こんな時吾が意中の美人だと尚更素晴らしいんだがね。……おい起きろよ。

もう横濱だよ。サアお辨當を買はう。君は一つじや足るまいな。此方だく。

お詔向き本牧行きだ。……ほら此処が新しく出来た停留所だ。警友病院

前だよ。……さあ小湊橋だ、降りるんだ、ほら白い帆が沢山見えるだらう



？。絶好のヨット日和だ。何だ！ヨットと解って急に張り切つて来たじやないか。オット頭は左へ、右は夜来る所だよ、晝日中からホテルに氣を取られる奴があるかい。此れが僕等のクラブだよ。君は外來者だから五十銭出すんだ。此のサイン帳にサインしておいて呉れ。まあそう急ぐなよ、そこで一服して仕度を持つてくれ。万事OK、乗つても良いよ。

此の艇が一番小さいんだ。でも國際軍一型十二呎艇と云ふんだ。此の型の奴丈けの競走がオリンピックにもあるんだよ。

但し一人乗りだ。二人乗るのは便宜上だ。一人だとあんまり面白くないんでね、港の方へ行つて見よう。

あれが本牧の鼻だよ、ホラあの八角の塔が有名な八聖殿さ。

何？お腹が空いた？ヨシお辨當にしよう。日光、海風、波、食欲増進の源許りだね。TBのクランケを試みに乗せると屹度肥るよ。……此前

の日曜にもつと大きな、ほれ彼方に走つてゐる位の艇で横須賀の方へ行つたら釣船の群の中に這入つちまつて驚かされたよ。茂木先生の様な人がゐたから近づいて見たら他人の空似だったよ。……大分睡いらしいね、では帰らう。



醫局庭球リーグ奮戦劇

秀坊生

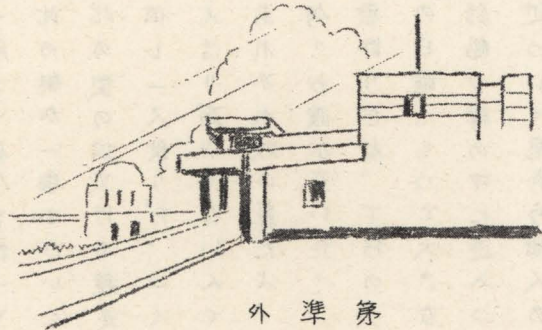
第一回戦 六月二日 対婦人科 快勝

準決勝戦 六月九日 対内科 惜敗

外科×ムバー左の如し

- (佐藤 若林 島田 萩尾 釜江)
- (古山 大塚 今井 中野 伊藤)

此の決勝を觀戦した近松は大いに感銘する所あり一夜にして本迷作をものし、昭和九年十二月乃林座に於て初めて上演せられた。



一本館屋上喫茶部屋の場

時、昭和九年六月八日正午

春の日麗かに屋上一面を照し、窓の硝子越しに外苑繪画館のドームが霞む。

中央大理石の食卓を囲んで文吾守以下九名の武士緊張した面持ちで床牀に腰を下して控へる。

島田氏「又ハ奴未だ登城致さぬか、不埒者奴が!! 若林氏、古山氏は横浜、下谷に武者修業中のこと、て詮もなし。不肖信勝奴を初めとし残りし同志ハ名打揃ふて御座ります。

橋本文吾守「御苦勞千万。さて過日の合戦に於ては敵は女郎相手の婦人科、何事かありんと油断なしたる為か思はざる苦戦に及べり。

愈々明日こそは仇敵内科を相手取り最後の一戦を試みるに當り、拙者兼て柔術合戦の経験に依り、これより其の秘策を授けん。

謀計は密なる可し、辺りに人氣は在るまいのう?」
壽郎左衛門、秀之進扉を排して周囲を見廻す。

「各々方近う〜」

エヘン先づ戦に臨んでは……」

下手より萩尾氏息糧切つて馳参す。

萩尾氏「又ハ、只今推参」

大塚氏「萩尾氏、定刻に遅れ而も密議中にも拘りず斯る狼狽、何事で御座る。」

萩尾氏「暫く、御待ち下さりませ。只今家中の穩密より情報到来、内科が

族散策に言寄せ、三々五々市中の某道場に出張り密かに練習致し居る由。

吾々としても………

中野氏「お控へ召され萩尾氏、内科が族兼ての振舞よりして斯る女々しき行動

やある、又當然。今更周章狼狽するは笑止千万なり。」

伊藤氏「兎角、晴の戦場に臨んで羞恥上氣、思はざる不覚を取るは新参者の常

壽郎左衛門に秀之進如何に腕の覚えかあるとても所詮は吾々古参の力に頼

る他あるまい。」

佐藤氏「否々、他技に於てはいざ知らず、庭球合戦に於ては其の心配御無用と

存じまする。」

其の時下手に女の声頻に聞ゆ、一同膝を立て柄に手を掛くる者さへある。

島田氏「怪しき女声!! 各々用心召され。」

外なる女郎達、何者なる。いざ名を名乗られい。」

外より女の声「大塚殿、に号にて御座りまするか痔核氏疼痛甚しくお苦しみに

御座りまする。」

他の女の声「佐藤殿、ほ号にて御座りまするが、診断書御下附相成り度う存じ

まする。」

文吾守「公儀詮方も無し。御両所遠處に及ばぬ、中座して宜しからうぞ。」

佐藤氏「公儀とは言へ此の座を去るは心残りが致してなりませぬ。」

島田氏「文吾守も言はるゝぞ。早う立つがよいわい。」

両氏「ハ、ハ、」

兩人下手に去りんとして去り難く頻りに振り返る、残れる者黙つて見送る。幕

二 庭球戦場の場

時 前場の翌日午后

白線も鮮かに掃き清められたる戦場は暗雲立て籠り宛ら凄惨の氣満つ。

御家の大事と敵味方の面々審判台を左右に控へて居る。

戦績ニ対ニ。殿を承る伊藤釜江組既に形勢不利。

振声罵々たる中を殿の御前に呼び寄せられたる兩人悲壯なる面持にて跪く。

町田医局頭いさよくののみ「此の合戦御家の興敗を堵しての一戦、さりとして相手は内科の古強

者、敗れて悔なし。夢々女々しき振舞に及ばぬが宜からうぞ。」

伊藤氏「本日の不覚所詮腕の相異。斯くなる上は戦場に腹掻き切つて……」

古山氏「御向所、血迷ひ召さるな。相手は名にし負ふ老おきな士し、最早疲勞に堪え

兼ね自滅せんこと必定。此の機に乗じて挽回せば勝敗は自ら味方のもの、

死を堵して戦はゞ必ず弓矢八幡の御庇護やあらん。いざ。」

両氏「然らば今生の別。各々方御免。」

両者再び戦に出場、振声更に置々たり。戦況不利に味方の面々次第く
に生氣を失ひ、一同只地上を凝視するのみ。

幕

三、長野屋二階慰勞會の場

時 前場の秋

遊茶色の疊、片足折れ掛けた食卓に窓は格子戸、仲々風流な一室。古色蒼然
たる床の間を背負ひて中央に吾等の殿様町田医局頭、左右に向志十名の他、百

溪野球守等廿数名の上^{かみ}下^{しも}姿の武士食卓を囲む。

慰勞の酒宴酣なり。

島田氏「今日の敗戦偏に同志不徳のなす所、面目次第も御座りませぬ」。

医局頭「頭を上げ。勝敗は時の運。寡勢の味方を引臭して天晴れなる闘ひ振り

警へ敗れたりとも苦しくないぞ。して味方敗戦の報、上様へ將軍藏之助公
の意)には……」

若林氏「畏れ多くも既に上聞に達したる由、承りまして御座ります」。

医局頭「本日觀戰中吾が残念至極に思ひしは敵方の應援振り、狗盜の徒ならば

いざ知らず、苟くも庭球道を辨へたる者の態度と思へば許し難し。嗚呼天
道地に落ちたるか」

古山氏「殿の御歎き尤も至極に存じ奉ります」。

百溪野球守「我等が野球眼より眺むれば過日の対婦人科合戰に於て優勝したる

さへ驚き居る次第、本日の合戰初手より味方の不利と見たるなり。

野球合戰の覇業を為す迄には吾等たりとも数々の苦き經驗を嘗め居るわい。

庭と野の違ひことあれ、球技に於ては同じこと、勝たんと欲せば先づ團結

ちや。而して來春を待たば宿望や必ず達せん。

島田氏「野球守殿の深慮尤も至極に存じまする。

然らば各々仰せに従ひ來春の復讐を期して今宵は一同乾杯致しては如何で御座る。

一同「御同感に御座りまする。」

一同乾杯、外はエリキ車の雑音去りし后に絃歌の響。幕

昭和九年スキー便り

田無珍生

大分にスキーに乘つて銀界を轉走する仲間が多くなつたから、今季節中の二ユースを御覽に入れ度いと思ふ。

関。温。泉。入員 布留、伊藤、田村

一月二日 夜十時五十五分上野発（信越線）

三日 朝八時関山駅着、徒歩にて関温泉に向ふ。十一時関温泉朝日屋着、痕尾と合流す。燕温泉往復、以後朝日屋を本據とす。

四日 ゲレンデ、燕温泉往復

五日 赤倉K〇山莊を訪ね、齋藤等と一緒に朝日屋に戻る。布留に來電、夜行にて帰國、

六日 神奈山第一三角点迄登行。伊藤國夜行にて帰國、齋藤赤倉に帰國、齋藤赤倉に帰る。

七日 ツボ岳に遊ぶ

八日 神奈山ハル井沢迄登行、ウバ堂に降る。

九日 ゲレンデ。燕温泉往復。関山駅に降る。帰京。

菅。平。人員 瀬尾、小平、齋藤、田村

一月二十日 夜十時五十五分上野発（信越線）

廿一日 朝五時上田駅着。電車にてサメダ迄。バスにて吉合迄。徒歩（此の間馬糞の便あり）にて菅平に至る。午後三時三十五分上田発にて帰京。

五。色。温。泉。人員 百溪、瀬尾、布留、井手、伊藤國、小平、齋藤、田村

一月廿七日 夜十一時十五分上野発（奥羽本線）

廿八日 朝七時五十三分板谷駅着、徒歩にて五色温泉宗川旅館、ゲレンデ

に至る。着六廻り。夕五時五十三分板谷駅発。七時福島途中下車。

飯坂温泉にて夕食、十一時三十六分福島発、帰京。

霧ヶ峰

人員 布留、井手、伊藤國、伊藤原、長坂、田村

二月十日 夜十一時五十五分新宿発（中央線）

十一日 朝七時上諏訪着、自動車にて科木まで、徒歩にて池のくるみへゲ

レンデ）に至る。東山に登行。五時二分上諏訪発にて帰京。

霧ヶ峰

人員 布留、田村

二月十七日 夜新宿発

十八日 東山登行、帰京

赤城

人員、瀬尾、齋

二月廿四日及廿五日

霧ヶ峰

人員 瀬尾、布留、齋藤、田村

三月三日 夜新宿発

四日 耳山登行、帰京。

柵森 人員 齋藤、田村

三月十日 夜十一時十五分上野発（奥羽本線）

十一日 朝八時時駅着、直に柵森登行、降に百谷平にて遊ぶ。時駅桑三時頃の臨時列車にて帰京。

關温泉スキー日記

S

O

S

一月三日 雪

昨日久し振りで荷を背負いて関山駅から約二里強の雪原をのこく上つたので、日頃上品な生活をしてゐる者は体が痛む。やっと起床直ちにスキーをばいて東京からの田村、布留、伊藤四の三君を迎ふべく下山す。

一軒茶屋の附近にて、汽車の寝不足と正月酒の香の残れる三君に合す。直ちに温泉へ共に上る。午後は蒸温泉まで行つてウオーミングアップ、中々皆さん滑べることは忘れぬと見えて去年今年の技は見おとりもしなければ又進歩もなし早く練習をやめて関温泉朝日屋に上りてトレーニングビヤードとして、わざく

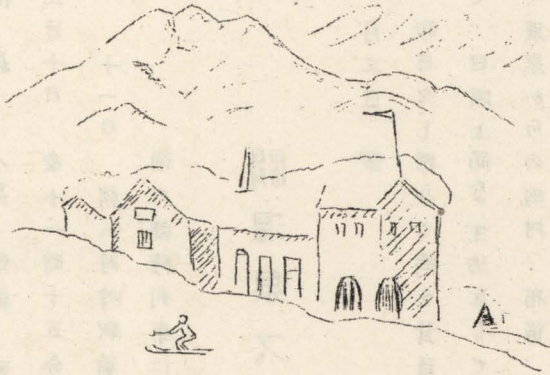
東京から持ち上げておいた「独乙ホルステン」は一寸豪遊なものだ。

一月四日 雪

よく降る午前中は練習場ならしの労作をなすも降り積る雪に効なし、午後は再び熱温泉へ登って帰への七曲道を享楽して滑べる、降雪止まぬのでお客はくさつて帰る、宿屋はもうからぬが、うるさくなくて助かる。しかし明日は晴れるよ。

一月五日 快晴

小唄の文句じやないが雪の朝あしたの朝ぼらけだ、キラキラと太陽は輝く、さて赤倉を訪ねんと一行勇んで出発、途中ロケーションを行ったりして三四會赤倉荘に到着、午食。帰りに「関は面白いぞ」とそ、のかせば、たちまち齋藤以下数人がくつついてきた。縄約みたいなものだ。夕方五時一行賑やかに関温泉に帰る。例の如く夕食のあとには炬燵にあつたまつて冷えたビール中々うまい。布留君に急電あり、氏は



直ちに帰國。

一月六日 雪間もなく晴

今日は大勢にて神奈山に大口ケーションを決行すべく行列を作つて出発す。第一三角点より直下一氣に関温泉に下る滑降約一千米に各々追いつ追はれつものシーンを展開して撮影を終了したのが午后二時半、一休みして四時伊藤藤齋藤面君予定の日数のため、サヨナラ / の声に送られて関山取めざして走り去つた。残るは田村、瀬尾他に三田のOB一人と云つた

悪太郎連なり。

一月七日 晴

今日も晴れ、日頃の心がけよきものは此くの如し関温泉を少し下つて坪岳に行く北斜面はまた完全なる粉雪、三人でこれを目茶苦茶にかき乱し舞立て、完全に一日を亨楽す。

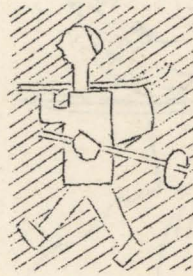
一月八日 曇

今日は再び神奈山に登る。途中で途中で三人とも

だれて、春井澤と称するところで遊んで早く宿に上りこんで温泉につかつて休養とした。

一月九日 雪

午前中一寸蒸温泉に登った。午後は汽車で高田に下り、夜ともなれば雪深き町にチャクンとオケサを踊って三人更けるを知らず。終り



赤城山スキー行

修

二

吾々の「医局サンデースキー隊」の赤城山行きの話。

一行は六人連れ、瀬尾、齋藤に、オトの林君、それに会社員一人、医学生二人です。医局に入ってもまだ何とか暇を見つけてスキーがやりたい一心で、よくサンデースキーを計画します。何度も行く中には、要領もよくなり、仲々能率よく遊ぶやうになつて來ます。此の赤城山行きは、お天氣運に恵まれ、計画亦よろしく、大いに楽しめました。先づ人数がよかつた。恰度自動車一台分で

合客を待つ時間がありませんでしたし、その好都合な自動車の後には、明月が待つて居て、雪の夜道をそれこそ晝よりも明る照し、本當にスキーには來るものだなあと、思はして呉れました。素晴らしい夜道の終点の宿屋では、汽車では出來ない休息が得られ、次の日の能率を、ぐんと高めました。翌朝は六時ともなれば、自然に目が覚めます。寝坊すれば、するだけ時間の損といふことがひどくはつきりわかるからです。

スキーになれば、浅間しくも一生懸命、之は平素一般の心懸けにもしたくないのです。さてそれから天賦のよい日曜半日以上を十分滑り廻り、精々凝った工夫の辨當等を食べたりします。苦しい思ひをして捲ぎ廻った三キロ六百のカメラが動き出すと、名優連が活躍し出します。之が妙に固くなつて、つまらない所で轉びます。カメラマン歎いて曰く、「色氣を出すうちは駄目だせ」名優連も「さうだなあ」とて之を否定出來ません。何しろ東京へ帰ると、あり／＼と映し出されるのですから。さうかうして居る中に、サンデースキーヤーの悲しさは、疲れが早く來て、二時、三時ともなれば、へばり、歸路に就きました。外輪山を外へ降る路は、亦面白い極み。こんなうまい御馳走があつたとは、赤城

様々です。一同そこで氣持よく、東京行き of 汽車に、乗り込んだものです。夕食は高崎の例の鳥飯。あれはうまい。その中疲れがあるものですから、空席に身を横へると、何時しかとろく／＼して来ましたが、汽車が大宮へかゝる頃、一行中の学生D公、妙な奴にかゝりあつて、口汚く罵られて居ます。やに強がつた奴で、スキーなどで遊んで居る奴が、席を二人分とるとは何事だ、と云つて居るらしいのですが、此方に見れば、知らない中に客が立て込んで居るので、D公亦謝つて居るので、傍觀して居ましたが、余りひどくなり、あはやといふ位にもなつたので、たまりかねた瀬尾ちん、やをら立ち上ると、二つ三つ先きのいさこぎの帯へ、声を掛けましたが、驚いたのは相手の奴、續いて立ち上つた林さん、其の他、きよろ／＼したのが、一緒だと見ると、急に態度一変「スキーはい、です、どちらで」等といふに至り、D公の方がどきまきしちまひました。さるにても、白衣を脱いだお医者様の面々は、一体何に見えたのでせう。「やくざ」の本場赤城山へのスキー行の宿題です。

医局の

野球



春

古
山
記

と腕を撫して旧人は其の目を待った。これより先き新人チームは婦人科新人を三対〇に破り去り、意氣高きものがあつた。

五月九日 新人対旧人試合 五対五

新人		旧人	
6	内藤	5	伊藤
7	佐藤	2	齋藤
3	葛原	1	百古
1	小島	6	古中
2	竹内	3	中藤
8	山田	7	藤原
9	今井	9	萩尾
5	菅	4	横山
4	渡	8	小島

鍋島、武藤、高橋三君審判のもとに、快晴の春を楽しみつつ試合は続けられ、百溪旧人第一投手大奮戦して四安打に若僧を鴨つたが、逆に三振十三を小島君に得られ結局同点に終つたのはお互に同慶の至りではあつた。

尚町田、横山、藤原三君の往時を偲はしめる好守好打が見る者をして驚嘆せしめた事は附記する要が多分にある。

五月二十五日 対帝大小石川分院 八対一 勝

木村教授始球式を以て開始、問題なく大勝する。

六月二十四日 对内務省精勤隊 十四対〇 勝

夏——

例年へホ野球の騒がしい時期である。然もこれこそ医局野球の弊とも云ふべきもので、老若入り乱れての乱戦混戦は最もスリルな試合で手に汗を握らせる幾場面を展開し、やがて来るべき秋のシーズンの為のグルンドとなるものである。特に本年度は暑林人無きをねらひ町田助教の率ひる下谷軍屢々遠征して本院を悩ましたものである。下谷軍のみにては、チームを組織出来ぬ故ニ三の選手は本院より借りるの止むなき状態ではあつたが、そのチームワーク良く

連戦連勝してしまった。敗れた別館チームは借してやった選手が良い為と、下谷は揃って口が悪い為めに後がこわいから負けてやったのだと云ふ。これは知る人ぞ知る。何は兎もあれ斯の如き試合こそ三伏の酷暑を征服する清凉劑ではあつた。

七月十四日

八対四 下谷勝

下谷
 橋村 藤山 山口 平田 島手
 門田 齋藤 古山 小町 笹井

別館
 江塚(大) 藤島 溪野 原尾(山) 山削 藤
 釜(大) 伊小 百中 藤(頼) 横弓 武

七月二十七日

対別館

十二対七

下谷勝

八月二十一日

十対〇

下谷勝

下谷
 山口 橋藤 山田 平手 島尾
 山門 齋藤 古町 小井 笹

別館

4	長	坂
5	若	林
2	竹	内
1	伊	藤
7	橋	本
8	佐	藤
	(百)	村
9	武	内
3	田	
6	大	

各試合とも常に五番或は六番を打ち遊撃の難関を死守せる主將野田君の健闘及び招ぜられて下谷軍に投じて八番を打ち右翼を守る笹島君、ラストの井手君及び田村の熱演あつてこそ別館に勝ちたる最大原因であらう。然し別館に於ても藤原君、横山君、瀬尾君、武藤君等が若い連中に混つて老巧振りを發揮してくれたのは嬉しい極みであつた。

秋

待望の秋、空高くハイキングの好機を持ちながら、再優勝の希望に燃えたつ医局ナインは猛練習に余念なく（といつても合計二度位練習をしたかしら）医局員全員の後援又物凄く、対青山外科及リーグ戦を待った。

八月二十八日 対予防医学試合 十四対〇 勝

練習を实地に應用する意味で小手調べの一戦、百溪投手大活躍の結果、大勝する。

溪坂塚中藤山原尾藤国

1 百長大島齋古葛萩伊
4 6 7 2 3 8 9 5

九月三十日 对青山外科 四对二 勝

九月二十日 对神經科 医局リーグ第一回戰 十四对〇 勝

坂藤中島塚野崎原泉藤国

6 長齋島小大中久(葛)小(凌)伊
8 2 4 1 3 9 7 5

愈待望の医局リーグ開始。小島君肩を痛めたる為昨年のヒーロー大塚君マウ
ンドに立ち、変りぬ剛球に完投し、我軍は安打九、四死球九を得て大勝する。
植松教授ラストにピッチヒッターとして立ちたるも既に遠く恨を吞む。

十月二十五日 对薬物医化学 医局リーグ戦準決勝 八对〇 勝

坂藤中島塚山泉野尾藤国

4 長齋島小大中久(葛)小(凌)伊
8 2 1 6 3 9 7 5

小島君の肩、古山君の療痕共に全く快復し、青森赴任を数日の後にひかへた

萩尾君の出場等あり、全然ワンサイドに敵を撃破する。敵の投手「台湾」は然し仲々の奮闘振りであつたが、惜しいかな捕手にその人を得ず敗退せるは、敵ながら惜しき極みてあつた。



台湾渡来の
敵軍投手大奮闘
スルモ及パス

十一月十二日 対婦人科 医局リーグ戦決勝戦 六対一 勝

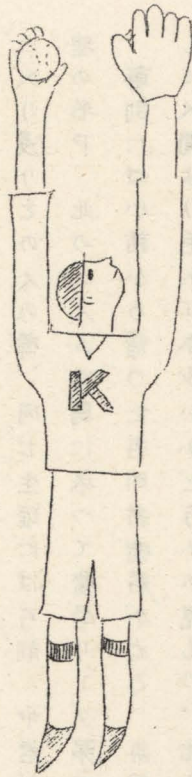
坂	塚	山	島	中	藤	野	溪	藤
長	大	古	小	島	齋	中	百	伊
4	6	3	1	2	8	7	9	5

快晴なるも風寒く野球日和とは云ひ得なかつたが、流石Aクラスの決勝戦とて両方の應援及観衆極めて多く、茂水部長以下全医局員の声援は選手にとつて実に有い極みで、全員ベストメンバーを以つて張り切つて対戦した。

例によつて先攻をとつた我軍は第一回目早くも四球を利して一点を取り、第三回目には長坂大塚の連安打に二点を奪ひ以後合計六点を得たるに反し、婦人科は小島、畠中のバツテリー及びこれを助ける全軍の好守に阻まれ辛くも一点を得て零敗を免れたのである。

斯くしてシーズンを通じて全員揃つての健闘は當然優勝カツプを把持する光栄を持つものである。

去年も勝ち、本年も勝つた。そして来年もの意氣で我等一同大いに張り切つて、こゝに医局の野球も開幕となつたのである。



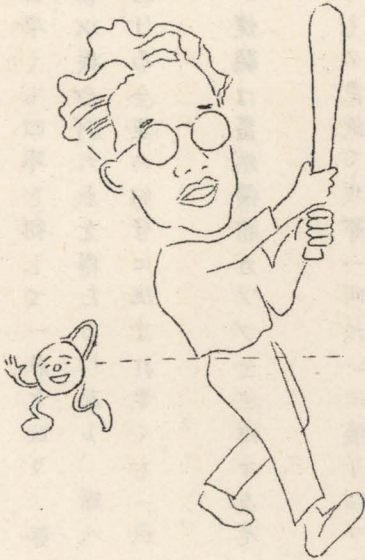
外科野球の延長

H S M T

名前を並べるのが目的ではなく、醫局の野球の程度を語るのが主眼である。同窓會員で現在グルンドで研究してゐられる人を一わたり見廻はすと、生理に三羽鳥の一人として名声あまりにも高い古川明君がゐられる。赤羽濟生會の任

期を終つて四月から來られ只今では生理野球の名中堅手として無くてならぬ人
 子も「もうそろ／＼お嫁さんを貰ふと良いんだけれど」とお妹さんが心配してゐた
 甲斐があつて去る十一月廿六日御結婚、許婚の間は毎日の様にファイアンセの処
 に入り浸りとの人の噂、同じ生理には弓削 中君が此の間九州から歸つて、生
 理の名P、此の二人の健闘に依つて警弓リーグ第二流組にて優勝。

解剖には小諸から歸つた吉岡勝衛君がゐる。毎日猿の毛を数へてゐるが、果
 して人間より毛が三本少いかどうかが見もの。此人も野球では解剖を双肩に擔
 つて大いに奮闘三振してゐる。飯めは信州小諸師、左右両腕ぎゝの達者もの、
 菓物を覗くと布留文夫君がゐる。最近與
 さんを貰つてからは昔の様に醫局に顔
 を出しません、多分右左とも忙しんで
 しま。此の人は一二年前の外科のP、此
 の間も外科との試合で途中で君が菓物の
 Pとして立つてからは外科に得点を許さ
 なかつた程ですが、併し打撃に立つた時



は大抵三振。口の悪いのが、君の三振した瞬間「も少し當るまで打つて良いよ」とはヒドイ。ちよ

ちよいと離れた寄生虫教室を見ると、通称「ネコ」こと堀田善二郎君及びこの間まで青森の増田病院に居た小方則太郎君が居る。前者は左腕達者ですが、時にはウブ？なのも良いと見えてテニスコートでは同教室の女性研究生を向ふに廻して仲の良い処をよく見かけます。君も野球ではPかSSで之れ亦大したもの、一寸見ると女に好かれやうにもないが、あれで仲々優しい処があるんでしょ。小方君は任地での名声は大したもの。一寸見ると昔通り体は小さいし名醫らしくもないが、声の大きいのが自慢。一体青森地方の人は雪に閉ぢ込められて気が弱いから君の大声にヒツクリして患者が集つたんでせう。君も外科なら無難だが、よそに行けば矢張り少くともRFは務めねばなるまい。

斯うしてグルントに研究してゐる同窓會員を利用して、コントラストとして引き出して見ると、何れも各教室では冗談退けて野球の重鎮ですが、此が外科に來ると大体二流を通過して第三選手位にしか使つて貰えないのを見ると、近頃の醫局の外科チームが、如何に強いかがお解りになるでせう。今日あるを得

しめて下さった昔の選手諸兄、此の点決して後顧の憂はありませぬ。誠に大昔
外科チームが優勝してゐた頃の顔振を拾つて見る。

柳 村 田 間 村 内 松 川 養

木 西 草 中 山 成 江 犬

P C SS I II III L C.F. R

之れを見ると皆偉くなつてゐられるし、年もとつてゐられるので、あれで優勝
出来るとは、他料が余程弱かつたんだろと思はれるが、さに非ずして昔の猛將
連の意氣當るべからず、曰く「僕等がやつてゐた頃は外野でフライでも捕ふも
のなり敵も味方も拍手喝采したものだ」とは成る程。



醫局對抗A級リレー

十一月十四日

伊 藤 記

出場チーム 外科、内科、婦人科、東校舎

各チームの第一走者は闘志満々としてスタートに就く、外科チームの縮帯鉢
巻が一段と栄える。競馬スタートの様だ。はやる心を抑へ兼ねてフラインク重

ねる事三回、四回目にスタートは切られた。約五十米迄外科内科並んで進んだが、内科の駿足に抑へられて伊藤約三米をリードされてバトンは大内に渡る。大内そのまゝ之を續げ次の畠中とのバトンタッチにて稍遅れ差約十米となる。畠中力走してバトンを渡に送るや追走又追走グン／＼と差を縮めて又次の小島とのバトンタッチ宜しく忽ち逆に約二米内科をリードする。もう占めたものだ。婦人科東校舎は既に遙かに遅れてゐる。應援の声が喧しい。次の藤原又差を四米と離し、大塚、古山、長坂と後から後から續く駿足は七米十五米ととん／＼差を大きくし、内科は遠く霞んでしまつてバトンはラストの百溪に渡り湧返る。應援の嵐の中を悠々と走つてテープを切る。内科との差実に四十米。外科万歳。三年連勝の榮譽はカツプと共に外科チームの頭上に燦として輝いた。

尚運動會後、野球優勝カツプの授与もあり、之を囲みながら祝杯を挙げ茂水先生よりの御馳走のお寿司に舌鼓を打ちながら暫くは醫局に歡喜の爆笑が續いた。

メンバー。

伊藤 國

大内

畠中

渡

小島

藤原

大塚

古山

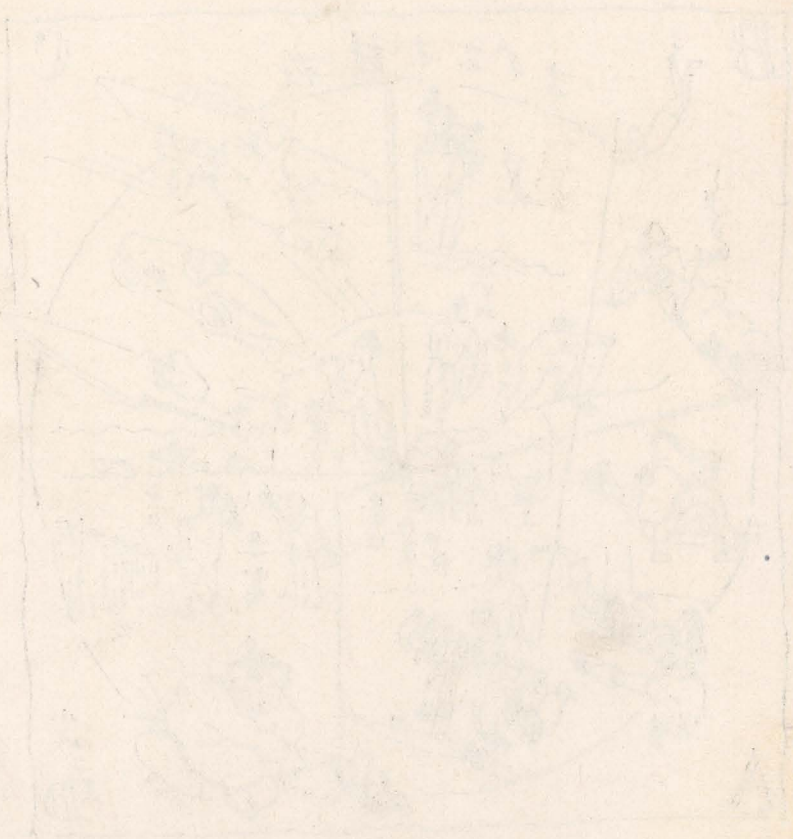
長坂

百溪

救護一束

三〇〇

外科醫局から出掛ける救護は其の名に恥ぢず凡そ十四五種目にも上ります。新しい処では學生飛行、船外汽艇など何れも、半日の日光浴、一日のハイキング、二三日の小旅行と云つた軽い氣持ちで出掛けるには最も都合が良い。外苑の競技場、野球、國技館等には救護班長茂木先生自ら馬を陣頭に進められる事も多い。次の繪を御覽下さい。皆で幾つありますか、當つた方には刀林を一冊づゝ御送り致します。



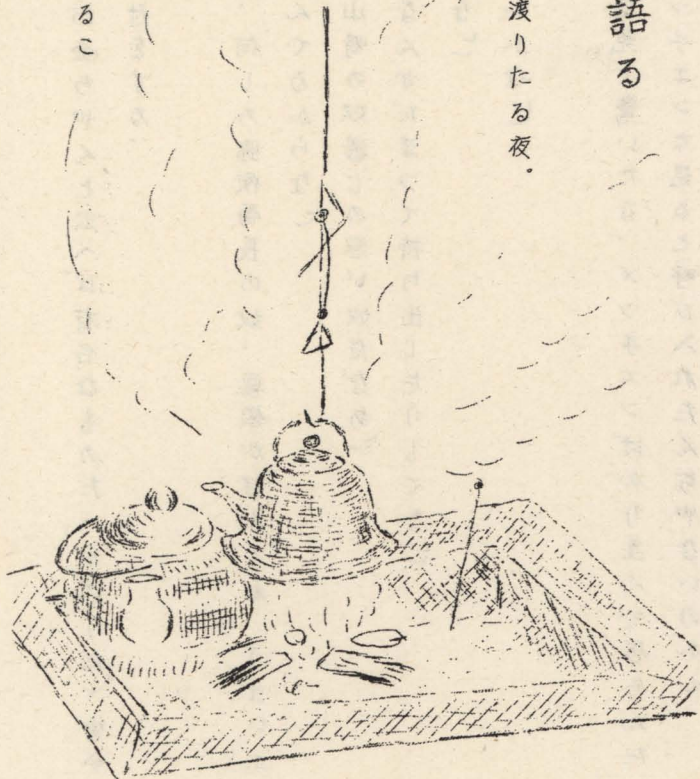
富士救護を語る

時はこれ十月の或る晴れ渡りたる夜。

九年度富士救護に馳せ参
 じたる面々、四谷見付外
 なるとある料亭に會し、
 座談會を開く。酒の廻る
 につれ饒舌、怪舌始まり
 一夜を語り飲み且つ食ひ
 あかした。以下秃筆を馳
 つて會の模様をお知らせするこ
 ととする。

x x x x

「お金ちやんでどんな女だか、誰か知ってるか」



I 「去年登ったとき見たよ」

(「どんな女だい」) 皆Iの顔を見つめる。Iにやにやしなから、

I 「四顔だよ」

(兎に角富士では和光のお金ちやんと云へば有名なものだったさうだ) 皆今更なかり残念さうな顔付をする。

U 「飲んだ奴居るか」

「八合目で飲まされたよ、何しろ郵便局長の奴、要領が好くてね、うまい工合に俺達を利用して飲んでるからな」

「八合目と云へば番頭の山崎の奴感じの悪い奴だなあ」

「うん、そうた、ミツテルなんかだまつて持ち出したりしてな」

「患者はどの位あつたかな」

「そうだ二百人位じゃないかな」

「語の時一番多かつた」

「Yの時だらう。救護日誌見て驚いたな、メツ子エンばかり並んで居るんだもの、救護所の前でメツ子エンと見ると呼び入れたんぢやないのか」

Y 「何しろ俺の時は大部多かつたらしいね、下山の前二三日はとても忙しかつたよ、或る晩などは八合小屋が一杯なので、救護所にも拾何人か收容し夜中に三四回も起されたよ、メツチエンも随分診たが高山病の患者等には何等の美も感じられないね、だけど若つて翌日御礼に來られた時はうれしいやうな誇らしいやうな妙な氣がしたね。」

Ka 「俺は下谷の女學生で、マーゲンクランプのひどい奴にぶつかつたよ、にやくしなから、何しろ富士山の艶聞じや俺が一番だよ。」

Ku 「手紙まで來たのは俺だけだろ、寫眞まで來たよ。何しろ五合目から八合目まで助けながら昇り救護所で夕飯を食はせ何と十一時頃まで喋つて寄せ書までしたんだからね。」

「泊めたのか。」 「いや判事の娘だ、泊めるものか。」

「寄せ書に何んと書いた。」 「救護日誌を見て呉れ。」

U 「池谷先生はい、人だね。」 「ほんとにそうだ。実に有難く思つて居る。」

Ku 「頂上のサツカリンは非度いぞ、サツカリン入りだよ。」

「ほんとか。」 「サツカリン入れたらと云つたら、入れませんと云ふから、嘘

つけ、サツカリンぢやなければこんな味するものか、素人なら欺ませるか
も知れないが、俺は八合目の医者だぞ今後改めないなら衛生課へ報告して
営業停止を喰はずぞ、と言つたらおやぢの奴真蒼になつて謝まつたつけ

Q、「下、K。は黙つて居るが、良い事があるんだろ、家へ手紙が来るんぢやな
いか」

Ko「や、俺の時はもう未だし、雨が降つたりして何も無いよ」

此時Kaニヤ／＼して居たが、自稱富士山第一の艶聞なるものを開陳に及ぶ
Ka「小御嶽へ行つた時だよ。三人のメツチエン？と一緒になり、俺が休むと向
ふも休みと言ふエ合でね、之は有難いと思つて道連れになり登つた。所が
煙草を喫はうと思つて燐寸を探してたら、燐寸を呉れたよ。レツテルに曰
く、カフエー〇〇とね」皆々呵々大笑。

Ta「俺が八合目に居る時だよ、五合目の内科の下から、今女高師のメツチエン
が五十人、其他百人余り登つたから、屹度、今晚あたり忙しいだらうと云
ふ電話が掛かつたので、忙しくなると頂上へも行けないからと思ひ、頂上
して救護所にてぐすね引いて待つて居たね。するとドカドカと慌しい足音、

しめたと思ひ、イトも嚴肅な顔をした。途端、「おちさん電報」と来たね。俺はガツカリしたよ。だけど翌朝来たよ。H、K、頭痛でね。恥しくて胸は診られなかつた。御禮の手紙でも来るかと思つたら来なかつたよ。

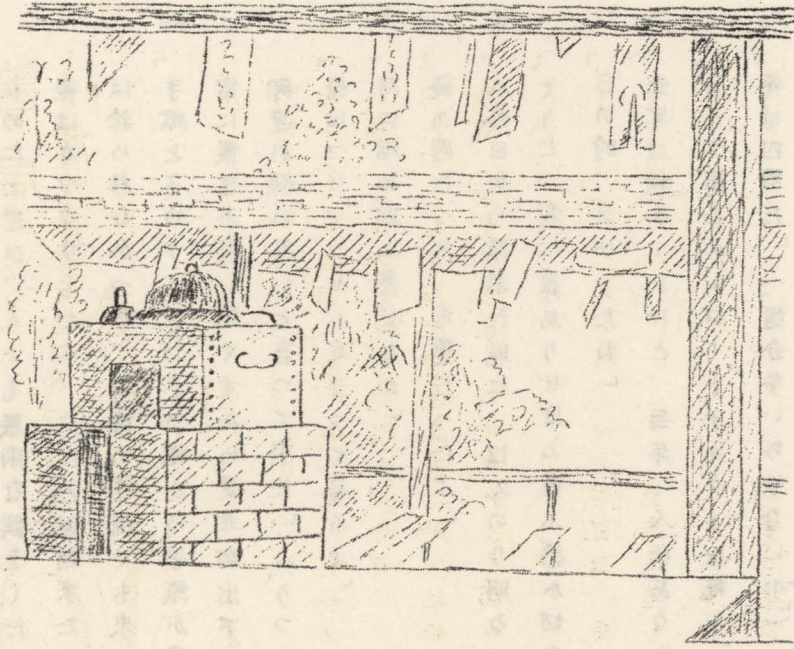
Ku 「手紙と言やア、さっきの娘から手紙が来てナ、甲府の傍に昇仙峽あり、非常に景色の良い所ですから是非御出下され度く、娘も未だ行つてないから御連れ願ひ度いと言つて来た。」（「うっかり行くと、くつつけられるぞ」）
「俺はフィアンセが定まつて居るよ」

I 「河口湖の湖上祭見たか」
U 「俺の時だつた、奇麗だつたよ」

Ka 「八合目から晴れた晩に、ほんのり明るい東京の空を見るのは良いものだね」
（「そうだ、我に翼ありせばと言ふ感が切なるものがあるね」）

U 「Sの時、ステツたね」
S 「去年は無かつたけど、毎年一人位あるらしいね」

（「オニク風呂のレコードホルダーは誰だ」）（「俺は二回だ」）（「俺も二回だ」）
Ko 「俺は四回だ」（「随分多いぢやないか」）「いや、雨が餘計降つたからだろ」



U 「お庭へ行って見たよ」

Ka 「俺も行ったよ、其の歸へりだ

よ、さっきの女の話は」

U 「俺はオマワリと一緒にだったか

ら、駄目だった」

O 「遠いだらう」

Ka 「千里も遠しとせずだよ」

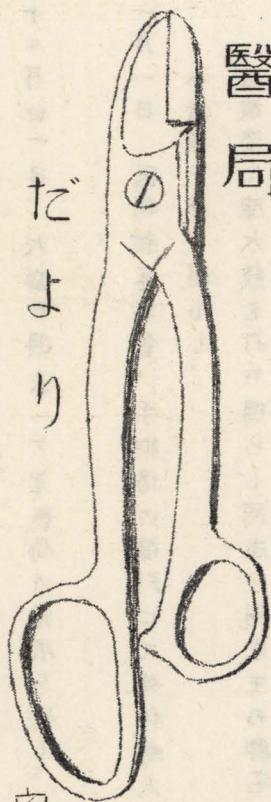
(「菅千里だからナア」)

呵々大笑。

かくて、雑談、Y談に時の移る
のも忘れ、街のざわめき鎮る頃
宴を閉ぢた。

醫局

だより



十二月一日 大岡君入營、「祝入營」外科の幟や丁字帯

板橋、小平両君下谷病院交代勤務。

十二月七日 泌尿器學會集談會に於て藤原、島田両君

講演。教室の研究、科の何たるを問はず、目出

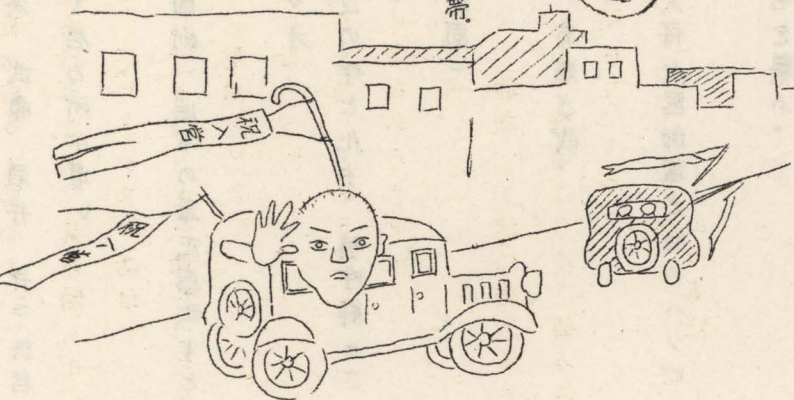
たし。

十二月九日 受持交代。

患者に惜しまるゝ氣

持、只奉行も亦嬉し

中野君裂肛手術。



三〇

十二月十四日 當科當番外科集談會（醫師會館）。百溪、武藤、酒井、井手諸君講演。滿場肅々として声なし、而して悉く覚えて居る所が凄い。

神山講師令息逝去。

十二月十八日 茂木先謝恩觀劇會（演舞場に於て新國劇）地下の澤正感泣すと
かや。

十二月廿一日 皇太子殿下御誕生。万才、万才、万々才、
小野田君寄贈の夫婦山鳥忽ち鍋蓋の下、左加美豆の伴と化す。嗚呼解せざる哉夫婦の情、獨身會長の指令に依るとも聞く。

十二月廿三日 村上、小方両君上京有志歡迎會（雅敘園）

十二月廿五日 医局年賀狀發送、暮氣分愈々洋溢。

十二月卅一日 大晦日過去一ヶ年医局の發展を憶ふ。有難き哉。

一月一日 医局新年宴會。手術場の福引にて外科總大將大醫師藏之助のハツピ
（法被）姿、頼もし。

法被姿に陣太鼓を打ち鳴らし同志一同先生の御宅を襲ふ。

一月五日 新年宴會、思ひくゝに姿を消す。

一月八日 整形室塚歌劇見物。

別館屋上廂をあげる外科の先生あり、廂の
出所に就き不審を抱かれる方は藤原君にて
も聞いたら如何。

一月十日 木村(勉)君入營の為金澤に出発。

一月十二日 國技館角力救護開始。

神山(地)君来訪

一月十三日 茂水先生御招待新年宴會(幸衆)
医局總出の隠し藝に女中共取あへず器具を
片附ける。

一月十四日 中野君入營の為め大阪に出発。

一月廿日 木村中野両君より「ソクジツキゴ
ウ」誰だ目出度し等と申すは、非常時、

非常時。



一月廿二日 明樂君濟生會外科へ、古川君生理學教室へ勤務。

大曾根、岩原両君論文通過。

成松君に記念品送。

岩原講師論文通過有志祝賀會（幸樂）

一月廿三日 山口君痔核手術。頸と痔核との因果關係を究めんものと見物多勢

とは不知當人口ートワインを鱈腹飲んでい、氣持。

一月廿七日 医局天狗スキーヤー五色に總出勤。御用心轉ぶと鼻が折れます。

一月廿日 土方、照井両君講師昇格有志祝賀會（幸樂）

抄讀會

二月一日 戸田君（小田原）來訪。宮尾君下谷病院交代勤務。

二月三日 鎌田榮吉先生入院手術。部長當直。

二月五日 鎌田先生永眠

「樞密顧問官元文相鎌田榮吉氏は胃を害し入院中の南胃腸病院から三日慶應病院に移り、外科茂木博士、内科西野博士立會の上化膿性耳下腺炎の手術を受けたが、手術後の経過思はしからず、五日午後十時半危篤に陥り、

同十一時遂に永眠せり。(朝日新聞寫)

茂木先生與様と御嬢様感冒にて入院。

二月十日 本年度最後の受持交代。

柴沼君水戸より來訪。

二月十三日 相見君結婚。

夜に至り妊婦の特診二人あり、相見君も早そうに思はれる。

二月廿日 抄讀會

岩原講師論文通過祝賀、土方、照井兩君講師昇格、森山、明樂諸君送別、豊田君歓迎の宴を職員食堂に行ふ。

二月廿三日 皇太子殿下誕生奉祝日。思ひ／＼に祝賀宴を張れることも皇太子

殿下の御偉徳

二月廿五日 小樽病院山本君より來信。文面次の如し

「當院井上太郎氏去る廿一日住吉神社に於て植田千鶴子嬢と結婚仕り、廿

三日夜東京、関西方面に旅行に赴き候間當地通過の節は宜敷御歡待願度

候

二月廿九日 相見君滿洲に出発

三月二日 小平君アンギーナに入院

三月五日 大塚君ソツカ―にて足を挫き入院呻吟す。

三月六日 佐藤(憲)君(十一回生)入局

三月七日 山口君下谷病院交代勤務。

い号病棟に午前一時五十六分ニ患者同時に死亡。珍らしき哉。

三月十日 武藤山治氏大庭病院に於て逝去。

三月十一日 田中(胤)君(瀨尾病院勤務中)上諸赴任。上野発。

三月十二日 山田(進)君 解剖より入局

三月十三日 抄讀會

信濃町駅に女學生飛込自殺あり來院。万客万來。

三月廿八日 梅村君歸局。

三月廿九日 須名、田中、寺田諸君來訪。

吉野君結婚「メデタサヤヨシノサクラノハナザカリ」(祝電)

四月一日 第九回日本醫學總會開會さる。

前田先生、岩原講師、島田、小野田、若林、野崎、龍野諸君講演、教室の
ために万雷の氣をはく。

町田助教授私宅電話開通。呼出に非ず特に御注意。

四月四日 外科整形外科同窓會總會（幸樂）

四月十日 十二回卒業生十名入局。姚瑟若君見學生として入局。
四月十一日 本年度最初の受持交代。

警官、少年劍戟狂に刺れて入院。時正にチヤンバラ
委しくは新聞記事参照。

四月十四日 新入局者歓迎鬼怒川温泉旅行。

車中既に斗酒を平げ、夜の宴會に臨んでは更に倦む所を知らず。藝妓數十
名鬼怒川音頭も樂し。筆者酩酊以後不明。

四月十五日 同旅行、川治温泉にて晝食。目出度く全員無事帰局。

四月廿二日 田村君結婚「イクトセカマチコガレタルケフノハル」(祝電)

四月廿三日 小泉君整形入局。

四月廿四日 抄讀會。本年度医局諸係決定。

四月廿七日 早慶野球戦。祝勝、医局ビール林立。

五月二日 瀬尾、大塚両君結婚。弥栄の妹瀬尾契留美代乃春へ瀬尾君

祝電)
めでたさや智恵たのもしく末必し
(大塚君へ祝電)

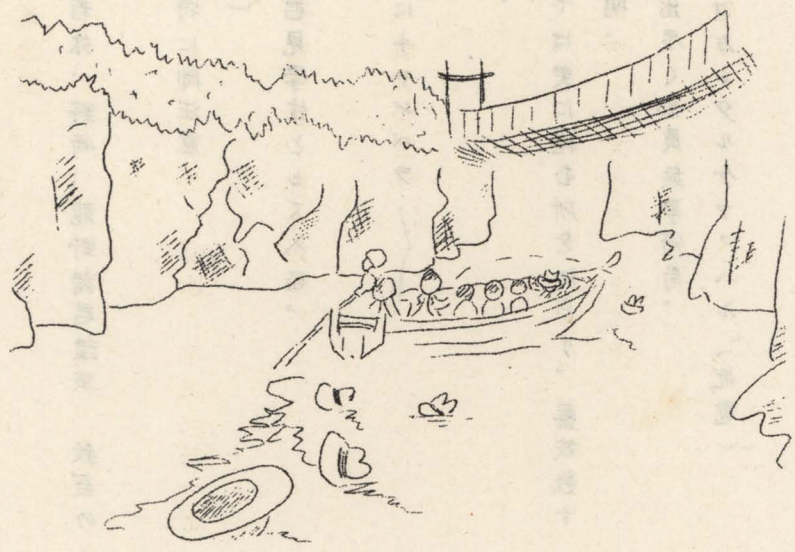
古山君除隊帰局。

五月四日 前田先生令息告别式

五月七日 岩原講師助教昇格有志祝賀會(於大木戸自慢)

古山君下谷病院交代勤務。

五月十一日 岩原講師昇格祝賀、古山、



中村(寛) 板橋、小泉諸君欽送迎會(職員食堂)

五月十四日 板橋君清水赴任、東京駅出発。

五月十五日 島田君長男出産。

四谷某花師匠痴話喧嘩の末若き燕に斬られ別館入院、師匠の年正に五十才
医局の御老体連仲々先は永いつて。

五月十六日 医局内地主(既婚)対小作(獨身)野球戦。勢力伯仲。

五月十八日 門橋君除隊帰着

五月十九日 門橋君歡迎、水村(短)君送別會(職員食堂)

水村君金澤へ上野驛出発。

五月廿四日 弓削君來訪。

五月廿五日 外科集談會。土方講師講演。

対大塚帝大分院野球戦、水村先生始球バウンド入りストライキ。

五月廿八日 神山講師尊父忌明

五月卅日 東郷元師薨去、医局内憂色に包る。

六月二日 中村(送)君送別會(職員食堂) 二次會新喜樂。

医局野球リーグ対婦人科戦、快勝。

六月五日 東郷元師國葬の日。全医局

ラヂオを通じて謹んで哀悼の意を表す。

六月七日 開局記念祝賀會

布留君結婚、フルチンガアタニ

カワルシンジヨタイ(祝電)

六月八日 中村(送)君大阪に出発。

前田先生令息忌明。

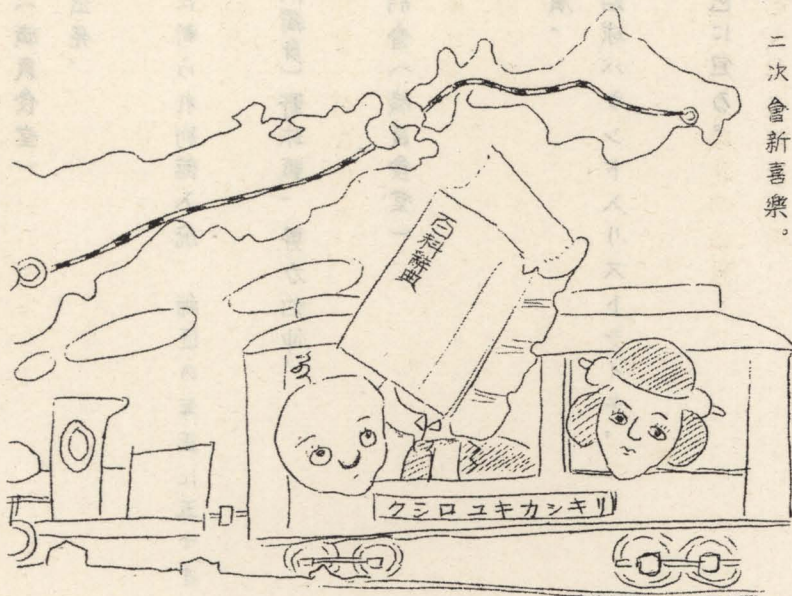
六月九日 医局庭球リーグ内科戦対

惜敗。

六月十一日 本日より當直室修理、宿

借りの當直子文け起されず。

六月廿二日 外科集談會。



- 六月廿五日 北島先生の處務十則」医局、各病棟にはり附けらる。
六月廿八日 抄読會。
七月九日 富士山救護先発隊出発。
七月十日 富士山救護開始。
七月十一日 受持交代。夏期休暇前半始る。
七月十三日 鍋島君豫備役召集出発。
七月十四日 小野田君送別、弓削君歓迎會（職員食堂）
七月十八日 犬養病院新築落成祝。
七月廿三日 小野田君剣路赴任。上野駅出発。
七月卅一日 水村先生「胸の痛にて一夜入院」
八月九日 今井君虫様突起炎手術。
八月十一日 本館別館交代。
八月廿日 久崎君生理より入局。
八月廿二日 當直室に南京虫出現、退治に就き硬軟両論囂々
八月廿四日 水村先生令息、佐藤青両君突様突起炎手術。

九月一日 萩尾君下谷病院交代勤務、

防空演習、病棟の燈火管制頗る好成绩。医局の間に束じてビールの栓を抜く音頻々たり。ナヤン到来。

九月十日 富士山救護終了。

野崎君虫様突起炎手術。

九月十一日 清水川股関節臼にて来院。病院のベットは生憎普製、万策盡きて

床上に莫莖を敷きて手術を行ふ。

岩原君、大曾根君に紀念品發送。

九月十三日 葛原君赤痢入院。

九月十五日 犬養元講師虫様突起炎手術。

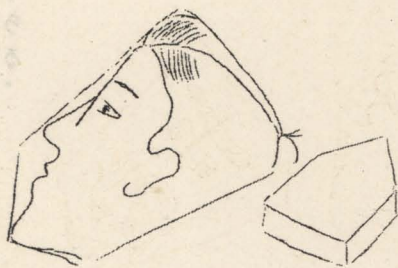
九月廿一日 関西颯風被害頻々、医局内にて義金を募る。

九月廿日 对青山外科競技會、懇親會幸采。

競技惜敗するも酒量に於て復讐す。

十月五日 医局内俄然將棋流行。

此の二人頗程將棋うまくなし。(梅函参照)



へホ以下の将棋指しあり。ゴミ将棋。

十月八日 刀林編輯會議（神楽坂）。熟議夜を徹し（翌朝

医局に帰れる者、特に肉体的疲労を訴ふ。変れくは編輯

記）。

十月十一日 中村久万吉氏密かに入院。特種の賞與を狙ふ新

聞記者連、廊下に右往左往。

十月十二日 相見君寄贈の松茸に左利連狂喜す。而して联想

に及んでは悲喜交々。

十月十四日 医局野球リーグ対神経科戦、快勝。

十月十五日 三田医学部豫科教室全焼。

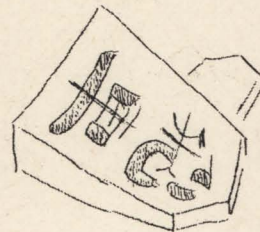
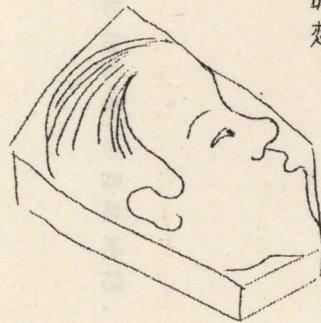
佐藤太平先生、加藤銀君來訪。

十月十九日 山本順君來訪。

十月廿一日 浅辺君（館山）來訪。

十月廿二日 鍋島君軍艦より帰局。

十月廿三日 抄讀會。



水村先生誕生祝、萩尾君送別、久崎君歓迎會（職員食堂）二次會幸來。

十月廿四日 医局野球リーグ戦対医化学薬物聯合軍・大勝。

十月廿六日 集談會。

十月廿九日 慶早野球戦昨日同様惜敗。

十一月一日 珍客万來。戸田（小田原）中村（土肥富田（津）小万（五所ヶ原）の四君來訪。

十一月二日 中村、富田両君歓迎有志會（雅紋園）

十一月五日 福澤先生誕生百年祭記念展覧會。

十一月六日 右展覧會慰勞會（幸來）

十一月八日 慶應医学會第十五回總會、大内君講演。

井上（太郎）君來訪。

十一月十一日 栗本君日赤講習會のため上京來訪

十一月十二日 医局野球リーグ決勝戦対婦人科 優勝。

野球祝勝會、井上、栗本両君歓迎會（幸來）

十一月十三日 抄讀會

十一月十四日 三四會運動會。野球、リレー優勝賞ビール二打に先生より御馳

走を奇贈され祝勝會頗る盛大。

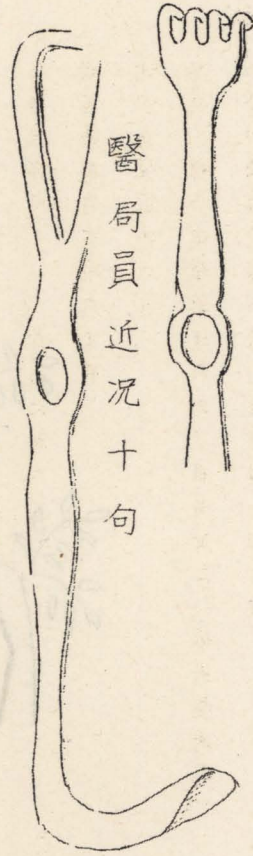
十一月十九日 医局にストーフ御見見得。

十一月廿日 小泉君結婚「目出度さや画筆持つ手も新家庭」(祝電)

十一月廿七日 宮尾君、竹内君、山田(庸)君送別會。



醫局員近況十句



基酣、待ちだ待ちだ（町田）と名乗るなり。
敏ちやんは髪と腹丈け立てぬなり（他ハ不知）。
酔歩せば帽子飛び散る小道（ちやん）哉。
角さんの将棋は角で詰まされる。
お殿様アツペを刻む癖を持ち。
艦上で鍋さん船に焦るなり。
照井殿鬚で新來診せられる。
新婚も月に七日は銷沈（頼尾ちん）し。
昨晚の川越の旦那朝詣（靖国神社帰路）。
壬手箱開けば父ちやん（藤ちやん）若返り。

同窓會會員名簿

(昭和九年十二月現在)
入局順 ○印八在局者

四谷區東信濃町二八(四谷四五六八)

○ 茂水藏之助

四谷區三光町五四(四谷六一一六)

大養六郎

福岡縣嘉穗郡桂川村平山鉾業所醫院

成松清敬

札幌市北四條西十五丁目一(北大柳外科)

柳壯一

神奈川縣鎌倉材木座

大庭國紀

中野區沼袋南二丁目一六〇

中村復一郎

大森區田園調布三丁目八〇(調布七七五)

○ 梅村六郎

麻布區笄町八〇(青山六五二五)

○ 水村博

新寫縣柏崎本町六丁目

高桑武夫

水戸市鷹匠町六九一

柴沼薰

神奈川縣小田原舊年町四丁目五七三(仁天堂病院)

戸田四郎平

神奈川縣都築郡田奈村長津田一四二四

森信彦

川崎市貝塚一・二

深川區西平井町九三

茨城縣結城郡結城町一四一六

蒲田區新宿町三六九

芝區白金三光町二六九（高輪六六八〇）

桐生市西久方町二丁目七八六

南蕨洲四平街病院

長野縣 富士見高原療養所

芝區齊生會病院舍宅

岐阜縣武儀郡西武藝村

小樽市 小樽病院

京都市東山区山科竹鼻

杉並區和泉町三四一

群馬縣高崎市柳川町六二 綿貫病院

深川區木場三丁目八

三二四

阿部 貞治

片柳 常作

稻葉 俊雄

大槻 正路

○ 町田 謙二

赤松 常信

高木 宗吉

中村 武重

鎌田 竹次郎（休）

山田 晟

山本 順

本郷 光美

關 市衛

今井 金治

新田 龜三

宮城縣牡鹿郡石卷町新田町三九

栃木縣栃水町萬町二丁目

阿佐ヶ谷區四丁目九〇（秩窪二〇八九）

大連市楓町九〇

靜岡市鷹匠町（靜岡三三一） 靜岡日赤

杉並區馬橋五二九（陸軍）

茨城縣港町 大曾根病院

杉並區東田町二丁目一六四

樺太廳真岡病院官舎（不詳）

澁谷區代々木採田一六六七

樺太大泊 三橋外科病院

福井縣遠敷郡小湊町住吉八三

橫濱市中區本郷町三丁目一五九

千葉縣北條館山町長須賀 館山病院

大分縣北海郡小佐井村

上石英造

澤江六太郎

篠原靜夫

牛久昇治

佐藤太平

林利治

大曾根幾次郎

○ 神山敏雄

中村勝之助

近藤宗彦

三橋弘

濱野碩太郎

豐田秀徳

渡邊治生

神野登晴

富山縣高岡市旅籠町

熊本縣鹿本郡山鹿町

岩手縣和賀郡黑澤尻町 和賀病院

品川區五反田三丁目一五（病理）

八王子市八日町三一

北海道十勝國帶廣町

福島縣石城郡四倉町

目黒區駒場町七九七 橫濱濟生會病院

橫濱市鶴見區生麥町三八（鶴見三四六）

杉並區清水町二一〇（荻窪三三五四）

靜岡市大岩宮下町一一七 靜岡日赤

山口縣大津郡人丸

西宮市中濱町五

四谷區右京町二二（理學科）

足利市伊勢町

三二六

吉崎純

竹下貫一

高巢三四一

駒井忠雄

四條龍作

小内昇

木村守江

原廣治

佐藤盛二

橫山虎雄

川田正雄

吉野史朗

中村次郎

桑野鐵四郎

捨田榮

赤坂區青山南町三丁目四九

四谷區須賀町四二 電燈病院

朝鮮京城府漢江通二丁目一（二四号官舎）

中野區本町通四丁目二六（病理）

淺草區七軒町四 東京痔病院

赤坂區青山北町三丁目六七

麻布區新網町一丁目五五

愛知縣渥美郡二川町

杉並區成宗一丁目一〇一

中野區大和町二丁目二一五

麻布區本村町二二五（高輪九二五）

青森縣五所河原町 増田病院

前橋市北曲輪町

小樽市 小樽病院

江戸川區小岩町二丁目二五九〇（解剖）

岩原寅猪

森文雄

松井八郎

河内野弘徳

高橋福三郎

藤原道純

古川明

松橋一

君塚正

鍋島勉

前田和三郎

村上晋

關口林五郎

井上太郎

吉岡勝衛

静岡縣田方郡土肥村土肥尾形別荘（土肥慶應堂病院）

ブラヂル・リオ・デ・ヂャネイロ

横濱市本牧町ニ丁目三六二

世田ヶ谷區代田ニ丁目六八二

澁谷區千駄ヶ谷四丁目六二二

横濱市 眞金町病院

杉並區萩窪ニ丁目六五（生理）

北海道釧路市 博濟病院

大連市星ヶ浦黒石礁六七

静岡市春日町一ニ六三ノ五 静岡日赤

静岡縣濱松市 森下病院

埼玉縣川越市小仙波一ノ一

世田ヶ谷區代田一丁目六五二ノ五

浅草區藏前三丁目一〇ノ一八

三重縣一志郡小野江村西井病院

三二八

中村 廣人

八木 勝郎

土方 久顯

百定 七郎

瀨尾 宥三

小口 守一

弓削 中

小野田 肇

加藤 銀治郎

志田 元秀

森下 貫一

橋本 文吾

蓮江 英男

堀田 善二郎

富田 勝郎

世田ヶ谷區代田一丁目五一五（寄生蟲）

静岡縣伊東町 伊東病院

本郷區富士前町四八

長野縣小諸町赤坂町 樋口病院

浅草區田中町二丁目一〇

中野區昭和通一丁目二一 昭和アパート内

麻布區新網町一丁目二〇 （藥物）

神戸市葵區菊水町九丁目一七一

兵庫縣川辺郡小濱村米谷 山口方

澁谷區伊達町五一

横濱市山下町 山下病院

在ブラヂル

茨城縣 日立鉾山病院本山分院

中野區上高田一丁目四七

大森區新井宿四丁目九八四（大森一〇二八）

小方則太郎

小澤武雄

○ 田村信介

田中周吉

辻岡元

○ 武藤藤太郎

布留文夫

寺田泰三

相見三郎

○ 酒井欣郎

森 豊明

細江静男

須名元中

○ 若林研爾

神山地真氣

滿洲國遼陽滿鐵醫院外科

橫濱市中區西戸部町七二二（病理）

靜岡市安東三丁目六一

日本橋區桶町一〇（浪花二六四六）

杉並區阿佐ヶ谷 三丁目五〇四（萩窪三三一六）

芝區白金三光町二六九

中野區打越町二四

赤坂區新町四丁目一八（青山七二六四）

豊島區駒込五丁目九八〇

青水市入江岡六七八

四谷區南町七六

四谷區東信濃町八 水野留吉方

本橋區弓町一丁目二六

城東區龜戸町六丁目一一〇 有川方（近衛步兵第二聯隊附）

目黒區洗足一四七三ノ四（荏原三六二〇）

三三〇

成内 穎三郎

森山 成一

栗本 勝之進

梶島 彦次郎

島田 信勝

明榮 治部輔（孫）

照井 侃

井手 行孚

伊藤 國男

板橋 剛

畠中 卓助

門橋 勇

龍野 一雄

中村 寛

野崎 寛三

杉並區東田町一丁目五 四	○ 古 山 實
淀橋區西大久保二丁目二 八三（四谷二五五）	○ 小 平 正
澁谷區永住町一五（青山五 五〇八）	○ 齋 藤 修 二
滿洲國撫順滿鉄医院	○ 宮 尾 啓
中野區大和町八四（中野二 一六七）	○ 伊 藤 原
青森縣西津輕郡水造町 増 田分院	萩 尾 又 八
横須賀市不入斗二二六 横 須賀重砲兵聯隊附	大 岡 係 司 係
杉並區馬橋四丁目五五一	○ 大 塚 廣
芝區白金臺町一丁目八三	○ 釜 江 省 司
荒川區日暮里渡辺町一〇五 五（下谷五六三六）	○ 高 橋 眞 雄
牛込區新小川町二丁目 江戸 川アパー卜内	○ 中 野 宗 夫
小石川區久堅町六九（小石川 四二〇九）	○ 長 坂 謙 三
目黒區東町三一	○ 山 口 恒 造
牛込區市ヶ谷河田町一一 山中 方（牛込六三三）	○ 重 盛 福 七 郎
金澤市彦三三番町 金城病院 外	水 村 知 孝

横濱市神奈川區桐畑四〇

○ 渡邊 敬

横濱市鶴見區市場四七七 清水方

○ 佐藤 憲一

四谷區大番町一八

○ 山田 迪

世田ヶ谷區太子堂町一〇一

○ 今井 秀雄

小石川西丸町九

○ 大内 正夫

澁谷區原宿二丁目一七〇 前澤方

○ 渡 隼

葛飾區上平井町二九一四

○ 菅 千里

世田ヶ谷區世田ヶ谷二丁目二〇二四 (近衛步兵第三
旅隊入営中)

○ 竹内 實彦

本郷區湯島一丁目七

○ 鶴澤 敏三

赤坂區青山高樹町一ニ 菱刈方(青山五二二一)

○ 葛原 信一

神田區神保町二丁目二ニ(九段二一二六)

○ 山田 庸夫

豊島區駒込區四丁目一ニ

○ 小島 茂

淀橋區淀橋七二六 丸山方

○ 佐藤 壽郎

牛込區新小川町二丁目 江戸川アパート内

○ 小泉 次郎

中野區高圓寺四丁目五二七

○ 久崎 章

編輯後記

又々例に依つて例の如きものが出来ましたが、本年こそはいよく刀林の材料も甚だ心細いと存じまして先輩諸兄に對して極めて御無理な註文を致しました處、委員に御同情下さいまして誠に御熱心な御投稿を得ました事は委員一同の感謝措く能はざる處であるにも拘はらず御詫びしなればありませぬ事は刀林の豫定の頁数や經費の都合で、折角の玉稿の一部を削除忝加せし部分のある事で、之は眞に無禮千萬のことですが悪しからず御了怒を願ひます、併しこれは一面刀林の隆盛を意味するもので來年こそはと云ふ期待を大いにかけて得るものと信じます。

又本年は茂木先生の台湾紀行の玉稿を得て本誌を飾り得ました事及委員に非らざる小平君を種々の挿繪に於て煩はした事を感謝致します。

(橋本記)

昭和九年十二月十五日印刷
昭和九年十二月十七日發行

(非賣品)

東京市四谷區西信濃町廿二番地

發行者

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室同窓會

編輯者

橋本文吾

不許
複製

印刷所

田中騰寫堂

東京市牛込區神泉町一ノ十二

電話牛込一五二一

東京市四谷區西信濃町廿二番地

發行所

慶應義塾大學醫學部
外科整形外科教室

